

目 次（ 2025年度教養科目 ）

＜岡山キャンパス＞

英会話 [PP⑤]	1
英会話 [FC①]	3
英会話 [FC②] + FC再履修者	5
英会話 [FE③] + FE再履修者	7
英会話 [BC③]	9
英会話 [BC④] + BC再履修者用	11
英会話 [BC留学生①]	13
英会話 [BC留学生②]	15
英会話 [FE①]	17
英会話 [BC①]	19
英会話 [BC②]	21
英会話 [FE②]	23
英会話 [PP①]	25
英会話 [PP②]	27
英会話 [PP③]	29
英会話 [PP④]	31
英会話 [PP⑥] + PP再履修者	33
英会話 [PH①]	35
英会話 [PH②] + PH再履修者	37
英会話 [PS①]	39
英会話 [PS②]	41
英会話 [PS③] + PS再履修者用	43
体育理論	45
体育実技 [FE①②]	47
体育実技 [BC留学生用]	48
体育実技 [PH用]	50
体育実技 [BC①]	52
体育実技 [BC②]	54
体育実技 [FC用]	56
体育実技 [FE③]	57
体育実技 [BC③④]	58
英語Ⅰ [全学科（上級者対象）][不開講]	60
英語Ⅰ [全学科（中級者対象）]	62
英語Ⅰ [[FC/FE/PP/PS/PH用（初級者対象）]	64
英語Ⅱ [全学科（中級者対象）]	66
英語Ⅱ [全学科（上級者対象）]	68
コンピュータリテラシーⅠ [FE2521組用]	70
コンピュータリテラシーⅠ [FE2522組用]	72
コンピュータリテラシーⅠ [PP2531組用]	74
コンピュータリテラシーⅠ [PP2532組用]	76
コンピュータリテラシーⅠ [PP2533組用]	78
コンピュータリテラシーⅠ [BC2531組用]	80
コンピュータリテラシーⅠ [BC2532組用]	82
コンピュータリテラシーⅠ [BC2533組用]	84
コンピュータリテラシーⅠ [PS留学生用]	86
コンピュータリテラシーⅠ [PS2521組用]	88
コンピュータリテラシーⅠ [PS2522組用]	90
コンピュータリテラシーⅠ [PH用]	92
コンピュータリテラシーⅠ [FC用]	94
コンピュータリテラシーⅠ [BC留学生用]	96
コンピュータリテラシーⅡ [FE2521組用]	98
コンピュータリテラシーⅡ [PP2531用]	100
コンピュータリテラシーⅡ [PP2532用]	102

目 次（ 2025年度教養科目 ）

コンピュータリテラシーⅡ [PP2533用]	104
コンピュータリテラシーⅡ [FE2522組用]	106
コンピュータリテラシーⅡ [BC2521組用]	108
コンピュータリテラシーⅡ [BC2522組用]	110
コンピュータリテラシーⅡ [BC留学生用]	112
コンピュータリテラシーⅡ [PS2521組用]	114
コンピュータリテラシーⅡ [PS2522組用]	116
コンピュータリテラシーⅡ [PS2523組用]	118
コンピュータリテラシーⅡ [PH用]	120
コンピュータリテラシーⅡ [FC用]	122
コンピュータリテラシーⅢ	124
コンピュータリテラシーⅣ	125
統計学	127
英語Ⅲ	128
英語Ⅳ	130
TOEICⅠ	132
TOEICⅡ	133
TOEICⅢ	134
TOEICⅣ	135
心理学 [A]	136
心理学 [B]	137
哲学	138
コミュニケーションの心理学	139
人権と教育 [A]	140
人権と教育 [B]	141
人権と教育 [C]	142
ライフコーチング	143
コーチング基礎 Co-creative coaching Basic	145
ビジネスコーチング	146
表現活動による人間力養成Ⅰ	147
表現活動による人間力養成Ⅱ	148
表現活動による人間力養成Ⅲ	149
表現活動によ	150
食育論	151
食育論	152
生命科学基礎	153
数学基礎Ⅰ [A]	154
数学基礎Ⅰ [B]	155
数学基礎Ⅱ	156
自然科学基礎	157
日本国憲法 [教員免許希望者用]	159
日本国憲法 [BC・FC用]	160
日本の伝統文化 [A]定員40抽選あり	161
日本の伝統文化 [B]定員40 抽選済	162
近現代史	163
地理・地政学	164
キャリアサポート [企業]	165
キャリアサポート [教職]	166
キャリアサポート [公務員]	168
キャリアサポート [幼保]	169
キャリアサポート [健康科学科用]	170
キャリアサポート [BC留学生用]	171
キャリアデザインⅠ [企業]	172
キャリアデザインⅠ [教職]	174
キャリアデザインⅠ [公務員]	176
キャリアデザインⅠ [幼保]	177
キャリアデザインⅠ [BC留学生用]	178
キャリアデザインⅠ [健康科学科用]	179
キャリアデザインⅡ [企業]	180

目 次（ 2025年度教養科目 ）

キャリアデザインⅡ [教職]	182
キャリアデザインⅡ [公務員]	184
キャリアデザインⅡ [幼保]	185
キャリアデザインⅡ [健康科学科用]	186
キャリアデザインⅡ [BC留学生用]	187
基礎ゼミナールⅠ [通年]PH用	188
基礎ゼミナールⅠ [再履修]FC用	189
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PH用	190
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PS用	191
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PP用	192
基礎ゼミナールⅠ [再履修]BC用	193
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	195
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	196
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	197
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	198
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	199
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	200
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	201
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	202
基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用	203
基礎ゼミナールⅡ [再履修]PP用	204
基礎ゼミナールⅡ [再履修]BC用	205
多文化共生のための異文化理解	206
IPUジェネリックスキルズⅠ (非認知能力) [再履修者]	207
IPUジェネリックスキルズⅡ (アカデミック) [再履修者]	208
非認知能力育成Ⅰ [BC用]	209
非認知能力育成Ⅰ [再履修者用]	211
非認知能力育成Ⅰ [PS用]	212
非認知能力育成Ⅰ [PH用]	214
非認知能力育成Ⅰ [FC用]	215
非認知能力育成Ⅰ [FE2522組用]	216
非認知能力育成Ⅰ [FE2521組用]	217
非認知能力育成Ⅰ [PP用]	218
ボランティア活動	219
ゼミナールⅠ (基礎)	220
フレッシュマンセミナー [通年]PH用	221
フレッシュマンセミナー [通年]PH用	223
フレッシュマンセミナー [通年]PH用	225
フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用	227
フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用	229
フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用	231
フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用	233
フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用	235
フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用	237
フレッシュマンセミナー [通年]BC留学生用	239
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	241
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	243
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	245
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	247
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	249
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	251
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	253
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	255
フレッシュマンセミナー [通年]PP用	257
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	259
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	261
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	263
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	265
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	267

目 次（ 2025年度教養科目 ）

フレッシュマンセミナー [通年]PS用	269
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	271
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	273
フレッシュマンセミナー [通年]FE用	275
フレッシュマンセミナー [通年]FC用	277
フレッシュマンセミナー [通年]FC用	279
フレッシュマンセミナー [通年]FC用	281
キャリアディベロップメント [通年]PH用	283
キャリアディベロップメント [通年]PS用	285
キャリアディベロップメント [通年]PS用	287
キャリアディベロップメント [通年]PS用	289
キャリアディベロップメント [通年]PS用	291
キャリアディベロップメント [通年]PS用	293
キャリアディベロップメント [通年]PP用	295
キャリアディベロップメント [通年]PP用	297
キャリアディベロップメント [通年]PP用	299
キャリアディベロップメント [通年]PP用	301
キャリアディベロップメント [通年]PP用	303
キャリアディベロップメント [通年]PP用	305
キャリアディベロップメント [通年]PP用	307
キャリアディベロップメント [通年]PP用	309
キャリアディベロップメント [通年]PP用	311
キャリアディベロップメント [通年]FE用	313
キャリアディベロップメント [通年]FE用	315
キャリアディベロップメント [通年]FE用	317
キャリアディベロップメント [通年]FE用	319
キャリアディベロップメント [通年]FE用	321
キャリアディベロップメント [通年]FC用	323
キャリアディベロップメント [通年]FC用	325
キャリアディベロップメント [通年]BC日本人用	327
キャリアディベロップメント [通年]BC日本人用	329
キャリアディベロップメント [通年]BC日本人用	331
キャリアディベロップメント [通年]BC日本人用	333
キャリアディベロップメント [通年]BC日本人用	335
キャリアディベロップメント [通年]BC留学生用	337
キャリアディベロップメント [通年]BC留学生用	339
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用	341
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用	343
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用	345
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用	347
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用	349
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用	351
基礎ゼミナールⅠ [通年]BC留学生用	353
基礎ゼミナールⅠ [通年]PH用	355
基礎ゼミナールⅠ [通年]PH用	357
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	359
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	361
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	363
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	365
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	367
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	369
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	371
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	373
基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用	375
基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用	377
基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用	379
基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用	381
基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用	383
基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用	385

目 次（ 2025年度教養科目 ）

基礎ゼミナールⅠ [通年]FC用	387
基礎ゼミナールⅠ [通年]FC用	389
基礎ゼミナールⅠ [通年]FC用	391
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	393
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	395
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	397
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	399
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	401
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	403
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	405
基礎ゼミナールⅡ [通年]PH用	407
基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用	409
基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用	411
基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用	413
基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用	415
基礎ゼミナールⅡ [通年]FC用	417
基礎ゼミナールⅡ [通年]FC用	419
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用	421
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用	423
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用	425
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用	427
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用	429
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC留学生用	431
基礎ゼミナールⅡ [通年]BC留学生用	433
基礎ゼミナールⅡ [再履修]PH用	435
ゼミナールⅠ (基礎)	437
ゼミナールⅠ (基礎)	439
ゼミナールⅠ (基礎)	441
ゼミナールⅠ (基礎) [秋入学生用]	443
ゼミナールⅡ (応用)	445
ゼミナールⅠ (BC秋入学生用)	447
 <東京キャンパス>	
コンピュータリテラシーⅠ [①]	449
コンピュータリテラシーⅠ [③]	450
コンピュータリテラシーⅠ [②]	451
コンピュータリテラシーⅠ [④]	452
コンピュータリテラシーⅡ [①]	453
コンピュータリテラシーⅡ [③]	454
コンピュータリテラシーⅡ [④]	455
コンピュータリテラシーⅡ [②]	456
体育実技Ⅰ [b]	457
体育実技Ⅱ (b)	458
心理学	460
コミュニケーションの心理学	462
人間と法	464
基礎ゼミナールⅡ	466
基礎ゼミナールⅡ	468
基礎ゼミナールⅡ	470
基礎ゼミナールⅡ	472
基礎ゼミナールⅡ	474
基礎ゼミナールⅡ	476
基礎ゼミナールⅡ	478
基礎ゼミナールⅡ	480

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP⑤]				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let's Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FC①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FC②] + FC再履修者				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りテキストに沿って、覚えだけ、受け身的な態度だけの学習ではなく、ペアワークやグループワークを大いに取り入れます。教室にいながらも、英語でコミュニケーションをとる機会を出来るだけ作ります。前向きに取り組み、英語を声に出して発話してください。主体的に、積極的に取り組む態度を評価します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、2つのプレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice

13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE③]+FE再履修者				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC③]				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let's Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC④] + BC再履修者用				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りテキストに沿って、覚えだけ、受け身的な態度だけの学習ではなく、ペアワークやグループワークを大いに取り入れます。教室にいながらも、英語でコミュニケーションをとる機会を出来るだけ作ります。前向きに取り組み、英語を声に出して発話してください。主体的に、積極的に取り組む態度を評価します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC留学生①]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業時間外でも15分程度で英語のニュースをきくようにおすすめします。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places;

14	Unit 12: Customs	planning a fun day out Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC留学生②]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業 科目名	英会話 [FE①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC②]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業時間外でも15分程度で英語のニュースをきくようにおすすめします

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places;

14	Unit 12: Customs	planning a fun day out Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE②]				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let's Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP②]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業時間外でも15分程度で英語のニュースをきくようにおすすめします。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places;

14	Unit 12: Customs	planning a fun day out Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP③]				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りテキストに沿って、覚えだけ、受け身的な態度だけの学習ではなく、ペアワークやグループワークを大いに取り入れます。教室にいながらも、英語でコミュニケーションをとる機会を出来るだけ作ります。前向きに取り組み、英語を声に出して発話してください。主体的に、積極的に取り組む態度を評価します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP④]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP⑥]+PP再履修者				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りテキストに沿って、覚えだけ、受け身的な態度だけの学習ではなく、ペアワークやグループワークを大いに取り入れます。教室にいながらも、英語でコミュニケーションをとる機会を出来るだけ作ります。前向きに取り組み、英語を声に出して発話してください。主体的に、積極的に取り組む態度を評価します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業 科目名	英会話 [PH①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PH②] + PH再履修者				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let's Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PS①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams

12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業 科目名	英会話 [PS②]				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、2つのプレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others;asking for personal information;giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance;describing personality characteristics;discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies;describing sports characteristics;discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families;discussing living arrangements;describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences;giving compliments; suggesting gifts;discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey;discussing famous places;talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits;planning a meal; describing traditional mealsand unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows;taking a TV survey;planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles;taking health and sleep habit quizzes;discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things;discussing problems andgiving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions;talking about cities; recommending places;planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners;comparing customs

15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PS③]+PS再履修者用				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good

		advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10104				区 分	教養科目			
授業科目名	体育理論				担当者名	片桐 夏海／梶谷 亮輔／保科 圭汰／浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

<授業の到達目標>

体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

本講義は、オンデマンド方式でグーグルクラスルームを用いて、必要に応じて資料を提示し体育理論の解説・講義を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本講義では、講義動画の視聴後に、自らの生活状況を踏まえた運動計画を立案・提出する課題を通じて、学んだ知識の応用と自己の行動への反映を促している。この活動は、知識の定着にとどまらず、分析や評価、計画立案といった高次の思考を伴い、学修者が主体的に学ぶアクティブラーニングの要素を備えている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業 から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、レポート・小テストを50%で評価する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	考えてみよう私たちと運動	自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。
2	身につけよう運動	体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。
3	学校における体育の役割	身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。
4	見つめよう心と体	学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。
5	運動と栄養	運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。
6	生活習慣病の種類とその予防	日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。
7	脳と身体のつながり	脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。
8	生涯スポーツの意義	今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちにとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FE①②]				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニング、器械運動、アダプテッドスポーツを実践するだけでなく自身の体力や運動技能、運動そのものの楽しさについて分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能、取り組みやすさを分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法や楽しく運動の望めるようにする方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信された資料からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法や誰もが運動を楽しめるようにするための方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動	この後の授業でも適宜実施、トップガン見学など
3	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
4	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
5	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
6	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
7	器械運動	マット運動、跳び箱など
8	器械運動	マット運動、跳び箱など
9	器械運動	マット運動、跳び箱など
10	器械運動	マット運動、跳び箱など
11	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技〔BC留学生用〕				担当者名	大井 理緒			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループでの体力・技能分析やディスカッション、タブレットを用いた動作の振り返り、事前動画視聴による予習、レポートによる内省的学習などを通じて、主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブラーニングを取り入れる。これにより、単なる技能習得にとどまらず、問題解決力やコミュニケーション力を育成することを目指している。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（パドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（パドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダプテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム

15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養			
授業科目名	体育実技 [PH用]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

数あるスポーツの中でも、プラスチック製の円盤形状をしたフリスビー™を使用して行われるフライングディスクスポーツ（FLYING DISC SPORTS）がある。「フリスビー™」とは商品名であるため、フライングディスク（ディスク）という名称が使われている。一般社団法人日本フライングディスク協会（JFDA）によると国内での正式種目は12種目（アルティメット・ビーチアルティメット・ガッツ・ディスクゴルフ・フリースタイル・ダブルディスクコート・ディスクソン・ディスタンス・アキュラシー・マキシマムタイムアロフト・ス

<授業の到達目標>

本授業を通して、新しいスポーツの文化に触れて不思議な魅力を感じて欲しい。本授業で実施する競技は、ディスタンス・ディスクゴルフ・ガッツ・ダブルディスクコート・アルティメットの5種目とする。特にアルティメット競技では、各選手が選手であり審判（自己審判性：セルフジャッジ制）でもある非常に珍しいスポーツであり、SOTG（Spirit Of The Game）という紳士的な基本理念に基づき競技が行われる。本学が育成する非認知能力を伸ばすために最も適したスポーツだと考える。本授業を通して、フェアプレー精神に対する責任

<授業の方法>

サッカーラグビー場または体育館にてディスクの投げ方の技術練習を行う。必要に応じて資料を配付する。体育実技（PH用）は、ディプロマポリシー1 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野を通して、他者と付き合い、感情のを調整し、目標を達成できる。また、ディプロマポリシー2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。技術習得には、一般社団法人日本フライングディスク協会の公認指導者資格制度にある公認指導者認定試験ディスクアドバイザー3級を参考に確認テストを実施する。知識

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）7～9人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業最初に発表する。（毎回、1時間程度）復習：確認小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席50%（欠席は減点、67%以上の出席が必要）学習意欲（ディスクの技術など）30%小テスト（フライングディスクスポーツ競技の理解：各競技について説明できる、ルールを理解するなどペーパーテストを実施）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション基礎投法①	技術練習（バックハンスロー・キャッチの方法）
2	基礎投法②	技術練習（バックハンスロー・フォアハンスロー・キャッチの方法など）
3	基礎投法③	技術練習（バックハンスロー・フォアハンスロー・アップサイドダウンスロー・カーブスロー・キャッチの方法など）
4	基礎的技術と知識の確認	基礎的技術習得確認のための記録会（ディスタンス・アキュラシー競技（的通りゲーム）など）知識の確認（確認小テスト：ペーパーテスト）
5	個人競技①	ディスクゴルフを体験する
6	個人競技②	ディスクゴルフを体験する（ラウンドほか）
7	集団ゲーム①	ガッツを体験する
8	集団ゲーム②	ガッツを体験する（試合形式での実践）
9	集団ゲーム③	ダブルディスクコートを体験する
10	集団ゲーム④知識の確認（確認小テスト：ペーパーテスト）	ディスクの技術確認これまで行ったフライングディスク競技の知識確認アルティメット競技を体験する
11	集団ゲーム⑤	ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う①
12	集団ゲーム⑥	ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う②
13	集団ゲーム⑦	ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う③

14	集団ゲーム⑧	ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う④SOTG (Spirit Of The Game) を実践する
15	集団ゲーム⑨	まとめルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う④SOTG (Spirit Of The Game) を実践する
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC①]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループでの体力・技能分析やディスカッション、タブレットを用いた動作の振り返り、事前動画視聴による予習、レポートによる内省的学習などを通じて、主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブラーニングを取り入れる。これにより、単なる技能習得にとどまらず、問題解決力やコミュニケーション力を育成することを目指している。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダプテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム

15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC②]				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

該当スポーツ種目の戦術や技術などについてグループで包括的な議論を実施することで、スポーツ活動を通したコミュニケーション能力を養うとともに巧みな身体操作能力の習得を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用方法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム

15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FC用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニング、器械運動、アダプテッドスポーツを実践するだけでなく自身の体力や運動技能、運動そのものの楽しさについて分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能、取り組みやすさを分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法や楽しく運動の望めるようにする方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信された資料からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法や誰もが運動を楽しめるようにするための方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動	この後の授業でも適宜実施、トップガン見学など
3	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
4	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
5	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
6	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
7	器械運動	マット運動、跳び箱など
8	器械運動	マット運動、跳び箱など
9	器械運動	マット運動、跳び箱など
10	器械運動	マット運動、跳び箱など
11	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FE③]				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニング、器械運動、アダプテッドスポーツを実践するだけでなく自身の体力や運動技能、運動そのものの楽しさについて分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能、取り組みやすさを分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法や楽しく運動の望めるようにする方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信された資料からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法や誰もが運動を楽しめるようにするための方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動	この後の授業でも適宜実施、トップガン見学など
3	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
4	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
5	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
6	球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
7	器械運動	マット運動、跳び箱など
8	器械運動	マット運動、跳び箱など
9	器械運動	マット運動、跳び箱など
10	器械運動	マット運動、跳び箱など
11	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC③④]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループでの体力・技能分析やディスカッション、タブレットを用いた動作の振り返り、事前動画視聴による予習、レポートによる内省的学習などを通じて、主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブラーニングを取り入れる。これにより、単なる技能習得にとどまらず、問題解決力やコミュニケーション力を育成することを目指している。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダプテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム

15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10116				区 分	教養科目			
授業科目名	英語 I [全学科（上級者対象）][不開講]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones（2007年9月1日） Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions

12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10116				区 分	教養科目			
授業科目名	英語 I [全学科（中級者対象）]				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones（2007年9月1日） Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and

		solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10116				区 分	教養科目			
授業科目名	英語 I [[FC/FE/PP/PS/PH用（初級者対象）]]				担当者名	武 幸枝			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーションなどの活動を取り入れる。これにより、知識の理解を深めるとともに、自ら考え他者と協働する力を育てる。主体的に学ぶ姿勢を重視し、実践的な課題にも取り組んでいく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones（2007年9月1日） Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a

		new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10203				区 分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ〔全学科（中級者対象）〕				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones（2007年9月1日） Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press
特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines;

14	Unit 12: Relationships	role-playing an interview Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10203				区 分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ [全学科 (上級者対象)]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スケジュール・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.

12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ [FE2521組用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅠでは、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

習等）※時間数と内容 講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [FE2522組用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

習等）※時間数と内容 講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PP2531組用]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PP2532組用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PP2533組用]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

近年は、ビッグデータやAIの利活用に関し、米国や中国の巨大企業等を中心とした競争が激化しており、国内外の経済成長の要因も従来の労働力・資本・技術革新から、データから価値を生み出す産業領域へと大きくシフトしている。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、「データ」をもとに事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得すること、すなわち「データ思考を涵養すること」を学ぶ。そのためには、コンピュータ操作スキルの習熟が必要であり、デスクトップアプリケ

<授業の到達目標>

本授業では、データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、コンピュータの構造やインターネットの仕組みを正しく学びつつ、コンピュータの利活用能力を習得することを第一の目標とする。特にグラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google ドキュメント（以下、Docs）・スライド（以下、Slides）、Microsoft Word・PowerPointといった必須ソフトの基本的な操作技術を学びながら、文書作成の実践を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテ

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有授業内課題に係るグループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

吉岡剛志 AIデータサイエンスリテラシー入門 技術評論社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	社会で活用されているデータ 検索、ファイル共有とデータ・AIを利活用する際に求められるリスク・脅威
3	Eメールとドキュメント作成環境	データを守る上での留意事項情報セキュリティ、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）図形描画と画像の挿入	スクリーンショット、図形挿入と描画ツール、画像処理、アクセスビリティを考える
6	Word・Docsビジネス文書（3）スマートアート	スマートアートを基に文章のまとめ、アウトラインを考える
7	Word・Docsレポート（1）表組	文字を表にする、表組を使って体裁を整える
8	Word・Docsレポート（2）スタイルとデザイン	スタイルやテンプレートの意義を考える
9	Word・Docsレポート（3）レポート作成	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
10	Word・Docs総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPoint・Slideプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint・Slide基本操作とスライドマスター設定

12	PowerPoint・Slideアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPoint・Slideプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint・Slide目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint・Slide総合課題	プレゼンテーション資料や配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [BC2531組用]				担当者名	高鷲 翔／宇都宮 浩司			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [BC2532組用]				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [BC2533組用]				担当者名	高 鷲 翔／岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

	料制作	
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PS留学生用]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ [PS2521組用]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅠでは、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ [PS2522組用]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅠでは、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシー I [PH用]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [FC用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシー I [BC留学生用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [FE2521組用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2531用]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2532用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2533用]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [FE2522組用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [BC2521組用]				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [BC2522組用]				担当者名	高鷲 翔／宇都宮 浩司			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグルー

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅠでは、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [BC留学生用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

P Cメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PS2521組用]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PS2522組用]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PS2523組用]				担当者名	金谷 和幸			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PH用]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [FC用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術習得すること数的・論理的思考を身に付けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル

14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10206				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をはじめ、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識など幅広い分野の総合的知識を問う科目である。講義は、よりITの高みを目指すため、ITパスポート試験単元の内「テクノロジー系」を中心に進める。履修条件として、「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」を単位習得済みであること。

<授業の到達目標>

ITを正しく理解し、効果的にITを活用することのできる「IT力」を身に付けるため、以下のことを理解し、正しくPCを活用できることを目標とする。1. ハードウェアに関する知識 2. ソフトウェアに関する知識 3. コンピューターの動作原理 4. 情報数学 5. 表計算ソフトの仕組み 6. データベースの知識 7. ネットワークの仕組み

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習と講義形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、事前課題に関する小テストを行った後、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、少人数のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させたレポートや成果物を授業内課題として毎回提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べる。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨む

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 15%、毎回の講義内課題 45%、総合課題 40%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認、ITパスポート試験の概要説明
2	コンピューター概論	最も身近なコンピュータ、0と1の世界、最新技術
3	ハードウェアⅠ	コンピュータの種類、パソコンの種類、コンピュータの五大装置
4	ハードウェアⅡ	情報量を表す単位、進数
5	ハードウェアⅢ	入出力装置
6	ハードウェアⅣ	記憶素子、記憶装置、RAMとROM
7	ハードウェアⅤ	ハードディスクの記憶容量、ハードディスクのアクセス速度
8	ソフトウェアⅠ	OSとアプリケーションソフト
9	ソフトウェアⅡ	ジョブ管理、ファイル管理、タスク管理、記憶管理
10	総合課題	これまでのまとめ（中間試験）
11	コンピューターシステムⅠ	システム構成技術、コンピュータシステムの分類
12	コンピューターシステムⅡ	コンピュータシステムの性能を表す指標
13	コンピューターシステムⅢ	コンピュータシステムの信頼性、稼働率の計算
14	コンピューターシステムⅣ	コンピュータシステムの応用技術
15	総合課題	講義のまとめ（期末試験）
16		

科目コード	10207				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅣ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、学校現場、公務員、企業等の職場で必要とされるIT利活用力に対応した内容である。コンピュータリテラシーの高度な技術の解説とコーディング実習を行い、社会人として必要となるICTスキルを身に付ける。具体的には、Excelの関数機能だけではなくマクロ（VBA）が使えること、データの種類や特性を知ることによってデータを正しく収集・処理・分析をし、PowerPointやExcelのグラフ機能、また、Googleのスプレッドシート等のクラウドを使用して外部へ正しく発信する方法などを学習する。さらに、プログラミング

<授業の到達目標>

社会人として必要となる以下のICTスキルを身に付けることを目標とする。１．Excel VBAによるデータ処理技術、２．Scratchによるプログラミング授業の指導力、３．正しいデータの処理手法（収集・処理・分析・発信）、４．情報セキュリティの知識とその指導力

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストは、教員がデジタルにて配信するか、または、授業中に指示するWebサイトから入手する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有2～3人のグループでの作業（発表用スライドの作成、データ収集作業、ディスカッション等）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べる。こと。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨む

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 15%、毎回の講義内課題 45%、総合課題 40%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認、企業が求めるITスキルの確認
2	情報セキュリティ	SNS、メール、ネット利用における情報セキュリティに関する問題を考える
3	プログラミング（１）	プログラミングについての解説、デジタル教材やデジタル教科書の導入についての課題について考える
4	プログラミング（２）	AI（人工知能）についての解説、教育現場におけるAI導入の課題について考える
5	プログラミング演習（１）	Excelの関数機能の復習、VBAによるデータ処理についての解説と演習
6	プログラミング演習（２）	VBAによるデータ処理の演習
7	クラウド処理について（１）	Google Classroom、Google Formsを使用した授業の組み立てとアンケートの取り方
8	クラウド処理について（２）	Google Suiteの利用についての解説と演習
9	データサイエンス（１）	データ収集（データの質と種類）
10	データサイエンス（２）	データ分析とデータの読み方
11	データサイエンス（３）	PowerPointとExcel、Google スライドとスプレッドシートを使用したデータの発信方法について
12	プログラミング演習（３）	プログラミング体験（Scratch）①
13	プログラミング演習（４）	プログラミング体験（Scratch）②
14	総合課題（１）	グループ発表会①
15	総合課題（２）	グループ発表会②

科目コード	10301				区 分	教養科目			
授業科目名	統計学				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

初めに、統計学の基礎となる平均・分散・標準偏差について学習する。これらの値は、与えられたデータの特徴を知る ための簡単な手法としてよく知られている。ここでは、計算はもとより意味や内容を十分に理解しておくことが重要である。次に、偏差値・度数分布表・ヒストグラムなどの基本事項を確認する。更に、2つのデータ間の関係を知るために有効な、相関図・共分散・相関係数・回帰直線などを学習後、確率変数と分布について検討を行い、2項分布・ポアソン分布及び正規分布とその応用について学習する。最後に母数の推定及び検定の考え

<授業の到達目標>

一般的によく利用される、平均値の算出から始まり、分散、標準偏差、共分散、相関係数、回帰直線、検定の内容を十分理解し、実際のデータに対して手計算で算出できることを目標とする。

<授業の方法>

教科書代わりのプリントを配付し、それに基づいて解説する（45分程度）。また講義の理解を助けるために、講義時間内に問題演習を行う（45分程度）。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に、当日の授業内容を確認し、テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（予習60分）。また、毎回の講義時に、演習問題を出题するので、次回講義開始時 までに自力で解答できるようにしておくこと（復習60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、講義内課題 45%、期末試験 40%

<教科書>

<参考書>

小林敬子 著（1996） 基礎統計学 学術図書出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	統計の基礎（統計的データ）	データの種類、 Σ （シグマ）の意味の説明と演習
2	統計の基礎（基本用語の解説）	平均、分散、標準偏差の説明と演習
3	データの処理（計算表の利用方法）	計算表の作成とその利用方法の説明と演習
4	データの処理（基本数値の算出手法）	仮平均を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
5	データの処理（他の基本数値の算出手法）	度数表を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
6	データの処理（応用）	仮平均と度数表の両方を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
7	確率変数と確率分布（統計用語）	度数分布表、ヒストグラムの解説と演習
8	確率変数と確率分布（基本的な分布）	正規分布の解説と演習
9	確率変数と確率分布（身近な統計的数値を算出するための準備）	標準化の解説と演習
10	確率変数と確率分布（偏差値の算出）	偏差値の解説と演習
11	回帰と相関（基本用語の解説と算出手法）	相関図、共分散、相関係数の解説と演習
12	回帰と相関（回帰直線の算出）	回帰直線の解説と演習
13	確率変数と確率分布（その他の分布）	確率、二項分布、ポアソン分布の解説と演習
14	検定（仮説検定の意味）	独立性の仮説検定、T検定、F検定の演習
15	まとめ	講義のまとめ
16		

科目コード	10302				区 分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅲ				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

Students will engage in speaking and writing at a more advanced level to improve communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communication abi

<授業の到達目標>

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

<授業の方法>

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others.

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

N/A

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Students will also have student-choice in many areas and are expected to research and bring their topics i

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assignment 30%Classwork 30%Presentation 40%

<教科書>

NONE

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance	Class guidelines and introduction
2	Exploring and Solving Problems	Students will use English to find solutions to tasks and puzzles.
3	Music	Students will choose a musical artist/group and evaluate the meaning of a song.
4	Reaction English	Students will learn common English vocabulary for reaction videos and create their own.
5	Reaction English (Make/Present a Reaction Video)	Students make and present a reaction video.
6	Literature	Students will study themes and look for deeper meaning of English literature.
7	English Mid-term Presentation	Student choose a topic and create a Mid-term Presentation
8	Present Student English Mid-Term Presentation	Students present and discuss their Mid-Term Presentations
9	Essay Reading	Students read multiple English essays to build understanding of the format and essential language of essays.
10	Essay Writing	Students learn the skills to write an essay in English.
11	The Art of Conversation	Student focus on how to effectively communicate and strategies to have smooth and continued conversation in English.
12	English Dialogue	Student study meaning and practice English dialogue from student-chosen sources.
13	Final Project Preparation	Students choose a format and prepare a Final Project.
14	Final Project Presentation	Students present and discuss students' Final Projects.

15	Reflection	Student reflect on areas their English has improved and give their thoughts on their overall learning in the class.
16		

科目コード	10401				区 分	教養科目			
授業科目名	英語IV				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

Students are expected to speak and write at advanced levels while imploring effective communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communicatio

<授業の到達目標>

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

<授業の方法>

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others. Student will use Google Classroom to turn in their assignments and are expected to ha

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

Students will be engaged as active learners throughout this course. Student choice will be fostered and accessed to increase communication in English. Students will be able to reflect their own thoughts and solve problems in pairs and groups. Students wil

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Students will also have student-choice in many areas and are expected to research and bring their topics i

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assignment 30%Classwork 30%Presentation 40%

<教科書>

NONE

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance	Class guidelines and introduction
2	Opinions	Students will discuss various topics and learn to give and understand others' opinions.
3	Poetry	Students will build meaning of English poems.
4	Literature	Students will study themes and look for deeper meaning of English literature.
5	Literature (continued)	Students will continue to study themes and look for deeper meaning of English literature.
6	Essay Writing	Students will learn how to write an effective essay.
7	English Mid-term Project	Student choose a topic and create a Mid-term Project
8	Present Student English Mid-Term Project	Students present and discuss their Mid-Term Projects
9	Cultural Understanding	Students read and discuss issues related to their own and world cultures.
10	Technology	Students discuss the issues around technology and our changing society.
11	Global Issues	Student grow awareness of Global Issues and discuss them in English.
12	Debate	Student try to form an opinion on a topic and debate with others to form a consensus.
13	SDG's in English	Students establish understanding of SDG's in English
14	Final Project Preparation	Students prepare their Final Project.

15	Final Project Presentation	Student present their Final Project and reflect on areas their English has improved and/or perspective has changed.
16		

科目コード	10501				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEIC I				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で400程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説、そして小テストを繰り返す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30％）、授業内での小テスト＋学習到達度テスト（70％）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション（TOEICとはどんな試験か）	・ TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	リスニングの基本（1）	・ 英語と日本語の違い・音の変化と強勢・発音と音節
3	リスニングの基本（2）	・ 英文の抑揚・さまざまな数字の聞き取り・重要情報の特定
4	リスニング基本演習と品詞	・ 短文の英語を聞いて答える問題の解法や着眼点・品詞とはなにか
5	名詞と代名詞（1）	・ 名詞と代名詞のはたらき・代名詞の特定（何を指すか）・it
6	名詞と代名詞（2）	・ 基礎事項の再確認・実践演習
7	動詞（1）	・ be動詞と一般動詞・動詞の活用・述語動詞は多機能
8	動詞（2）	・ 基本事項の再確認・実践演習
9	形容詞と副詞（1）	・ 形容詞と副詞・級変化・重要な形容詞
10	形容詞と副詞（2）	・ 基本事項の再確認・実践演習
11	さまざまな文	・ 肯定文・疑問文・否定文・感嘆文・注意すべき否定語・疑問詞と疑問文
12	定期試験	学習到達度試験
13		
14		
15		
16		

科目コード	10502				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEIC II				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で500程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説、そして小テストを繰り返す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日最低45分以上コツコツと学習することが語学上達のカギです。毎日15分間学習を3セットするイメージで学習に取り組みましょう。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30%）、授業内での小テスト＋学習到達度テスト（70%）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストもしくは通常のTOEICの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。 未受験者は単位を認められません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラスガイダンスとオリエンテーション (TOEICの勉強法)	・TOEICの構成・英語の学習法 (Over 500)
2	リスニングの基本	・英語と日本語の違い・音の変化と強勢・発音と音節
3	準動詞 (1)	・不定詞・動名詞・実践演習
4	準動詞 (2)	・分詞・実践演習
5	比較 (1)	・原級・比較級・最上級
6	比較 (2)	・実践演習
7	前置詞と接続詞 (1)	・前置詞・群動詞・接続詞
8	前置詞と接続詞 (2)	・実践演習
9	関係代名詞 (1)	・関係代名詞とは
10	関係代名詞 (2)	・関係代名詞の処理の仕方
11	関係代名詞 (3)	・実践演習
12	総合演習 (1) リーディング中心	TOEIC のPart 5 短文問題の演習
13	TOEIC実践演習 (2) リスニング中心	TOEIC のPart 1& 2 の実践演習
14	TOEIC総合演習	リーディングとリスニングの最終演習
15	定期試験	これまでの最終試験
16		

科目コード	10503				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEICⅢ				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で650程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説をします。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30％）、授業内での小テスト＋学習到達度テスト（70％）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	リスニングの基本	・英語と日本語の違い・音の変化と強勢・発音と音節
3	リスニング基本演習と品詞	・英文の抑揚・さまざまな数字の聞き取り・重要情報の特定・品詞と文の要素
4	名詞と代名詞	・名詞と代名詞のはたらき・代名詞の特定（何を指すか）・it
5	動詞	・be動詞と一般動詞・動詞の活用・多機能な述語動詞・予測
6	形容詞と副詞	・形容詞と副詞・級変化・重要な形容詞
7	さまざまな文	・肯定文・疑問文・否定文・感嘆文・注意すべき否定語・疑問詞と疑問文
8	準動詞	・不定詞・動名詞・分詞
9	比較	・省略・原級・比較級・最上級
10	前置詞と接続詞	・空所補充問題のアプローチ・コロケーション
11	関係代名詞	・thatとwhich・what・TOEICで狙われる関係詞
12	定期試験	学習到達度試験
13		
14		
15		
16		

科目コード	10504				区 分	教養科目			
授業 科目名	TOEICIV				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストもしくは通常のTOEICの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で700以上のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説をします。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30％）、授業内での小テスト＋学習到達度テスト（70％）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・ TOEICの構成および攻略法・英語の学習法
2	Part 1対策	写真描写問題の実践演習と解説
3	Part 2対策	応答問題の実践演習と解説
4	Part 3 対策	会話問題の実践演習と解説
5	Part 4 対策	説明文問題の実践演習と解説
6	Part 5対策	短文穴埋問題の実践演習と解説
7	Part 6対策①	長文穴埋問題の実践演習と解説
8	Part 6対策②	長文穴埋問題の実践演習と解説
9	Part 7対策①	1つの文書問題の実践演習と解説
10	Part 7対策②	複数文章読解問題の実践演習と対策
11	総合演習（1）リーディング中心	チャンクを意識した読み方の確認と演習。
12	総合演習（2）リーディング中心	複数文章読解の演習。
13	総合演習（3）リスニング中心	リスニングPart1&2の演習
14	総合演習（4）リスニング中心	Part3&4の実践演習
15	期末試験	学習到達度試験
16		

科目コード	11101				区 分	教養科目			
授業科目名	心理学 [A]				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

心理学の初学者を対象に、心理学の基礎的事項を講義する。この授業では、心理学の各分野で得られた知見を幅広く学ぶことを通して、心理学的なこころの理解ができるようになることを目標としている。心理学に関する内容として、感情、学習、記憶、思考、発達心理、臨床心理、社会心理、など幅広く学ぶ。

<授業の到達目標>

①心理学が扱うテーマについて説明できる。②いくつかの心理学的アプローチにより、性格や発達が心に与える影響について理解する。③自分や他者が心理的問題を抱えたときの対処方法について理解する。④環境やヒトが物の知覚、認知などに及ぼす影響について理解する。⑤日常生活の中で、心理学がどのように応用されるか説明することができる。

<授業の方法>

・授業形態は、課題に対するディスカッションや、個別支援や集団支援の実際の場合を想定したロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。・レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・フォームなどを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有授業内で、各テーマに沿ったワークを個人或いはグループで実践し、体験的に学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前に指定された課題をGoogleClassroomに提出し、その結果を踏まえて、講義を進める。（1時間程度）・授業中や授業後にレポートを作成し提出することを、適宜復習課題として課す。（1時間程度）・適宜小テストを実施するので、復習をしっかりと行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・発言など）30% 課題レポート2回 50% 小テスト20%課題については、模範となるレポートを示し共有する。提出期限を過ぎた課題は原則受け付けない。

<教科書>

<参考書>

大浦賢治 編著(2022) 実践につながる 新しい教養の心理学 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する。
2	脳とこころ	・脳とこころの関係を探る ・こころの仕組み、働きを知る
3	感情の心理学	・感情のメカニズム ・感情コンピテンス
4	学習と記憶	・学ぶとは？ ・記憶とは？
5	思考	・意思決定 ・確率判断 ・推論
6	発達心理学より①	・幼児期から児童期にかけて
7	発達心理学より②	・青年期以降
8	障害者、障害児の心理	・障害について ・インクルージョン
9	パーソナリティ	・パーソナリティの分類、測り方、社会適応
10	家族心理学より	・家族ライフサイクル ・障害のある子どもと家族 ・児童虐待
11	社会心理学より	・対人関係の相互作用
12	臨床心理学より①	・交流分析 ・ストレスマネジメント
13	臨床心理学より②	・悩みを受け止める姿勢、方法
14	ポジティブ心理学より①	・ウェルビーイングと幸福感 ・レジリエンス
15	ポジティブ心理学より②	・強み ・ポジティブ介入
16		

科目コード	11101				区 分	教養科目			
授業科目名	心理学 [B]				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

心理学の初学者を対象に、心理学の基礎的事項を講義する。この授業では、心理学の各分野で得られた知見を幅広く学ぶことを通して、心理学的なこころの理解ができるようになることを目標としている。心理学に関する内容として、感情、学習、記憶、思考、発達心理、臨床心理、社会心理、など幅広く学ぶ。

<授業の到達目標>

①心理学が扱うテーマについて説明できる。②いくつかの心理学的アプローチにより、性格や発達が心に与える影響について理解する。③自分や他者が心理的問題を抱えたときの対処方法について理解する。④環境やヒトが物の知覚、認知などに及ぼす影響について理解する。⑤日常生活の中で、心理学がどのように応用されるか説明することができる。

<授業の方法>

・授業形態は、課題に対するディスカッションや、個別支援や集団支援の実際の場合を想定したロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。・レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・フォームなどを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有授業内で、各テーマに沿ったワークを個人或いはグループで実践し、体験的に学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前に指定された課題をGoogleClassroomに提出し、その結果を踏まえて、講義を進める。（1時間程度）・授業中や授業後にレポートを作成し提出することを、適宜復習課題として課す。（1時間程度）・適宜小テストを実施するので、復習をしっかりと行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・発言など）30% 課題レポート2回 50% 小テスト20%課題については、模範となるレポートを示し共有する。提出期限を過ぎた課題は原則受け付けない。

<教科書>

<参考書>

大浦賢治 編著(2022) 実践につながる 新しい教養の心理学 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する。
2	脳とこころ	・脳とこころの関係を探る ・こころの仕組み、働きを知る
3	感情の心理学	・感情のメカニズム ・感情コンピテンス
4	学習と記憶	・学ぶとは？ ・記憶とは？
5	思考	・意思決定 ・確率判断 ・推論
6	発達心理学より①	・幼児期から児童期にかけて
7	発達心理学より②	・青年期以降
8	障害者、障害児の心理	・障害について ・インクルージョン
9	パーソナリティ	・パーソナリティの分類、測り方、社会適応
10	家族心理学より	・家族ライフサイクル ・障害のある子どもと家族 ・児童虐待
11	社会心理学より	・対人関係の相互作用
12	臨床心理学より①	・交流分析 ・ストレスマネジメント
13	臨床心理学より②	・悩みを受け止める姿勢、方法
14	ポジティブ心理学より①	・ウェルビーイングと幸福感 ・レジリエンス
15	ポジティブ心理学より②	・強み ・ポジティブ介入
16		

科目コード	11102				区 分	教養			
授業科目名	哲学				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

著名な哲学者2人の言葉を借りれば、哲学とは「驚き」から始まり、それを遂行した結果として「世界の新しいイメージ」を獲得できるものである。それを哲学的な営みと自覚していなかったとしても、われわれは日常において不可思議なことに驚き、それについて探究することで自身の思考が刷新されるという経験をしたことがあるだろう。この授業は、学問としての哲学という枠組みのもとで、そのような経験を洗練させていくものである。その際には、過去の哲学者たちの探究成果を適切な仕方で借り、厳密な論理に基づいて自身の主張を提示する必要がある。

<授業の到達目標>

①哲学においてどのようなことが問題となっているかを理解する。②過去の哲学者たちがそれらの問題にどのように応答したかを説明できる。③①と②に基づき、哲学的問題についての自身の見解を適切に論証しようとする態度を持つことができる。

<授業の方法>

講義を中心に行う。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。哲学的思考は、主体的、対話的で深い学びなくして達成されない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：授業内で提示された参考文献を熟読することで当該トピックについての理解を深める。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価30%、期末試験70%

<教科書>

<参考書>

スティーブン・ロー（2013年8月） 考える力をつける哲学問題集 筑摩書房
 麻生博之、城戸淳 編（2006年5月） 哲学の問題群—もういちど考えてみること ナカニシヤ出版
 ナイジェル・ウォーバートン（2010年7月） 哲学の基礎 講談社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	哲学とは何か？	イントロダクション
2	昨日の私と今日の私は同じか？	心身問題と人の同一性
3	すべてのことはあらかじめ決まっているのか？	自由意志、決定論、偶然性
4	今この世界と異なる世界は存在するのか？	様相と可能世界
5	時は流れるのか？	時間論
6	人とロボットはどこで異なるのか？	意識
7	他人の心を知ることはできるのだろうか？	懐疑論と他我問題
8	その考えはなぜ正しいのか？	知識
9	普遍的なものは（どこに）存在するのか？	普遍論争と個物の存在論
10	なぜそれが芸術なのか？	芸術の定義と美的判断
11	部分が先？全体が先？	部分と全体
12	言葉の意味はどう決まる？	言語の意味
13	本当のこととは何か？	真理論
14	われわれは何のために生きているのだろうか？	人生の意味
15	「それって何の役に立つんですか？」	哲学の「有用性」
16		

科目コード	11300				区 分	教養科目			
授業 科目名	コミュニケーションの心理学				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日常生活や社会生活における人間関係、コミュニケーション、集団行動、社会現象や社会的問題などについて、人間の行動や心理的側面から捉えた概念や考え方を学ぶ。そのうえで、自分と他者との関係や自分らしさについて、毎回の授業で取り組むワークシート課題を通して自ら考える。

<授業の到達目標>

1. 人間関係やコミュニケーションに関係する心理についての基礎的な知識を習得する。2. 他者の思いに耳を傾け相手を尊重する態度を身に付け、自身の意見や考えをまとめ他者に適切に伝えることができる。3. 他者と自分の同異に気づき、自身の内面についてより深く考えることができる。

<授業の方法>

・授業形態は、課題に対するディスカッションや、ロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。・レポート提出の際には、Googleclassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・フォームなども活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業内において、各回のテーマに沿って、個人或いはグループでディスカッションや、ロールプレイ等を行い、体験的に学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前に指定された課題をGoogleclassroomに提出することを前提として、講義を進める。（1時間程度）・講義中や講義後にレポートを作成し提出することを、適宜課題として課す。（1時間程度）・随時小テストを実施するので、復習をしっかりと行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・発言など）30% 課題レポート2回 50% 小テスト20%課題については、模範となるレポートを示し共有する。提出期限を過ぎた課題は受け付けない。

<教科書>

培風館

<参考書>

水國照光ほか（2018） 楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学 培風館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する。
2	自己理解①	自分を知ろう～内面的特徴とコミュニケーション・スキルの理解～
3	自己理解②	・自己紹介をとおした自己開示・互惠性の原理、自己効力感について学ぶ
4	他者理解①	お互いのことをもっと知り合おう・グループ作り、グループ課題に取り組む
5	傾聴訓練①	聴き上手になろう・応答、質問訓練。非言語メッセージへの理解
6	傾聴訓練②	傾聴のスキルを使って信頼関係を築こう・受容と共感
7	前半のまとめと振り返り	・課題レポート作成
8	対人コミュニケーション①	・話し上手になろう・対人葛藤場面への対処・アサーション（アサーティブな自己表現）
9	ノンバーバル・コミュニケーション	ノンバーバル・コミュニケーションを学ぼう ・印象形成、表情、パーソナルスペース
10	認知の違い	自分と他者の「認知」の違いを知ろう ・認知の違いを知って、ミスコミュニケーションを防ぐ
11	対人コミュニケーション②	対人コミュニケーションをゲームで学ぼう・ゲーム課題「ザ・サバイバル」「人狼ゲーム」
12	自己理解③	より良いコミュニケーションのために・自己分析
13	自己理解・他者理解	より良いコミュニケーションのために・分析心理学より
14	他者理解②	より良いコミュニケーションのために・ジェノグラムの活用
15	後半のまとめと振り返り	課題レポート作成
16		

科目コード	11301				区 分	教養			
授業科目名	人権と教育 [A]				担当者名	岩満 賢次			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間が幸せに生きていくためには、お互いの権利を尊重しあうことが大切です。現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

<授業の到達目標>

①人間が所有する権利の種類を説明することができる。②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

<授業の方法>

講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業ごとに授業終了時に課題を提出する（14回×6点＝84点）、最終回の課題（16点）

<教科書>

使用しない

<参考書>

神村早織、森実(2019) 人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく 解放出版社

森実(2013) 知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ) 解放出版社

岩満賢次(2023) 社会連携要論 DTP出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総論	幸せ（ウェルビーイング）に生きるとは
2	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
3	障害者と人権	障害者権利条約と合理的配慮
4	障害者と人権	障害者の地域生活
5	障害児と人権	特別支援教育とインクルーシブ教育
6	要介護者と人権	要介護者への支援の保障
7	高齢者と人権	孤独にならないための保障
8	子どもと人権	子どもの権利条約と意見表明権
9	子どもと人権	子育てとその支援の保
10	若者と人権	ひきこもり状態のある人の生活保障
11	労働者と人権	労働中の事故の保障
12	災害と人権	避難と被災支援の保障
13	差別の形成要因とその対策	福祉教育、福祉コミュニティ形成
14	地域共生社会に向けて	みんなが幸せに生きていくために
15	講義のまとめ	
16		

科目コード	11301				区 分	教養			
授業科目名	人権と教育 [B]				担当者名	岩満 賢次			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間が幸せに生きていくためには、お互いの権利を尊重しあうことが大切です。現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

<授業の到達目標>

①人間が所有する権利の種類を説明することができる。②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

<授業の方法>

講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業ごとに授業終了時に課題を提出する（14回×6点＝84点）、最終回の課題（16点）

<教科書>

使用しない

<参考書>

神村早織、森実(2019) 人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく 解放出版社

森実(2013) 知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ) 解放出版社

岩満賢次(2023) 社会連携要論 DTP出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総論	幸せ（ウェルビーイング）に生きるとは
2	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
3	障害者と人権	障害者権利条約と合理的配慮
4	障害者と人権	障害者の地域生活
5	障害児と人権	特別支援教育とインクルーシブ教育
6	要介護者と人権	要介護者への支援の保障
7	高齢者と人権	孤独にならないための保障
8	子どもと人権	子どもの権利条約と意見表明権
9	子どもと人権	子育てとその支援の保
10	若者と人権	ひきこもり状態のある人の生活保障
11	労働者と人権	労働中の事故の保障
12	災害と人権	避難と被災支援の保障
13	差別の形成要因とその対策	福祉教育、福祉コミュニティ形成
14	地域共生社会に向けて	みんなが幸せに生きていくために
15	講義のまとめ	
16		

科目コード	11301				区 分	教養			
授業科目名	人権と教育 [C]				担当者名	岩満 賢次			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間が幸せに生きていくためには、お互いの権利を尊重しあうことが大切です。現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

<授業の到達目標>

①人間が所有する権利の種類を説明することができる。②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

<授業の方法>

講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業ごとに授業終了時に課題を提出する（14回×6点＝84点）、最終回の課題（16点）

<教科書>

使用しない

<参考書>

神村早織、森実(2019) 人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく 解放出版社

森実(2013) 知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ) 解放出版社

岩満賢次(2023) 社会連携要論 DTP出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総論	幸せ（ウェルビーイング）に生きるとは
2	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
3	障害者と人権	障害者権利条約と合理的配慮
4	障害者と人権	障害者の地域生活
5	障害児と人権	特別支援教育とインクルーシブ教育
6	要介護者と人権	要介護者への支援の保障
7	高齢者と人権	孤独にならないための保障
8	子どもと人権	子どもの権利条約と意見表明権
9	子どもと人権	子育てとその支援の保
10	若者と人権	ひきこもり状態のある人の生活保障
11	労働者と人権	労働中の事故の保障
12	災害と人権	避難と被災支援の保障
13	差別の形成要因とその対策	福祉教育、福祉コミュニティ形成
14	地域共生社会に向けて	みんなが幸せに生きていくために
15	講義のまとめ	
16		

科目コード	11303				区 分	教養			
授業 科目名	ライフコーチング				担当者名	関 京子			
配当年次	2年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、人の可能性を最大限に引き出す長期的かつ効果的な関係「ライフコーチング」を学び、他者が自分らしく生きることを支援する対話の手法を習得することにある。授業は体験学習を基本とし、コーチのあり方とスキルについて実践演習を重ねて体得する。また、コーチングを受ける体験を通じ、自然体の自分に自信を持ち、更に飛躍して生きるための思考を身に付ける。具体的には、自分がもつ静と動のエネルギーからなる「ツイン・エネルギー」を理解し、強みを更に発揮し、秘めた力を磨いて躍進する精神を高めることを目指す。激動の時代に悩

<授業の到達目標>

コーチのあり方とスキル、および「ツイン・エネルギー」を活用する考え方について、その理解度を測れるクライテリアを個別に設定し、一定の基準に到達することを目標とする。具体的には、次の事を目指す。・相手の可能性を信じ、相手の話に耳を傾ける傾聴姿勢を身につける・相手に質問を投げかけ、その人となり認め、相手の答えを引き出すスキルを習得する・自分の静と動のエネルギーをうまく活用・発揮し、自信と飛躍の精神を高める思考を身につける

<授業の方法>

授業の進め方：講義、コーチング・デモンストレーションの観察、2人一組によるコーチング実践ワーク、3人一組でのオブザーバーを入れた実践ワーク、グループ演習などを実施する※授業に関する連絡事項は、すべてGoogle Classroomで行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：講義、コーチング・デモンストレーションの観察、2人一組によるコーチング実践ワーク、3人一組でのオブザーバーを入れた実践ワーク、グループ演習などを実施する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト「ツイン・エネルギー™」の下記ページを事前に読み、授業での実践に向けて準備する。(2～3時間程度)・はじめに (P. 2-5)・ツイン・エネルギーの成り立ち (P. 12-31)・受け取る・与える (P. 39-50)・P. 51以降のページで、自分が一番興味のあるツイン・エネルギーを一つ選ぶ

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席状況と学習意欲 53%、クイズ20%、記述式試験15%、チーム課題12%

<教科書>

関京子（2021年9月1日）『ツイン・エネルギー™』静と動のバランスを整える16の考え方★学内書店では購入できませんので、各自Amazonで購入してください。リンク：<https://amzn.to/3KHSmYM> 幻冬舎

<参考書>

CTIジャパン（2014年3月30日）マンガでやさしくわかるコーチング 日本能率協会マネジメントセンター

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要の紹介
2	コーチのあり方と基礎スキル	デモンストレーション観察・2人一組コーチング練習・講義
3	・ツイン・エネルギーとは・スキル①傾聴	講義・全体演習・デモンストレーション観察・2人一組コーチング練習
4	・ツイン・エネルギーで振り返る自分の力・コーチの好奇心	講義・デモンストレーション観察・2人一組コーチング練習
5	学びの統合	2人一組の対話と学びの振り返り
6	・自信の源にある自然な力とは・スキル②オープンクエスチョン③認知	講義・デモンストレーション観察・全体演習・2人一組コーチング練習
7	・飛躍に活かせる秘めた力とは・スキル④確認	講義・デモンストレーション観察・2人一組コーチング練習
8	・自然な力と秘めた力の掛算による創造・スキル⑤比喻	講義・全体演習・4人一組演習
9	ツイン・エネルギー統合コーチング	統合デモンストレーション観察・3人一組コーチング練習
10	学びの統合	2人一組の対話と学びの振り返り
11	ツイン・エネルギー統合コーチング	講義・まとめのリレーコーチング
12	総合的な理解度の評価採点	2人一組コーチング練習・クイズおよび記述式試験の実施

13	チーム課題	チームによる個別テーマの振り返り・課題発表準備
14	チーム課題	チームによる課題発表・フィードバック
15	まとめ	学びの発表と講評
16		

科目コード	11304				区 分	教養科目			
授業科目名	コーチング基礎 Co-creative coaching Basic				担当者名	稲垣 友仁			
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、対人支援に役立つコーチングの基礎スキルを学ぶことを目的とする。特に、相手の自律性を基軸に置きながらコーチとクライアントとの共創的な対話を創り出す部分にフォーカスをしていく。具体的には、国際コーチング連盟(ICF)のコアコンピテンシーに定められた下記の3つの分野にフォーカスし、演習を通して体験的に学んでいく。・1日目テーマ:「効果的なコミュニケーション/Co-creative coaching Basic「Communication」」相手の自律性を大切にしながら、対話を行うコミュニケーション（聞

<授業の到達目標>

相手の目標達成を支援するために、共創的な対話が進められるよう以下のスキルについての知識を獲得すると同時に、体験を行うことで理解を深める。・傾聴、承認、質問などのコーチングスキルの必要性を理解できる。・相手と関係性を築くスキルの必要性を理解し、関係性をシステムとして捉える思考を身につける。・目標達成に向けての進め方を理解し、具体的なデザインを行うことができる。

<授業の方法>

この授業は実習、演習、講義形式で行われる。本授業はアクティブラーニング80%程度で進められる。※授業に関する連絡事項は、すべてGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの方法は、グループワーク、グループディスカッション、簡単なプレゼンテーション、コーチングロールプレイを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各日の授業後、授業時に実施したワーク等のふりかえりや日常生活との関連について考えるなど、授業内容と自分自身とのつながりについてレポートを提出。また指定された資料を読むなどの課題を求める場合もある。1日あたり、3時間程度の授業外学習時間が必要。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価の配分は、実習・演習・講義への取り組み60%、レポート・課題40%とし、全体で60%以上を合格とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、コーチングとは
2	聞く	講義・演習を通して傾聴スキルを学ぶ
3	質問	講義・演習を通して質問スキルを学ぶ
4	承認	講義・演習を通して承認スキルを学ぶ
5	フィードバック・提案 コーチングロールプレー	講義・演習を通してフィードバック・提案スキルを学び、これまで学んだすべてのスキルを使ってコーチングを体験する
6	関係づくり	人間関係における目には見えない力学的部分に意識を向け、相手と関係を作る方法を探る
7	相手に応じた関わり	相手の特徴に応じた関わり方を行う
8	関係性の力学を見抜く	人間関係に起こるシステムについて理解し、相手との関係に起こる力学的作用を感じる
9	集団への力学の応用	集団に対して関係性の力学をどのように使うか理解する
10	関係性を活かしたコーチングスキル	関係性に必要なコーチングスキルを演習を通して学ぶ
11	コーチのポジショニング	コーチングを使って相手と関わる際のポジショニングを演習を通して体感する
12	コーチングフロー	目標達成に向けて相手の導き方を演習を通して学ぶ
13	目標設定	自律的に取り組むための目標設定の方法について学ぶ
14	行動計画	決めたことをやり抜くための行動計画の立て方について学ぶ
15	コーチングロールプレー	3人1組で観察者も入れながらコーチングロールプレーを行う
16		

科目コード	11305				区 分	教養			
授業 科目名	ビジネスコーチング				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は社会人基礎能力の中から対人スキルについて着目し、コミュニケーション能力を伸ばすためにコーチングのスキルを学ぶ。特に傾聴力や質問力を高める。コーチング心理学やポジティブ心理学に基づいた理論を理解するだけでなく、ビジネスで活かせるコーチングスキルを体得する。スポーツコーチングとは異なる。履修人数が多い場合は、審査を行う。

<授業の到達目標>

ピアコーチングをすることで自己分析や自己発見をし、他者理解も促進する。傾聴力や質問力が身に付くことで人間関係力ひいては非認知能力が高まる。

<授業の方法>

講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

上記のディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

該当テーマについて事前にテキストを読み、授業での実践に向けて準備する。また復習として二人一組でコーチングを実施して、学んだスキルを更に深める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度と意欲 60%、課題の提出20%、最終的なスキルの習得度合い20%。課題については、グーグルクラスルーム上で各自へコメントを返し、スキルの習熟度については授業中に随時直接フィードバックをする。

<教科書>

CTIジャパン マンガでやさしくわかるコーチング 日本能率協会マネジメントセンター

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法を伝える。この授業の特徴とコミュニケーションの基本について理解する。
2	コーチングとは	教育におけるコーチングの定義と特性を理解する。（心の在り方とスキル）
3	自己分析と自分の強み	他者を知る前に自分を知るために、パーソナリティ診断やストレングスカードを使ったワークをする。
4	コーチングの基礎スキル①	傾聴、反映のスキルの効用を理解する。
5	コーチングの基礎スキル②	認知、励ましのスキルを理解し、体得する。
6	コーチングの基礎スキル③	比喩のスキル、俯瞰のスキルを学ぶ。
7	中間の振り返り	前半に習得したスキルをグループでさらに深める。
8	外部講師招へい	プロフェッショナル・コーチを招へいして、仕事としてのコーチングについて理解を深める。
9	コーチングを学問する	コーチングのアカデミックな側面や海外事情について知る。コーチング会話モデルであるGROWモデルを学ぶ。
10	コーチングの基礎スキルの統合	傾聴、反映、認知、励まし、比喩、俯瞰のスキルやGROWモデルを実習する。
11	プロフェッショナル・コーチによる特別授業/ポジティブ心理学コーチング	外部からプロ・コーチを招聘して特別授業をする。またポジティブ心理学に基づいたコーチングについて理解を深める。
12	コーチングの基礎スキルをさらに深める	これまで演習したスキル（傾聴、反映、認知・励まし、比喩、俯瞰）や心構えを復習する。
13	コーチング技術の診断①	習得したスキルを診断、フィードバック
14	コーチング技術の診断②	習得したスキルを診断、フィードバック
15	まとめ	各自の成果発表と総括。
16		

科目コード	11404				区 分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成 I				担当者名	大橋 節子／渡邊 亮／塚本 千晴／四宮 貴久			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動を活動の主軸とし、レジリエンスを培いながら自己表現方法を開発していく授業である。歌やダンスを通して、声の表現技法や異なる身体表現法・プレゼンテーションスタイルに挑戦していくことで、ユニークに自身を表現する方法を探究していく。

<授業の到達目標>

音楽・歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法に触れる中で、自己理解を深め自分らしく表現することが出来る基礎を築く。また、表現活動によって培うことのできる非認知能力についての知識を獲得する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。各回のテーマに沿って、理論と実技を並行して行う。また、アクティブラーニングの一環として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設け、学期末には期末レポートと併せて成果発表のショーを実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小グループに分かれグループワークをしたり、成果発表に向けて活動を行っていく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：授業での学びを振り返り、自身の学習過程を課題にまとめる。また、必要に応じて振り付けや歌詞の復習を行う。※1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

グループワークへの貢献40%、クラスルーム課題30%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	アイスブレイク	アイスブレイク、プレゼンテーション課題
3	身体表現、音楽表現（１）	インプロヴィゼーション（即興演劇）の表現方法に関する考察、プレゼンテーションの準備
4	身体表現、音楽表現（２）	ダンスを通じた身体表現、プレゼンテーション発表
5	身体表現、音楽表現（３）	歌を通じた音楽表現
6	身体表現、音楽表現（４）	手話を通じた身体表現、合唱を通じた音楽表現
7	グループ創作（１）	グループ創作に向けてテーマ設定を行い、検討する
8	グループ創作（２）	グループ創作に取り組む
9	グループ創作（３）	グループ創作演目の修正、改善を行う
10	表現教育の効果や意義	レジリエンスや自尊感情といった非認知能力と、表現教育の関係について考察する
11	成果発表リハ、準備（１）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
12	成果発表リハ、準備（２）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
13	成果発表リハ、準備（３）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
14	成果発表会	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表を行う
15	学習のまとめ	グループワークやレポート課題を通して、学習の成果を言語化する
16		

科目コード	11405				区 分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅱ				担当者名	大橋 節子／渡邊 亮／塚本 千晴／四宮 貴久			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現活動による人間力養成Ⅰで学習した歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動、及びレジリエンスの知識を応用し、岡山聾学校にて表現活動の実践指導を行う。指導に必要な手話や聴覚障害への指導上の配慮や工夫についても学習する。※「表現活動による人間力養成Ⅰ」を履修済みの学生が対象

<授業の到達目標>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導上の配慮や工夫について考えながら実践指導を行う。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。小グループにて個々の意見について話し合い、学期末にはアウトリーチ実習として学外の実際の教育現場にて学習の成果を実践する。授業外の実技実習として岡山聾学校での保健体育におけるダンス指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習（手話、指導上の配慮や工夫）30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	即興演劇と教授法	インプロビゼーション（即興演劇）を通して、日々の多様な状況に有益であることを様々な活動を通して学ぶ
3	身体表現、音楽表現（１）	身体の動きと音楽を通して身体表現を学ぶ
4	身体表現、音楽表現（２）	表現方法に関する考察、プレゼンテーションの準備
5	教授法と実践（１）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
6	教授法と実践（２）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
7	教授法と実践（３）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
8	教授法と実践（４）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
9	手話、聴覚障害について（１）	手話クラス、聴覚障害について学習する
10	手話、聴覚障害について（２）	指導上の配慮や工夫について学習する
11	指導計画	指導演目を習い、役割・指導計画を検討する
12	模擬指導（１）	模擬指導の準備を行う
13	模擬指導（２）	模擬指導、振り返り、改善
14	成果発表会	1年目クラスの学生と合同で成果発表を行う
15	アウトリーチ実習（実践指導）	この授業で学習した内容を用いて、新たな環境での実践演習を行う
16		

科目コード	11408				区 分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅲ				担当者名	大橋 節子／渡邊 亮／塚本 千晴／四宮 貴久			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現活動による人間力養成ⅠⅡで学習した表現活動やその知識、実践指導の経験を生かし、学外の学校現場にて発展的な実践指導を行う授業である。表現教育の実践者として、参加者の非認知能力獲得を促していく立場となる。※「表現活動による人間力養成Ⅰ・Ⅱ」を履修済みの学生が対象

<授業の到達目標>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導目的を達成するための指導計画や指導上の工夫を組み込んだ発展的な実践指導を行う。参加者の非認知能力獲得を促す指導計画について、考察する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。学習の成果として、学外の学校現場において実践指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	事前学習(1)	実践指導先の学校や児童・生徒に関する事前学習
3	事前学習(2)	指導演目の学習
4	指導計画(1)	指導役割、指導計画を作成する
5	指導計画(2)	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	実践指導(1)	実践指導
8	実践指導(2)	実践指導
9	実践指導(3)	実践指導
10	実践指導(4)	実践指導
11	実践指導(5)	実践指導
12	実践指導(6)	実践指導
13	実践指導(7)	実践指導
14	実践指導(8)	実践指導
15	学習のまとめ	実践指導の振り返り
16		

科目コード	11409				区 分	教養科目			
授業 科目名	表現活動による人間力養成Ⅳ				担当者名	大橋 節子／渡邊 亮／塚本 千晴／四宮 貴久			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現活動による人間力養成ⅠⅡⅢで学習した表現活動やその知識、実践指導の経験を生かし、学外の学校現場における実践指導を運営していく授業である。表現教育の実践者として、参加者の非認知能力獲得を促していく立場となる。 ※「表現活動による人間力養成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修済みの学生が対象

<授業の到達目標>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導目的を達成するための指導計画や指導上の工夫を組み込んだ発展的な実践指導を運営する。参加者の非認知能力獲得を促す指導計画について、考察する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。学習の成果として、学外の学校現場において実践指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	事前学習(1)	実践指導先の学校や児童・生徒に関する事前学習
3	事前学習(2)	指導演目の学習
4	指導計画(1)	指導役割、指導計画を作成する
5	指導計画(2)	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	実践指導(1)	実践指導
8	実践指導(2)	実践指導
9	実践指導(3)	実践指導
10	実践指導(4)	実践指導
11	実践指導(5)	実践指導
12	実践指導(6)	実践指導
13	実践指導(7)	実践指導
14	実践指導(8)	実践指導
15	学習のまとめ	実践指導の振り返り
16		

科目コード	12103				区 分	教養科目			
授業科目名	食育論				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

<授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内で配布した資料は必ず目を通し、課される課題を復習として行う。（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題，意見交換，小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011） 食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT） 講談社
辻とみ子・堀田千津子（2017） 新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	食育・食生活の概念	食行動、食生活の機能および構成因子
2	食育基本法の概要	法令制定の経緯・理念と内容
3	栄養素の機能および意義	五大栄養素の働き
4	栄養素の消化・吸収の機構	栄養素の消化・吸収
5	食生活と健康	朝食の欠食、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育、コショク
13	ライフステージ別の食育③	成人期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15	食事バランスガイドの概要と活用	食事バランスガイドを活用した振り返り
16		

科目コード	12103				区 分	教養科目			
授業科目名	食育論				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

<授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内で配布した資料は必ず目を通し、課される課題を復習として行う。（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011） 食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT） 講談社
辻とみ子・堀田千津子（2017） 新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	食育・食生活の概念	食行動、食生活の機能および構成因子
2	食育基本法の概要	法令制定の経緯・理念と内容
3	栄養素の機能および意義	五大栄養素の働き
4	栄養素の消化・吸収の機構	栄養素の消化・吸収
5	食生活と健康	朝食の欠食、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育、コショク
13	ライフステージ別の食育③	成人期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15	食事バランスガイドの概要と活用	食事バランスガイドを活用した振り返り
16		

科目コード	12104				区 分	教養科目			
授業科目名	生命科学基礎				担当者名	大塚 愛二			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ヒトをはじめとする生物の体は、最小単位としての細胞からなっている。この授業では、生命活動を細胞レベルで学修する。「細胞がどのような構造と機能をもっていて、どのような生命活動を行っているのか」、「多種多様な細胞がどのように働いているのか」について高校生物を履修していない学生も理解できるように初歩的な段階からの学修を行う。

<授業の到達目標>

日常的に知ることのできる生命科学に関する情報の中で細胞生物学に関する事項を正しく理解する。細胞の一般的な構造と機能を説明できる。細胞内小器官を説明できる。遺伝子の情報からタンパク質が作られる過程を説明できる。細胞分裂を説明できる。多種多様な細胞を例示しその概略を説明できる。

<授業の方法>

一般向けに編集された生命科学に関する書籍の内容を理解できるよう講義する。小テスト（ワークシート）を毎回実施し、各回の授業内容のポイントを整理し、知識の定着を図る。Google Classroomを用いて授業運営、資料提供、課題管理を行う。※本授業はデジタルオンデマンド教材等使用し行うため、ノートPCまたはタブレット端末等を準備の上、受講すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

質問と応答を繰り返しながら、授業を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【準備学習】Google Classroomに示された各授業のキーワードを事前に学ぶ（予習40分）。復習ワークシートを自ら解答する（復習40分）。【その他の授業時間外学習】課題提出（自己学習40分／週）。準備学習に必要な資料はClassroomに置く。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回のワークシート（25%）、中間試験（25%）、期末試験（25%）、課題レポート（25%）により評価する。課題レポートのテーマ設定と提出方法については、別途指示する。

<教科書>

<参考書>

中村真哉 編（2024年10月） ニュートン別刷 人体ではたらく細胞のすべて ニュートンプレス
 Albertsほか著、中村桂子ほか監訳（2021年7月） Essential細胞生物学 南江堂
 和田勝（2020年11月） 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 羊土社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と生命科学の序論
2	生命の基本単位：細胞	生命とは何か、その基本単位としての細胞について
3	細胞核	細胞核の構造と機能について
4	遺伝子の発現	DNA上の遺伝情報をもとにタンパク質を合成するしくみ
5	小胞体とゴルジ装置	作られたタンパク質のその後
6	ミトコンドリア	ミトコンドリアとエネルギー生成について
7	細胞膜	細胞膜の構造と機能について
8	中間まとめ	第1～7回のまとめと中間試験（とその解説）
9	細胞骨格	細胞骨格をつくる分子とモーター分子
10	細胞分裂	細胞分裂のしくみと分化・成長
11	減数分裂と生殖	減数分裂のしくみと生殖
12	細胞の分化と多様性	細胞の分化と体内の多種多様な細胞
13	体を守る細胞たち	免疫系の細胞と生体防御のしくみ
14	細胞の科学と医療	幹細胞、再生医療、細胞の寿命
15	総括	第9～14回を中心としたまとめと期末試験（とその解説）
16		

科目コード	12203				区 分	教養科目			
授業科目名	数学基礎 I [A]				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、「①数学の基礎学力を身につけること」、「②数学とはどのような学問かを理解すること」、「③数学を活用・応用できる力を獲得すること」である。義務教育で履修する数学の基本事項を確認しつつ、「世の中の現象や仕組みを理解するための数学的なものの見方」、「問題解決のための数学的な思考法」、「身の回りの生活や社会での応用例」も学んでいく。

<授業の到達目標>

数学の「数と式」や「関数」の内容について幅広い知識を学ぶ。具体的には、3つ以上の数の最小公倍数と最大公約数の計算方法やその活用方法、1次関数、2次方程式、速さの問題（速さの基本、旅人算、通過算、流水算）、割合の問題（濃度、売買算）などを扱う。これらを通して、数学の基礎知識を深めることを到達目標とする。

<授業の方法>

1.（個人）問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4.（個人）確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループに分かれて数学の問題や話題に対して議論し、協力し合いながら解答の作成を行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習（1時間）、2. 前回の確認テストの直し（0.5時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内確認テスト 70%、定期試験 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	整数(1)	ガイダンス、数学概論
2	整数(2)	剰余
3	整数(3)	x^2+y^2 の値
4	整数(4)	最大公約数・最小公倍数
5	割合(1)	速さの基礎問題
6	割合(2)	速さの応用問題
7	割合(3)	濃度
8	関数(1)	一次関数
9	関数(2)	二次関数
10	関数(3)	関数の応用
11	時計算	時計算
12	日暦算	日暦算
13	仕事算	仕事算
14	まとめ、振り返り、総合演習	まとめ、振り返り、総合演習
15	まとめ、振り返り、総合演習	まとめ、振り返り、総合演習
16		

科目コード	12203				区 分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅰ [B]				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、「①数学の基礎学力を身につけること」、「②数学とはどのような学問かを理解すること」、「③数学を活用・応用できる力を獲得すること」である。義務教育で履修する数学の基本事項を確認しつつ、「世の中の現象や仕組みを理解するための数学的なものの見方」、「問題解決のための数学的な思考法」、「身の回りの生活や社会での応用例」も学んでいく。

<授業の到達目標>

数学の「数と式」や「関数」の内容について幅広い知識を学ぶ。具体的には、3つ以上の数の最小公倍数と最大公約数の計算方法やその活用方法、1次関数、2次方程式、速さの問題（速さの基本、旅人算、通過算、流水算）、割合の問題（濃度、売買算）などを扱う。これらを通して、数学の基礎知識を深めることを到達目標とする。

<授業の方法>

1.（個人）問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4.（個人）確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループに分かれて数学の問題や話題に対して議論し、協力し合いながら解答の作成を行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習（1時間）、2. 前回の確認テストの直し（0.5時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内確認テスト 70%、定期試験 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	整数(1)	ガイダンス、数学概論
2	整数(2)	剰余
3	整数(3)	x^2+y^2 の値
4	整数(4)	最大公約数・最小公倍数
5	割合(1)	速さの基礎問題
6	割合(2)	速さの応用問題
7	割合(3)	濃度
8	関数(1)	一次関数
9	関数(2)	二次関数
10	関数(3)	関数の応用
11	時計算	時計算
12	日暦算	日暦算
13	仕事算	仕事算
14	まとめ、振り返り、総合演習	まとめ、振り返り、総合演習
15	まとめ、振り返り、総合演習	まとめ、振り返り、総合演習
16		

科目コード	12204				区 分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅱ				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、「①数学の基礎学力を身につけること」、「②数学とはどのような学問かを理解すること」、「③数学を活用・応用できる力を獲得すること」である。義務教育で履修する数学の基本事項を確認しつつ、「世の中の現象や仕組みを理解するための数学的なものの見方」、「問題解決のための数学的な思考法」、「身の回りの生活や社会での応用例」も学んでいく。

<授業の到達目標>

数学の主に図形分野について学ぶ。具体的には、平面図形の性質・角度・面積に関する内容、そして空間図形の性質・表面積・体積・展開図に関する内容である。加えて、規則性・数列の内容や、中学校や高校の数学では学ばない離散数学・グラフ理論の内容も扱い、数学と実社会や身の回りの生活との関わりも学ぶ。これらの学習を通して、数学の基礎学力を身につけることはもちろん、学問としての数学を理解し、数学を活用・応用できる力を獲得することを到達目標とする。

<授業の方法>

基本的には次の流れで行う。1. 個人またはグループで問題を解く(または成果物を作成する)。2. 解説を行う。3. 個人で定着度確認テストを解く。4. 解説を行う。復習ができるよう、授業で扱ったスライド資料と略解を加えた定着度確認テストをClassroomに後日アップする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループに分かれて数学の問題や話題に対して議論し、協力し合いながら解答や成果物の作成を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習(1時間)、2. 前回の確認テストの直し(0.5時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内での定着度確認テスト 50%、定期試験 30%、授業内の活動の振り返りレポートと成果物の提出 20%とする。定着度確認テストの採点により、フィードバックを行う。

<教科書>

指定しない

<参考書>

指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	図形に関する基礎知識
2	平面図形(1)	図形の裁ち合わせパズル
3	平面図形(2)	多角形の角、平行線と角
4	平面図形(3)	三角形、四角形、円の面積
5	平面図形(4)	複合図形の面積
6	平面図形(5)	合同と相似①
7	平面図形(6)	合同と相似②
8	空間図形(1)	空間図形の基礎知識、表面積と体積①
9	空間図形(2)	表面積と体積②、多面体と展開図
10	数列(1)	等差数列
11	数列(2)	規則性、いろいろな数列
12	離散数学とグラフ理論(1)	グラフ理論の基本、一筆書き
13	離散数学とグラフ理論(2)	身の回りの数学
14	まとめ、振り返り、総合演習	まとめ、振り返り、総合演習
15	まとめ、振り返り、総合演習	まとめ、振り返り、総合演習
16		

科目コード	12303				区 分	教養科目			
授業科目名	自然科学基礎				担当者名	川村 康文			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

身近にある科学について知ることから、自然現象はどのようにして起こっているのかを学ぶ。そして日常生活において身近にある科学に興味を持ち、自然科学の重要性を学ぶ。身近な環境問題などを含め探求心を強めることによって、調べる力を身に付け、グループワークやディスカッションを通して論理的思考を養い、使用する力を身に付ける。

<授業の到達目標>

1. 自然科学について興味をもつことができる2. 論理的思考について理解し、使用することができる3. 疑問に思ったことをすぐに調べることができる4. 調べた事柄について相手が理解できるように話ができる

<授業の方法>

1. グループワークとして自然科学について興味のある事柄を実験をととして学ぶ2. チームでプレゼンテーションと相互評価を行う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、授業内容についてチームでプレゼンを行い相互評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書をよく読んで、次回のテーマについて予備実験とリハーサルを行う（1時間程度）復習：講義内容について理解できなかった部分を教科書で確認したり、チームで集まって確認する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）30%、プレゼンテーション 40%、振り返り（レフレクション）30% 等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド 自然科学とはどういう学問か	オンデマンド自然科学とはどういう学問かー自然を理解するために必要なこと自然科学はどのような歴史を刻んできたかーアリストテレス→ガリレオ→ニュートン→アインシュタイン
2	対面エネルギー環境問題	対面分光つづめる電球1個からのSDGs オンデマンド山も川も大好き・リサイクル7・つながる思いのうちから、各班で1曲を選び、振り付け動画を作成して、アップして下さい。山も川も大好き
3	オンデマンド環境問題とサイエンス・コミュニケーション	https://www2.hamajima.co.jp/~elegance/kawamura/song/yamasuki.html リサイクル7 https://www2.hamajima.co.jp/~elegance/kawamura/song/recycle7.html つながる思い（旧バージョン） https://www.youtube.com/watch?v=
4	対面自然現象へのアプローチー物理編1ー	対面力学ってなんだーホバークラフトやベルヌーイ原理の実験をととして
5	オンデマンド自然現象へのアプローチー物理編2ー	オンデマンド音・光・波ってなんだー偏光シート・LEDプレートの実験をととして
6	対面自然現象へのアプローチー物理編3ー	対面電磁気学って難しいの？ー方位磁針・かわむらのコマ・シャカシャカライトの実験をととして
7	対面自然現象へのアプローチー化学編1ー	対面酸性雨ーいろいろなドリンクの味から学ぶ酸・アルカリの実験をととして
8	対面自然現象へのアプローチー化学編2ー	対面物質の三態変化ーアイスクリームを作る実験をととして
9	対面自然現象へのアプローチー化学編3ー	対面いろいろ有機物・スライムや高分子吸収剤ー有機化学の実験をととして
10	対面自然現象へのアプローチー生物編1ー	対面ペットボトル顕微鏡をつくってみようー玉ねぎの細胞やイカの目の観察をととして
11	対面自然現象へのアプローチー生物編2ー	対面酵素の実験をととしてーヨウ素デンプン反応の実験をととして
12	対面自然現象へのアプローチー生物編3ー	対面DNAをみてみようーDNA観察の実験をととして
13	対面自然現象へのアプローチー地学編1ー	対面地層のボーリングや化石実験をととして
14	対面自然現象へのアプローチー地学編2ー	対面耐震・免振・制振・地震の実験をととして防災訓練の歌 https://www.youtube.com/watch?v=BMMYSSXMXiU マグニチュードに気をつけよう https://www.youtube.com/watch?v=1MjEoMODtf8

15	オンデマンドまとめ・リフレクション	オンデマンドリフレクション
16		

科目コード	13101				区 分	教養科目			
授業科目名	日本国憲法〔教員免許希望者用〕				担当者名	沖野 大輔			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、裁判例・通説を前提とした我が国の現行憲法（日本国憲法）の解釈論を中心について検討していく。また、学術的に重要な論点のみならず、各種公務員試験に臨むにあたって最低限必要となる日本国憲法に関する知識や、教員が備えるべき素養としての日本国憲法に関する知識にも配慮した講義を行う。

<授業の到達目標>

①授業で扱った主要なテーマについて、重要な憲法学的知識（基本概念、条文・判例・学説など）を論述することができる。②各種公務員試験等の本格的対策をするに際して学習を進めやすい素養を獲得している。

<授業の方法>

教科書のテーマに沿いつつ、授業計画に従って講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回参考書等を参考に指定範囲をあらかじめ通読し、わからない法律用語等については事前に調べておいてください。また、小テストの提出を求めます。履修者はクラスルームにアクセスでき、使用できる状態を整えてください。※指定された参考書を推奨します。学習にあたっては他の基本書でもかまいません。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された該当範囲を書籍を参考に通読しておく（60分）復習：書籍の該当箇所を熟読し、レジュメを参照しノートまとめておくこと（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・小テスト40%、期末テスト60%により総合的に評価を行う。・3分の2以上の出席を満たしていない場合はE評価とする。

<教科書>

下條芳明・東 裕 編著 樋口雄人・渡邊 互・林 紀行・団上智也 著 新・テキストブック日本国憲法 嵯峨野書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進行方法や学習方法、評価方法について解説します。また導入として「国家」について考えます。
2	日本国憲法とは	憲法の基礎知識と日本国憲法の歴史と構成について
3	国民主権と象徴天皇制	国民主権、象徴天皇制、皇位継承のルール、天皇の権限
4	平和主義	我が国の平和主義の歴史的沿革や意義
5	基本的人権Ⅰ	基本的人権の尊重
6	基本的人権Ⅱ	法の下での平等
7	基本的人権Ⅲ	精神的自由
8	基本的人権Ⅳ	経済的自由
9	基本的人権Ⅴ	人身の自由
10	基本的人権Ⅵ	社会権・参政権・国務請求権
11	基本的人権Ⅶ	国会
12	統治機構Ⅰ、Ⅱ	内閣
13	統治機構Ⅲ	裁判所
14	統治機構Ⅳ	地方自治
15	憲法改正、全体総括	憲法改正についてとこれまでの授業内容の要点およびまとめ
16		

科目コード	13101				区 分	教養			
授業 科目名	日本国憲法 [BC・FC用]				担当者名	山本 満理子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、裁判例・通説を前提とした我が国の現行憲法（日本国憲法）の解釈論を中心について検討していく。また、学術的に重要な論点のみならず、各種公務員試験に臨むにあたって最低限必要となる日本国憲法に関する知識や、教員が備えるべき素養としての日本国憲法に関する知識にも配慮した講義を行う。

<授業の到達目標>

①授業で扱った主要なテーマについて、重要な憲法学的知識（基本概念、条文・判例・学説など）を論述することができる。②各種公務員試験等の本格的対策をするに際して学習を進めやすい素養を獲得している。

<授業の方法>

シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読して臨みましょう。ディスカッションやディベート、Google Classroomを使用した小テストをや振り返りシートやレポート等を行う予定です。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（ディスカッションやディベート、事例研究発表の実施を予定）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読し、概要を頭に入れておく（30分）復習：授業ノートをまとめ、振り返りレポートを作成（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート・小テスト 50%、定期試験 50%により総合的に成績評価

<教科書>

毛利透（2024年11月）『グラフィック憲法入門 第3版』 新世社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進行方法や学習方法、評価方法について解説します。
2	日本国憲法とは	憲法の基礎知識と日本国憲法の歴史と構成について
3	国民主権と象徴天皇制	国民主権、象徴天皇制、皇位継承のルール、天皇の権限
4	平和主義	我が国の平和主義の歴史的沿革や意義
5	基本的人権(1)	基本的人権の尊重
6	基本的人権(2)	法の下での平等
7	基本的人権(3)	精神的自由
8	基本的人権(4)	経済的自由
9	基本的人権(5)	人身の自由
10	基本的人権(6)	社会権
11	基本的人権(7)	参政権・国務請求権
12	統治機構(1)(2)	国会・内閣
13	統治機構(3)	裁判所
14	統治機構(4)	地方自治
15	憲法改正、全体総括及び試験	憲法改正についてとこれまでの授業内容の要点のまとめ及び試験
16		

科目コード	13103				区 分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化 [A]定員40抽選あり				担当者名	藤原 章楷			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

<授業の到達目標>

SDG s に無いものが「文化」であり、特に日本の伝統文化の幅広さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。

<授業の方法>

日本の伝統文化を深く理解するためにア 「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現するイ 「備前焼」や「後楽園」など、岡山の伝統文化についても学ぶ<ICT活用した双方向授業や自主学習支援の有無、活用する場合はその方法>必要に応じて、パワーポイントで資料提供

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をしておくことが望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義後の課題提出（講義1～4、8～14回で各5％）、（講義5～7書道作品提出で20％）、講義最終15回目の試験25％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材（木・竹など）
3	岡山県の陶芸	備前焼
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明
5	書道(2)	毛筆による体験（半紙にひらかな、カタカナを書く）
6	書道(3)	毛筆による体験（半紙に漢字を書く、楷書・行書）
7	書道(4)	毛筆による体験（半紙に創作表現）
8	後楽園	回遊式庭園美、構造物（延養亭、茶室、能舞台）、茶園、鶴、馬場。盆栽
9	伝統工芸	染織・人形・陶芸・工芸（金工、木竹工）など。民芸
10	祭り(1)	ひな祭り、花見、夏祭り（花火）と盆踊り、山車。民謡、下津井節
11	祭り(2)	出初め・消火、朝鮮通信使、神楽、西大寺会陽、ソーラン節・エイサー。
12	食	稲作。日本酒、発酵、伝統的な行事と食。和食。箸（マイ箸）
13	正月関連の伝統行事	餅つき、年越しそばと雑煮。門松、年賀状、コマ回し、書初め
14	伝統文学	俳句、川柳。芭蕉・蕪村・一茶、良寛
15	伝統文化の将来展望	後継者、素材。日本の理解を深めるツールとしての伝統文化、試験
16		

科目コード	13103				区 分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化 [B]定員40 抽選済				担当者名	藤原 章楷			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

<授業の到達目標>

SDG s に無いものが「文化」であり、特に日本の伝統文化の幅広さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。

<授業の方法>

日本の伝統文化を深く理解するためにア 「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現するイ 「備前焼」や「後楽園」など、岡山の伝統文化についても学ぶ<ICT活用した双方向授業や自主学習支援の有無、活用する場合はその方法>必要に応じて、パワーポイントで資料提供

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をしておくことが望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義後の課題提出（講義1～4、8～14回で各5％）、（講義5～7 書道作品提出で20％）、講義最終15回目の試験25％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材（木・竹など）
3	岡山県の陶芸	備前焼
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明
5	書道(2)	毛筆による体験（半紙にひらかな、カタカナを書く）
6	書道(3)	毛筆による体験（半紙に漢字を書く、楷書・行書）
7	書道(4)	毛筆による体験（半紙に創作表現）
8	後楽園	回遊式庭園美、構造物（延養亭、茶室、能舞台）、茶園、鶴、馬場。盆栽
9	伝統工芸	染織・人形・陶芸・工芸（金工、木竹工）など。民芸
10	祭り(1)	ひな祭り、花見、夏祭り（花火）と盆踊り、山車。民謡、下津井節
11	祭り(2)	出初め・消火、朝鮮通信使、神楽、西大寺会陽、ソーラン節・エイサー。
12	食	稲作。日本酒、発酵、伝統的な行事と食。和食。箸（マイ箸）
13	正月関連の伝統行事	餅つき、年越しそばと雑煮。門松、年賀状、コマ回し、書初め
14	伝統文学	俳句、川柳。芭蕉・蕪村・一茶、良寛
15	伝統文化の将来展望	後継者、素材。日本の理解を深めるツールとしての伝統文化、試験
16		

科目コード	13107				区 分	教養科目			
授業科目名	近現代史				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、本授業では戦後復興のシンボルの一つである1970年に開催された大阪万博を通して戦後、昭和期、特に1970年代の歴史を考えていく。受講希望者が多い場合は、4年生を優先とした抽選となる場合があるので理解してほしい。

＜授業の到達目標＞

大阪万博に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、講義や議論を通じて、1970年に開催された大阪万博が、現在の社会や生活にどのような影響を与えているかを理解し、2025年に開催される関西万博についても考える能力とアイデアを発信する能力も身に付けていきたい。

＜授業の方法＞

対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出していく。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。会議や出張の場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

受講者数に応じて、講義と双方向型のアクティブラーニングの活用を目指す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では歴史だけでなく、歴史を起因とした国内外のニュースについても注視して欲しい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（40％）授業課題（60％）課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点・成績の対象とはならないので注意してほしい。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので十分に気をつけて欲しい。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業・シラバス説明
2	歴史とは？	歴史を学ぶ意味とは？
3	大阪万博とは何だったのか（1）	万博とは何か
4	大阪万博とは何だったのか（2）	国内外バビリオン
5	大阪万博とは何だったのか（3）	万博から生まれたもの：携帯電話
6	大阪万博とは何だったのか（4）	万博から生まれたもの：明治ブルガリアヨーグルト
7	大阪万博とは何だったのか（5）	万博人物伝（丹下健三、岡本太郎）
8	1970年代とはどんな時代だったのか（1）	学生運動・学生闘争
9	1970年代とはどんな時代だったのか（2）	三島由紀夫について
10	1970年代とはどんな時代だったのか（3）	1970年代の流行
11	1970年代とはどんな時代だったのか（4）	1970年代の音楽
12	1970年代とはどんな時代だったのか（5）	あさま山荘事件とカップヌードル
13	1970年代とはどんな時代だったのか（6）	クリスマスとケンタッキー・フライド・チキン
14	1970年代とはどんな時代だったのか（7）	1970年代のヒット商品
15	まとめ	50年後の2075年を予想しよう
16		

科目コード	13303				区 分	教養科目			
授業 科目名	地理・地政学				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界は理想だけで動くものではない。表舞台で理想が語られていても、その裏では政治的策謀と外交的駆け引きが繰り広げられている。この授業では、近年注目を集めている地政学について、地政学とは何かについて基礎的な理解をもとにして、国家間の関係をより現実的にとらえていくとともに、世界地図を通して世界各国の接続性を視覚的に把握できるようにする。受講希望者が多い場合は、4年生を優先とした抽選となる場合があるので、理解してほしい。

<授業の到達目標>

冷戦後、グローバル化の進展によって、ヒト・モノ・カネ・サービスが国境を越えて自由に行き来するようになった。インターネットで世界中の人々がつながっている現在、地理的な「接続性」が改めて注目を集めている。たとえば日本が目指す「自由で開かれたインド・太平洋」構想は、どのような世界を目指しているのか。それは、中国の「一帯一路」構想と対立するのか、協調的なのか。世界地図を前に考えていく。

<授業の方法>

対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出していく。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。事情や状況によって、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義型授業のためアクティブラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では、ニュース、特に国際問題について注視して欲しい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（40％）授業課題（60％）課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	地政学とは何か
2	大国による世界覇権の争い（1）	アメリカ（1）
3	大国による世界覇権の争い（2）	アメリカ（2）
4	大国による世界覇権の争い（3）	アメリカ（3）
5	大国による世界覇権の争い（4）	ヨーロッパ（1）
6	大国による世界覇権の争い（5）	ヨーロッパ（2）
7	世界覇権を狙う2つの大国（1）	中国（1）
8	世界覇権を狙う2つの大国（2）	中国（2）
9	世界覇権を狙う2つの大国（3）	ロシア
10	欧米による世界覇権を揺るがす国々（1）	インド・パキスタン・バングラデシュ・アフガニスタン
11	欧米による世界覇権を揺るがす国々（2）	トルコ・中東・イスラエル
12	欧米支配からの脱却を図る国々（1）	朝鮮半島
13	欧米支配からの脱却を図る国々（2）	アフリカ・中南米
14	欧米支配からの脱却を図る国々（3）	アジア（1）
15	欧米支配からの脱却を図る国々（4）	アジア（2）
16		

科目コード	14001				区 分	教養			
授業科目名	キャリアサポート [企業]				担当者名	佐藤 典子／濱嶋 幸司／本庄 慶樹			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このキャリアサポート（企業）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している企業就職を希望する学生対象の講義である。就職活動だけではなく、社会に出てすぐに役立つスキルを習得することもできる。また、履修者それぞれの進路に合わせて、授業内容を選択できるように設定しており、履修者が社会に出るにあたって感じる「課題」をタイムリーに解決できるように構成している。なおこの授業は、進路決定届を提出した時点でオンデマンドに切り替え可能。また、学内で随時行われている企業説明会に参加することで、出席代替え

<授業の到達目標>

1) 納得した進路決定をする。2) 実践できるプレゼンのスキル、ビジネスマナーの知識を身に着ける。

<授業の方法>

グループワーク・オンデマンド・学内企業説明会への出席。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

基本的に、授業内で完結できるように時間配分をするが、各自の進捗具合によっては自宅学習が生じる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲・態度 60%、内容理解 40%

<教科書>

随時配布物を配る。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・授業説明	本授業の目的・意義・システムを理解する。
2	企業パンフレットのみかた	企業パンフレットやHPを見て、会社の情報を得る。
3	求人票のみかた	求人票から読み取れる情報を知る。
4	一番入ってみたい企業／気になる企業	オンデマンド回 一番気になる企業の理由などを、フォームで提出。
5	一番気になる企業	第4回の課題をグループに分かれてプレゼン。
6	自己紹介スライド作成①	採用面接のみならず、内定式や入社後の自己紹介で使える面白自己紹介スライドを作成。
7	自己紹介スライド作成②	採用面接のみならず、内定式や入社後の自己紹介で使える面白自己紹介スライドを作成。
8	ビジネスマナー①（書類）	履歴書などだけではなく、内定承諾初などを企業に送る際のカバーレターの作り方、並びに封筒での送り方などを学ぶ。
9	ビジネスマナー②（名刺・席次など）	社会に出てから役に立つビジネスマナーを実施。
10	ビジネスマナー③（電話）	社会に出てから役に立つビジネスマナーを実施。
11	先輩のキャリアを知る	先輩に、進路相談をしてみる。
12	社会人の人間関係	社内における人間関係について考える。
13	福利厚生について	福利厚生に関して知る。
14	多様なキャリアを知る	それぞれのキャリア形成。
15	総論	これまでの振り返りをして学びの総括をする。
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [教職]				担当者名	千葉 照久／坂根 清貴／奥山 優／安井 正郎 ／練苧 千之／大崎 卓己／延原 まどか／岩田 清隆／中野 隆重／堀川 峻			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法についての講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞

・教師としての基礎知識や学校現場の課題を理解することができるようになる。・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができるようになる。・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができるようになる。

＜授業の方法＞

・ 講話を通して、課題の提示や説明による課題管理

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有・5，6人のグループに分かれてテーマに沿ってディスカッションし、意見をまとめてグループごとに発表する。・個人面接や集団面接など、実践に即した演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。(予習)・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。(復習：30分程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

＜教科書＞

特に指定しない

＜参考書＞

特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員採用試験合格に向けて教員採用試験の事務手続きキャリアサポートの概要	採用試験合格に向けた取り組みについて提出願書の記入方法や注意事項調査票の記入・提出 等
2	社会人のマナー自己PR作成について	立ち振る舞い、服装とあいさつ 自己PR作成のこつ自己PR作成
3	自己アピールの仕方学習進行表	自己アピールの仕方 グループで自己アピール演習学習進行表を基にした情報交換
4	教育現場の課題 1「いじめ・不登校への対応」 <オンデマンド授業>	いじめ・不登校への対応についての講義自分が取り組むことについてのレポート
5	学長講話	進路に向けてのメッセージ
6	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方自分の考えをわかりやすく伝える手立て
7	集団討論等の攻略法	集団討論・グループ活動の実施形態複数の受験者との討論の進め方課されるテーマの過去問の分析※形態によって自治体別に分かれる
8	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際現場で起こりうる場面での対処法
9	教育現場の課題 2「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
10	受験に際しての心構え個人面接の攻略法	一次試験（二次試験）に臨む心構え聞き手を意識した回答の仕方IPUに関する質問への回答の仕方
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要先輩の模擬授業（VTR視聴）学習指導案の書き方と模擬授業の実際
12	教育現場の課題 3「主体的・対話的で深い学び」	グループに分かれて集団討論

13	実践に即した面接演習(1)	授業に関する面接対策を中心に	
14	実践に即した面接演習(2)	夏期対策講座について 識した面接の仕方上手な展開の仕方 面接講座の仕上げ	面接の評価の観点を意
15	まとめ最終レポート	本講座のまとめをする。最終レポートの作成 課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」(900字 60分)	
16			

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアサポート [公務員]				担当者名	横内 浩平			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
9	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
10	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
11	二次試験対策 (4)	集団討論・集団面接等 (4)
12	二次試験対策 (5)	集団討論・集団面接等 (5)
13	二次試験対策 (6)	集団討論・集団面接等 (6)
14	二次試験対策 (7)	集団討論・集団面接等 (7)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアサポート [幼保]				担当者名	檜 日佳			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育者としての資質や能力を高めることで、保育者として働くことへの意思を明確にする。2. 保育職に進むために必要な論作文、面接、保育実技などの技術を高め、志望する自治体や法人の採用試験に合格する。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的と概要
2	合格までの計画	採用情報と求人票の整理将来を見通した長期計画と短期計画
3	願書の作成	自分の強みを生かした願書の作成
4	願書の郵送	封筒の書き方と願書送付のマナー
5	面接（1）	面接ノートの整理希望自治体、法人の試験傾向と対策
6	面接（2）	集団面接攻略のポイント学生相互の集団面接演習
7	面接（3）	学科教員による集団面接演習
8	面接（4）	個人面接攻略のポイント学生相互の個人面接演習
9	面接（5）	学科教員による個人面接
10	面接（6）	集団討論攻略のポイント学生相互の集団討論演習（1）
11	面接（7）	集団討論演習（2）
12	論作文（1）	保育の時事問題に関する論作文（1）
13	論作文（2）	保育の時事問題に関する論作文（2）
14	学びのまとめ（1）	学びのまとめと振り返り
15	学びのまとめ（2）	合格までの就職活動保育職のキャリア形成
16		

科目コード	14001				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアサポート [健康科学科用]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

面接練習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。予習復習にはHPで集めた情報の中より有用なものを抽出し、レポートはword、excel、powerpointを用いDropboxを用いて提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内の討論参加度合 30%、講義内での課題遂行度合 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る。
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15	まとめ	就職活動を振り返って
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアサポート [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。（予習・復習とも30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析（1）	人生曲線、自分史
5	自己分析（2）	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究（1）	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究（2）	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析（3）	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究（3）	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策（1）	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策（2）	個人面接のロールプレイング
14	面接対策（3）	集団面接のロールプレイング
15	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて
16		

科目コード	14002				区 分	教養			
授業科目名	キャリアデザイン I [企業]				担当者名	佐藤 典子／眞鍋 芳江／鈴木 真理子／本庄 慶樹／濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIは具体的な就活能力の向上につながる授業とする。

<授業の到達目標>

自己分析や学生時代の経験の棚卸ができるようになり、将来のキャリアをデザインをする力が付く。

<授業の方法>

アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招へいしての講義や、クイズや動画も使う。履修者は300名を超えることが想定されるが、毎回前半Aと後半Bに分けて、45分授業を2回実施したり、オンデマンドを活用したりすることで、小規模な討論ができるように工夫する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

クイズ、ペア・ワーク、グループ・ワーク、ディスカッションなど。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回授業終了時には、振り返りの代わりに授業の内容を踏まえた上での行動目標を書く。外部講師を招へいする際には、感想文の提出を課す。所属学科によりスケジュールが異なる日もあるので、クラスルームの情報に注意すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60%、提出物 40%。フィードバックとして、行動目標の中から代表的なものを全体で共有することがある。

<教科書>

適宜配布物を提供する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス ① シラバス説明、キャリアセンター担当者紹介	前期の授業内容の紹介、ならびにキャリア支援や就活基礎知識についてキャリアセンターから伝える。また現在の就職活動を取り巻く環境についても情報を提供して理解を促す。
2	A. キャリアとは B. 就職活動の支援環境を把握する	就活支援状況ワークや、マッチプラスのワークを活用する。
3	海外で起業した事例から学ぶ	アフリカでチョコレート・ビジネスを起業した外部講師を招聘して、起業の難しさや遣り甲斐について学ぶ。
4	キャリアアンカーと就活の軸	自己理解を進めるワークをオンデマンドで実施する。
5	A. インターンシップとは？B. リクナビからの情報提供	エントリーの方法やオープンカンパニーについて学ぶ。キャリアアンカーと繋げて考える。
6	業界研究・企業研究ワーク	業界について理解を深める。企業のミッション、ビジョン、バリューについて学ぶ。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
7	ライフプランニング	先週の逆のグループ構成で対面とオンデマンドになる。全体を2つに分けて、たすき掛けの内容となる。人生の必要経費について考える。
8	A. 自己理解ワークB. 先輩の経験談	ジョハリの窓のワークやIPU先輩の就活体験を聞く。
9	新卒市場について	売り手市場、離職率、ジョブ型雇用について学ぶ。
10	就活プランシート	IPU生のタイプ別就活プランを立てる。
11	A. 就職活動を先輩から学ぶB. 就活について必要な知識を身につける	4年生パネルディスカッションから就活への理解を深め、ビジネス・マナーについて学ぶ。
12	人生をデザインする	ライフワーク、ライフラインチャートを作成する。
13	業界研究・企業研究	働き方の多様化について学ぶ。ブラック企業についての理解を深める。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる
14	自己分析	先週と逆のグループ構成で対面とオンデマンドとなり、自己PRの作成、棚卸をする。
15	SMART目標の作り方	夏休みの目標設定をする。

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔教職〕				担当者名	練 亨 千之／坂根 清貴／奥山 優／安井 正郎 ／千葉 照久／大崎 卓己／延原 まどか／岩田 清隆／中野 隆重／本藤 展康			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠは子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を志望する学生が対象である。教員としての働くことの意義や自己理解を深める中で、必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができるようになる。 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができるようになる。 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができるようになる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。 ・課題についてグループディスカッションを行う。 ・課題についての演習を行う。 ・レポートの提出（Googleクラスルームを活用して課題の提出・管理を行う。）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・テーマについて5、6人のグループに分かれてディスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。・事後課題として授業での学びを振り返り、気づきや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 20%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(キャリアデザインとは・学習のルール・一年間の予定) 学校支援ボランティア	本講座の目的・意義・概要 教員を志望する理由 学校支援ボランティアの意義
2	立ち居振る舞い 教員採用試験の概要 進路調査	社会人としての五つの基本 教員になるための心構え 進路調査
3	学長講話	教員としてのやりがい
4	教育現場の課題① 「学力の向上」	学力向上への方策 *講話・レポート
5	授業の基礎・基本	授業と板書 板書の文字（チョークを持って書く）
6	講話「生徒指導提要の理解」	現場の実態を踏まえた、児童生徒への接し方
7	教育現場の課題② 「いじめ問題の解決」	いじめ問題の現状と課題 *講話・グループディスカッション
8	教育現場の課題③ 「不登校の解消」	不登校の現状と解消への方策 *講話・グループディスカッション
9	教育現場の課題④ 「特別支援教育の充実」	特別支援教育の現状と課題 *講話・グループディスカッション
10	教育現場の課題⑤ 「家庭・地域との連携」	家庭・地域との連携と必要性 *講話・グループディスカッション
11	講話「現場が求める人材」	学校現場の現状と期待される人材
12	キャリア演習 「荘内中学校生徒との交流」	玉野市立荘内中学校生徒との交流 ・進路選択についての経験談 ・どんな先生を求めているか

13	教員に求められる資質や能力①「信頼される教員」	信頼される教員としての資質 *講話・グループディスカッション
14	教員に求められる資質や能力②「授業力の向上」	授業力向上のための取組 *講話・グループディスカッション
15	教員になるための取組の成果と課題	教員になるために努力していること 後期に向けての課題 夏季休業中の過ごし方 レポート試験
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザインⅠ〔公務員〕				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅠ（公務員）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当

<授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

<授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する（1時間程度）。復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（10）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（11）	面接試験について（自己分析）
15	公務員試験の概要（12）	面接試験について（自己PR）
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザイン I [幼保]				担当者名	檜 日佳			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザイン I [幼保] は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育職を選択した意思を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2. 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3. 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、試験30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と見通し	授業の目的・意義・概要
2	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人の探し方
3	社会人のマナー（1）	社会人の身だしなみ、挨拶、立居振舞
4	社会人のマナー（2）	言葉遣い
5	学長講話	働くことの意味と職業選択
6	面接（1）	面接試験の基礎知識、面接準備
7	面接（2）	学生相互の面接練習
8	面接（3）	先輩による面接練習
9	論作文（1）	構成メモと文章の作成（1）
10	論作文（2）	構成メモと文章の作成（2）
11	保育実技（1）	手遊び・集団遊び
12	保育実技（2）	絵本の読み聞かせ、紙芝居
13	保育実技（3）	わらべ歌・弾き歌い
14	前期のまとめ（1）	期末テスト
15	前期のまとめ（2）	期末テストの振り返り長期休業期間の就職活動について
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザイン I [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやペア、クラスでのディスカッションを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

久保田学（2018）「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンター

グエン・テュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職すること (1)	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職すること (2)	留学生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える (1)	内的キャリアと外的キャリア
5	キャリアを考える (2)	キャリア・アンカー
6	自分がどういう人かを考える (1)	人生曲線、自分史
7	自分がどういう人かを考える (2)	コンピテンシー
8	自分がどうしたいかを考える (1)	未来史
9	自分がどうしたいかを考える (2)	日本との関係（つながり）
10	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
11	業界を知る (1)	業界研究の視点、基本的な方法
12	業界を知る (2)	業界研究の実践
13	企業を知る (1)	企業研究の視点、基本的な方法
14	企業を知る (2)	企業研究の実践
15	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論文
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザイン I [健康科学科用]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題に対してグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出： 50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業との面談を体験する。
15	前期まとめ	柔道整復師の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について
16		

科目コード	14003				区 分	教養			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [企業]				担当者名	佐藤 典子／眞鍋 芳江／濱嶋 幸司／大久保 諒／鈴木 真理子／本庄 慶樹			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必須

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

<授業の到達目標>

業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

<授業の方法>

講義やグループディスカッションなど。毎回1つもしくは2つのテーマを設ける。2つの場合は、AとBの45分程度の授業を続けて実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回でアイスブレイクの演習をペアで実施したり、リアルタイムでアンケートに参加・回答したりする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

企業研究や課題レポートの作成などで約30分から1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60% 提出物40% 提出物へのフィードバックについてはグーグルクラスルームを活用する。

<教科書>

随時印刷物を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	A. 初回ガイダンス B. 自分を知る(自己分析)	キャリアデザインIIとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えについてキャリアセンター職員からアドバイスを提供。また自己分析でさらに自己理解を深める。
2	A. ビジネスマナー、身だしなみ講座B. スタートアップセミナー	翌年3月1日の就活解禁までのスケジュールを把握し、どのようなスキルをいつまでに身に付けないといけないかについて知見を得る。ビジネスマナーも習得する。
3	A. インターンシップ報告会B. 就活エージェントと上手に付き合う	現役3年生がインターンシップの成果を報告する。またエージェントをどのように就活に活用するかを学ぶ。
4	A. OB・OGから学ぶ～転職する時に必要な力 B. 企業研究の方法	卒業生に登壇してもらい、講話を聴く。また企業研究の効果的なやり方を理解する。
5	A. 履歴書を書いてみよう B. 自己PRの書き方	書類選考を通過する履歴書とはどのようなものか。他者と差別化できる志望動機はどのようにして書くのかについて理解を十分に深めてもらい、異なる業界、職種へのエントリーに際しても学生自身がカスタマイズできるレベルにまでスキルが上がることを目指す。
6	A. OB・OGから学ぶB. ガクチカの書き方(実践)	理解しているようで理解できていないベンチャー企業や大手企業について、そこで働く先輩達からリアルな体験を聞く。学生のうちに力を入れたことをどう効果的に書くかを演習する。
7	A. 一般常識・時事問題を知ろうB. 給与明細の見方、社会保険税金の考え方	時事問題についての関心を高める。また社会人にとって重要項目である「お金」「保険」「税金」にまつわる知識を身に付ける。
8	A. 学生の意向、志向から今の就活を読み解くB. 社会人の先輩から学ぶ大切なこと	履修学生の就活動向をアンケートでリアルタイムで集計し公表、学生の意欲を高める。また担当教員のキャリア形成のストーリーを知ることによって長期的なビジョンを持つ。
9	ゲストスピーカーによる講話	社会で活躍する外部講師を呼び学生の世界を広げる。
10	A. 企業研究①B. 企業研究②	各企業で活躍するビジネスパーソンから学ぶ。
11	A. 学長講話B. 志望動機の書き方	大橋節子学長より「社会に出るにあたって」また「企業就職」について講話頂き、人生において大切なことを学ぶ。
12	A. 人生設計をしようB. 企業研究おさらい	長期的な人生設計を学生のうちから試みる。また企業研究や自己PRを更に進める。

	＋自己PRブラッシュアップ	
13	A. 海外志向を持つB. 外資系企業で働く	青年海外協力隊の体験を聞き、グローバルな視野を持つ。また本学からは就職実績がまだ少ない外資系企業で働くことについて理解を深める。
14	A. 就活直前モチベーションアップ講座B. 学内合同企業研究会参加企業の説明	就活を目前に控え、各自のモチベーションを上げる。合同企業研究会に参加して成果を上げるコツを習得する。
15	A. 合同企業説明会の周り方、就活パスツアーについてB. 4年生になっても覚えておくこと	キャリアデザインIIの最終回にあたり、4年生になって覚えておくべき大学での手続きについて学ぶ。あと1か月に迫った解禁日を前に事務的連絡なども含む。
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ〔教職〕				担当者名	練 亨 千之／坂根 清貴／奥山 優／安井 正郎 ／千葉 照久／大崎 卓己／延原 まどか／岩田 清隆／中野 隆重／本藤 展康			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、より実践的な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができるようになる。2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができるようになる。3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができるようになる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。 ・課題についてグループディスカッションを行う。 ・課題についての演習を行う。 ・レポートの提出（Googleクラスルームを活用してレポートの提出・管理を行う。）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・テーマについて5、6人のグループに分かれてディスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。 ・事後課題として授業での学びを振り返り、気づきや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習） ・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。 ・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員採用試験合格への取組 キャリアデザインの後期の予定 個別面談・学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力 ＊対策講座について ＊個別面談・学習進行表について
2	教師に求められる資質や能力③ 「保護者対応」	保護者に対応するために必要な心構えと力 ＊講話・グループディスカッション
3	教育課題への対応① 「時事問題への対応」 ～情報モラル教育～	情報モラル教育の理解とその対応 ＊講話・グループディスカッション
4	出前講座 「学校現場が必要としている教員像 ～授業づくり～」	主体的・対話的で深い学びの実現 ・広島県教委「ワークショップ」
5	教育課題への対応② 「人権尊重の教育」 ～いじめ・児童虐待・LGBT～	人権尊重の教育の基本的な考え方と取組 ＊講話
6	合格の秘訣を探る① 「教採合格者の体験」	教員採用試験合格者の体験発表 ＊「私はこうして合格した」
7	合格の秘訣を探る② 「個人面接・場面指導」	教採における個人・集団面接の概要と留意点 ＊先輩の個人面接・場面指導
8	合格の秘訣を探る③ 「模擬授業」	教採における模擬授業の概要と留意点 ＊先輩の模擬授業
9	合格の秘訣を探る④ 「集団面接・集団討論」	教採における集団討論等の概要と留意点 ＊先輩の集団面接・集団討論

10	教育課題への対応③ 「令和の日本型教育について」 ～個別最適な学び、協働的な学びの実現～	個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた取組 ＊講話
11	講話①「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例 ＊中学校長の講話
12	講話②「学級集団の育て方」	学級集団づくりについての基本的な考え方と実践事例 ＊小学校長の講話
13	教育課題への対応④ 「家庭・地域・専門機関等との連携」 ～チーム学校～	チーム学校の体制づくりの必要性 ＊講話・グループディスカッション
14	教育課題への対応⑤ 「学校安全」	学校安全の取組の必要性 ＊講話・グループディスカッション
15	教採に向けた取組の成果と課題	教員採用試験に向けた取組の振り返り来年度に向けての方策春季休業期間の学習レポート試験
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際との相違を学び、4年生から

<授業の到達目標>

1. 公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。2. 各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対する覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

<授業の方法>

講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬面接や論文課題をする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ所定用紙に準備させる（1時間程度）。復習：講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験70%、単元別レポート15%、授業に取り組む姿勢15%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどとのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（1）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（1）	消防士の仕事内容（1）
4	実践演習（2）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（2）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（1）	公務員試験合格者の体験談（1）
7	実践演習（3）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（3）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（2）	公務員試験合格者の体験談（2）
10	講話「現場が求める人材」（4）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（3）	公務員試験合格者の体験談（3）
12	講話「現場が求める人材」（5）	自衛官の仕事内容について
13	講話「学長講話」	本試験まであと三か月、追い込み時期を乗り切るために学長先生から学生にメッセージをいただく。
14	講話「現場が求める人材」（6）	市職員の仕事内容について
15	講話「現場が求める人材」（7）	消防士の仕事内容について（2）
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザインⅡ〔幼保〕				担当者名	檜 日佳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠ〔幼保〕は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育職を選択した意思を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2. 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3. 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する資料関連や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20％、課題50％、小テスト30％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的・意義・概要
2	論作文（1）	原稿用紙の使い方と表記
3	論作文（2）	自己分析シートを活用した自分の強みと課題
4	論作文（3）	保育内容に関する論作文
5	論作文（4）	保育の時事問題にかんする論作文
6	採用情報の探し方	採用情報の探し方、求人票の見方
7	就職説明会、インターンシップへの参加準備	就職説明会・インターンシップの申込、参加準備、マナー、情報の整理
8	合同就職説明会の参加	保育職合同説明会及び保育ICT見本市への参加
9	保育職の仕事とやりがい（1）	公立保育園で働く先輩の講話
10	保育職の仕事とやりがい（2）	私立保育園で働く先輩の講話
11	保育職の仕事とやりがい（3）	児童福祉施設で働く先輩の講話
12	保育職の仕事とやりがい（4）	学童保育で働く先輩の講話
13	採用試験の準備（1）	受験計画の作成
14	採用試験の準備（2）	合格に向けての対策と準備
15	後期のまとめ	最終テスト及び振り返り
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザインⅡ〔健康科学科用〕				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保険制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めた社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	春季休暇ならびに来年度の就職活動に向けたプランを設計する
15	キャリアプランの設計③	自分自身のキャリアプランを他者と共有する
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループ、ペア、クラスでのディスカッションを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

久保田学（2018）「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンター

グエン・テュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	前期振り返り	前期の振り返りと後期の授業概要インターンシップや業界・企業研究などの成果の共有
2	就職活動におけるマナー（1）	基本的な身だしなみ
3	就職活動におけるマナー（2）	敬語、電話・メールの日本語表現
4	インターネットを活用した就職活動の展開	就活サイトの活用法、各種データベースの利用方法
5	企業を知る（3）	個別企業の事例に基づく企業理解（外部講師予定）
6	業界・企業を選ぶ	業界・企業選びの方向性
7	履歴書とエントリーシート	書類提出の意味、基本的な書き方・注意点
8	日本の税制と福利厚生	給与と福利厚生、所得税
9	自己分析	自分の「これまで」と「これから」を改めて見つめ直す
10	自分のことを他人に伝える	自己PRのための日本語表現
11	面接対策（1）	基本的な手順、よく聞かれる質問
12	面接対策（2）	面接のロールプレイング [基本編]
13	面接対策（3）	面接のロールプレイング [応用編]
14	在留資格について	「特定活動」資格の説明
15	まとめ	全体の総括と補足説明
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PH用				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本学における取得可能な資格と進路の関わり
2	学びと将来の進路1	目標とする資格や免許、希望進路について調査
3	学びと将来の進路2	医療従事とは（柔道整復師業務と人の身体の仕組み）
4	学びと将来の進路3	柔道整復師の業界を知る①
5	学びと将来の進路4	健康・医療・スポーツと柔道整復師1（柔道整復師業務と外傷について）
6	学びと将来の進路5	健康・医療・スポーツと柔道整復師2（柔道整復師業務と外傷について）
7	大学生活の振り返り1	半期の振り返りと後期にむけての目標設定
8	学びと将来の進路6	目標とする資格・免許、進路希望、学科での学びについて各種現場での活動例（接骨院、医療機関、救護活動、トレーナー活動）とは
9	学びと将来の進路7	相手に思いを伝えるスピーチとは？
10	学びと将来の進路8	柔道整復師の業界を知る②
11	学びと将来の進路9	健康・医療・スポーツと柔道整復師3（柔道整復師業務と応急処置について）
12	学びと将来の進路10	健康・医療・スポーツと柔道整復師4（柔道整復師業務と外傷・障害予防について）（テーピングとは）
13	学びと将来の進路11	健康・医療・スポーツと柔道整復師5（柔道整復師業務と外傷・障害予防について）（ストレッチとは）
14	学びと将来の進路12	健康・医療・スポーツと柔道整復師6（まとめ）
15	1年間の振り返りを行うとともに、次年度の目標設定	1年間の振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]FC用				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学習と連動するかたちで、「自分の意見を伝えること」「話を聞くこと」「内容をまとめる（書く）こと」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。さらにグループワークやディスカッション

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立することができる②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学習について、グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）復習：授業内で行ったことの見直し（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや課題への取り組み等）30%、小課題（レポート等）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の内容・方法について
2	大学生活（1）	大学生活について考える①
3	大学生活（2）	大学生活について考える②
4	My Favorite Book コンテスト（1）	導入
5	My Favorite Book コンテスト（2）	原稿作成
6	My Favorite Book コンテスト（3）	原稿ブラッシュアップ①
7	My Favorite Book コンテスト（4）	原稿ブラッシュアップ②
8	My Favorite Book コンテスト（5）	発表
9	スピーチコンテスト（1）	導入
10	スピーチコンテスト（2）	原稿作成
11	スピーチコンテスト（3）	原稿ブラッシュアップ①
12	スピーチコンテスト（4）	原稿ブラッシュアップ②
13	スピーチコンテスト（5）	発表
14	大学生活（3）	後期に向けて①
15	大学生活（4）	後期に向けて②
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PH用				担当者名	河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本学における取得可能な資格と進路の関わり
2	学びと将来の進路1	目標とする資格や免許、希望進路について調査
3	学びと将来の進路2	医療従事とは（柔道整復師業務と人の身体の仕組み）
4	学びと将来の進路3	柔道整復師の業界を知る①
5	学びと将来の進路4	健康・医療・スポーツと柔道整復師1（柔道整復師業務と外傷について）
6	学びと将来の進路5	健康・医療・スポーツと柔道整復師2（柔道整復師業務と外傷について）
7	大学生活の振り返り1	半期の振り返りと後期にむけての目標設定
8	学びと将来の進路6	目標とする資格・免許、進路希望、学科での学びについて各種現場での活動例（接骨院、医療機関、救護活動、トレーナー活動）とは
9	学びと将来の進路7	相手に思いを伝えるスピーチとは？
10	学びと将来の進路8	柔道整復師の業界を知る②
11	学びと将来の進路9	健康・医療・スポーツと柔道整復師3（柔道整復師業務と応急処置について）
12	学びと将来の進路10	健康・医療・スポーツと柔道整復師4（柔道整復師業務と外傷・障害予防について）（テーピングとは）
13	学びと将来の進路11	健康・医療・スポーツと柔道整復師5（柔道整復師業務と外傷・障害予防について）（ストレッチとは）
14	学びと将来の進路12	健康・医療・スポーツと柔道整復師6（まとめ）
15	1年間の振り返りを行うとともに、次年度の目標設定	1年間の振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PS用				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。主な課題管理はグーグルクラスルームを利用して行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループあるいは全体へのプレゼンテーション・発表を含む

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学を知る①	本授業の内容・方法の理解、大学施設の確認
2	コミュニケーション	チームビルディング
3	自己を知る①	チームビルディングおよび個別面談①
4	自己を知る②	チームビルディングおよび個別面談②
5	ビブリオバトル①	原稿づくり
6	ビブリオバトル②	ビブリオバトルクラス予選
7	前期まとめ	前期振り返り
8	後期の目標設定	後期の目標設定および履修登録の確認
9	スピーチコンテスト①	スピーチ原稿づくり
10	スピーチコンテスト②	スピーチコンテストクラス予選
11	自己を知る③	チームビルディングおよび個別面談③
12	自己を知る④	チームビルディングおよび個別面談④
13	スポーツ科学を知る①	実践現場の教員による講話①
14	スポーツ科学を知る②	実践現場の教員による講話②
15	まとめ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PP用				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：ありグループに分かれ、テーマに応じたディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	ニューススポーツ体験
3	自己を知る②	ニューススポーツ体験②
4	自己を知る③	メンター体験談
5	プレゼン①	ビブリオバトルの原稿作り
6	プレゼン①	ビブリオバトル発表
7	コミュニティの形成	他クラスとの交流
8	大学を知る②	後期の目標設定および履修登録の確認
9	プレゼン②	スピーチコンテストの原稿作り
10	プレゼン②	スピーチコンテストクラス予選
11	非認知能力の育成①	非認知能力について調べ、自身の能力を伸ばすための方法を知る。
12	非認知能力の育成②	コミュニケーションスキルを伸ばすための方法を知り、グループワークを通じて実践する。
13	進路について	進路について実情を調べる
14	進路について	調べた内容をプレゼン発表する
15	まとめ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]BC用				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。答えのない問いについて、自ら深く考え、レポートに書いていくことによって、論理的思考、批判的思考等を育成することを目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則として、オンデマンド形式とする。学生は、毎週課題に取り組み、提出期限までに提出しなければならない。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出（期限に遅れた場合は遅刻扱いとし、大幅な遅れ、あるいは未提出の場合は欠席扱いとする）

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	課題の内容、提出の方法、評価の観点などを理解する。
2	課題①	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
3	課題②	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
4	課題③	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
5	課題④	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
6	課題⑤	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
7	課題⑥	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
8	課題⑦	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
9	課題⑧	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
10	課題⑨	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
11	課題⑩	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
12	課題⑪	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
13	課題⑫	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する

14	課題⑬	出する
15	半年間の振り返り	与えられたテーマに沿って、レポートを作成し、グーグルクラスルームを通じて提出する
16		半年間の基礎ゼミナール（再履修）での取組を省察し、今後の学生生活へ活かしていく。

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	ニュースポーツ体験
3	自己を知る②	ニュースポーツ体験②
4	自己を知る③	メンター体験談
5	プレゼン①	ビブリオバトルの原稿作り
6	プレゼン①	ビブリオバトル発表
7	コミュニティの形成	他クラスとの交流
8	大学を知る②	後期の目標設定および履修登録の確認
9	プレゼン②	スピーチコンテストの原稿作り
10	プレゼン②	スピーチコンテストクラス予選
11		
12		
13	進路について	進路について実情を調べる
14	進路について	調べた内容をプレゼン発表する
15	まとめ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	坂元 智子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	十河 直太			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：あり各単元の内容についてグループに分かれディスカッションをおこなう。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PP用				担当者名	早田 剛			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	ニュースポーツ体験
3	自己を知る②	ニュースポーツ体験②
4	自己を知る③	メンター体験談
5	プレゼン①	ビブリオバトルの原稿作り
6	プレゼン①	ビブリオバトル発表
7	コミュニティの形成	他クラスとの交流
8	大学を知る②	後期の目標設定および履修登録の確認
9	プレゼン②	スピーチコンテストの原稿作り
10	プレゼン②	スピーチコンテストクラス予選
11		
12		
13	進路について	進路について実情を調べる
14	進路について	調べた内容をプレゼン発表する
15	まとめ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [再履修]PP用				担当者名	早田 剛			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取り組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [再履修]BC用				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり・倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講和）2. グループワーク、ディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表等）4. 基礎学力確認に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの有無：有各回の該当内容について、グループディスカッション及びワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし。

<参考書>

適宜紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える	個人面談、各自のキャリアについて考える
3	文章作成	レポートやビジネス文書の書き方について学ぶ
4	基礎学力演習①	文章力検定対策
5	基礎学力演習②	文章力検定対策
6	基礎学力演習③	文章力検定対策
7	基礎学力演習④	文章力検定対策
8	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
9	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
10	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
14	業界・企業研究	自分の興味のある業界及び企業について調べる
15	全体の振り返り	自身の成長を客観的に評価する
16		

科目コード	14109				区 分	教養科目			
授業 科目名	多文化共生のための異文化理解				担当者名	小川 正人／SACKO Salif			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「多文化共生」は近年様々なところで主張され、また一方でその理念に対して批判もある。しかし、「多文化共生」とは何を意味し、この理念のもとでどのような社会のビジョンが生まれてきたのであろうか。移民・難民の存在が国際政治の問題となり、「分断」の時代と言われる現代において多文化共生について考えていくことは重要となっている。同時に、交流の方法やこれからの働き方など、身近な問題についても考える必要がでてくる。この授業では異なる状況・背景を持った人々どうしが「共に生きる」こととは何か、「理想の社会」とは何かを考えていく

<授業の到達目標>

本授業の到達目標は、「多文化共生」をキーワードにして、国内外の課題や問題を取り上げながら、将来の「理想の社会」の構築に向けて考えていくことである。多文化共生に関わる基本的な概念を実例から紹介するとともに、「多文化社会」である日本が直面している問題を、個人・グループで考え発表することで、対立・紛争などを調和・調整できる力をつけていく。また、ゲストスピーカーによる講演、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、批判的思考力、問題解決能力など今後の社会に必要な力をつけていく。

<授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が再拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

履修者数に応じて、講義と双方型のアクティブラーニングを活用した授業を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では、国内外のニュースについて注視して欲しい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（40％）授業課題（60％）課題については1週間程度の期間を設ける。未提出や提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・イントロダクション	「多文化共生」とは何か
2	多文化共生と国籍	「移民」？「難民」？
3	多文化共生と宗教	宗教は対立の要因か？
4	多文化共生と言語	言語間の平等とは？
5	ゲストスピーカー（1）	多文化共生を考えよう（1）
6	多文化共生と人種差別	マジョリティー？マイノリティー？
7	多文化共生と性・ジェンダー	個人のアイデンティティとは？
8	ゲストスピーカー（2）	多文化共生を考えよう（2）
9	「多文化社会」日本（1）	在日コリアンの歴史を知ろう
10	「多文化社会」日本（2）	外国人労働者・技能実習生が直面している問題とは？
11	ゲストスピーカー（3）	多文化共生を考えよう（3）
12	「多文化社会」日本（3）	国際結婚・育児について考えよう
13	グループワーク（1）	それぞれの課題の現状
14	グループワーク（2）	多文化共生社会のために自分たちが出来ること
15	まとめ	グループ発表
16		

科目コード	14205				区 分	教養科目			
授業 科目名	IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)[再履修者用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業はIPUジェネリックスキルズⅠ（非認知能力）の再履修者クラスである。非認知能力の5つのリテラシーを学習する。

<授業の到達目標>

本授業は、非認知能力のリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。単元A「調べぬく力」では情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」では情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力）単元C「話し合う力」では課題発見力（さまざまな角度と広い視野から現象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を

<授業の方法>

初回と第2回授業は対面、その後はオンデマンド授業で実施する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

オンデマンド授業のため、アクティブラーニングは活用しない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加40％ 授業課題60％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専?家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用
16		

科目コード	14206				区 分	教養科目			
授業 科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック) [再履修者用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

IPUジェネリックスキルズⅡの再履修者のクラスである。教育・経済/経営など各分野で求められるアカデミックスキルを扱い、その基礎的知識および技能の習得を行う。文献や資料の読み方、レポートの書き方、グループワークの手法、プレゼンテーションの手法等についての理解を深めていく。これらを通して、専門研究の基礎となる部分を強化し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章作成、PPT資料の作成、グループ学習も取り入れる。

<授業の到達目標>

・グループ活動に必要なスキルを学び、他者とコミュニケーションできる・文献や資料を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、まとめることができる・グループ学習を通して、意見の表出と集約をすることができる。

<授業の方法>

教員のファシリテーションにより、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・プレゼン)授業を展開する。一方的に教員の話を聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

オンデマンド授業のため、アクティブラーニングは活用しない。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習(1時間程度) 事後学習(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)およびディプロマポリシー2(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、グループワークへの貢献・発表 40%、レポート 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	ライティングの手法①	論文・レポート作成のルール
3	ライティングの手法①	論文レポートの構成
4	コミュニケーションの手法①	対話型のコミュニケーション
5	コミュニケーションの手法②	討論型のコミュニケーション
6	コミュニケーションの手法③	I Tツールを利用したコミュニケーション(1)
7	コミュニケーションの手法④	I Tツールを利用したコミュニケーション(2)
8	プレゼンテーションの手法①	PPTを利用したプレゼンテーション(1)
9	プレゼンテーションの手法②	PPTを利用したプレゼンテーション(2)
10	レポート作成①	レポート内容の構想(1)
11	レポートの作成②	レポート内容の構想(2)
12	レポートの作成③	中間発表
13	レポートの作成④	レポートの最終とりまとめ
14	レポートの作成⑤	レポートのプレゼンテーション発表
15	まとめ	授業の振り返り・まとめ。
16		

科目コード	14208				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [BC用]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・グループディスカッション・バズセッション等）、アイデアコンテストへのチャレンジ	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

非認知能力（Non-cognitive skills）とは、客観的な数値では測れない能力の総称である。本授業は、大学生活・社会生活において重要な非認知能力（本学の行動指針：「五訓」を中心）の向上のために、主にグループワークやバズセッションを通じて、「IPUの特徴」を生かし、自分自身の「ヒューマンスキル」を豊かにし、他者との円滑なコミュニケーションを構築できるような学修を目的としている。※グループでの社会課題解決・SDGs関連のアイデアコンテストへのチャレンジをする。

<授業の到達目標>

・非認知能力（五訓）の向上をグループワーク・セッションを通じ、自己評価し、自己肯定感・相互承認を高められるようになる。・IPUの特徴を活用し、その魅力を自分自身の言動で具現化できるようになる。・社会課題解決・SDGsへの取り組みを通して、身近な課題を発見・解決への糸口を見つける力を身につける。・グループでの活動を形にするプロセスにおいて、コミュニケーションなど豊かなヒューマンスキルを身につける。

<授業の方法>

前半は、まずは「チームビルディング」の第一歩として、学生の考えたアイデアによりグループ（チーム）構成をする。その後、非認知能力（「五訓」を中心）及び豊かな人間関係を築く「アサーティブ・コミュニケーション」を中心に、講義・演習（グループワーク・グループディスカッション等）で学修し、5月末の社会課題解決・SDGsプロジェクトのアイデアコンテストに挑戦する。後半では、学生自身が発見した身近な課題について、その解決のための議論を重ね、実践のためのプロジェクト発表（プレゼンテーション）を実施する。※各授業では講義3

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり：グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、アイデアコンテストへのチャレンジ

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。※①～③（1時間程度）④プロジェクトの設定・実践においてチームで取り組む準備学習（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用しレジュメや課題の配付・フィードバックを行う。リフレクション（振り返り）シートの提出 60%、授業への積極的参加 20%、プロジェクトへの取り組み 20%

<教科書>

教科書は使用せず、随時レジュメ・資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ガイダンス：授業の目的と内容（授業の進め方、成績評価の基準）・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念・非認知能力とは、五訓の概要バズセッション：「私のお

		気に入る」でコミュニケーション※課題「チームビルディング」のグループ構成アイデア ・初回授業での課題「チームビルディング」のグループ構成アイデアに 基づき「チーム形成」と「チーム名」決定・「私のこだわり」でチーム内自己紹介・振り返り（本日のチームの成果報告）・チャレンジするアイデアコンテストの詳細説明 ・相互理解と承認の「アサーティブ・コミュニケーション」 ※交流分析「エゴグラム」・社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討（バズセッション）※入賞アイデアの視聴・振り返り（本日のチームの成果報告） ・相手も自分も大切に「アサーティブ・コミュニケーション」 ※EQバランス6つの資質「EQテスト」・社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討（ブレインストーミング：KJ法）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・グループのパワーと個人のパワー ※演習「プライオリティ（優先）とコンセンサス（同意）」・社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討（資料収集・調査）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・リーダーシップ（フォーマルリーダーとインフォーマルリーダー） ※演習「非言語コミュニケーション：沈黙は金」・社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討（決定）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・求められる論理思考 ※演習「エレベータートーク」・社会課題解決・SDG s プロジェクト企画書作成（下書き準備）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・プロジェクト完遂のためのチームワーク・社会課題解決・SDG s プロジェクト企画書作成（完成）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・新たなチームビルディング（チーム構成のアイデア）・「チーム形成」と「チーム名」決定・（後半）発見型社会課題解決・SDG s プロジェクト企画・アイデア検討（バズセッション）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・自分の健康は自分で守るセルフケア・発見型社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討（ブレインストーミング）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・ストレスコーピング（対処法）・社会課題解決・SDG s プロジェクト プレゼン作成・振り返り（本日のチームの成果報告） ・社会課題解決・SDG s プロジェクト プレゼン作成・リハーサル・振り返り（本日のチームの成果報告） ・プレゼンテーション（前半）（質疑応答・評価）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・プレゼンテーション（後半）（質疑応答・評価）・振り返り（本日のチームの成果報告） ・自己と相互承認・これからのキャリア形成：好きを追求
2	チームビルディング前半：提案型社会課題解決・SDG s プロジェクトの紹介	
3	「アサーティブ・コミュニケーション」① 社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討①	
4	「アサーティブ・コミュニケーション」② 社会課題解決・SDG s プロジェクト企画・アイデア検討②	
5	グループダイナミクス（集中力学）①社会課題解決・SDG s プロジェクト企画・アイデア検討③	
6	グループダイナミクス（集中力学）②社会課題解決・SDG s プロジェクト企画・アイデア検討④	
7	ロジカルシンキング（論理思考）社会課題解決・SDG s プロジェクト企画書作成①	
8	チームワークの重要性社会課題解決・SDG s プロジェクト企画書作成②	
9	チームビルディング後半：発見型社会課題解決・SDG s プロジェクト企画①	
10	・メンタルヘルスマネジメント（セルフケア）①・発見型社会課題解決・SDG s プロジェクト企画②	
11	・メンタルヘルスマネジメント（セルフケア）②・発見型社会課題解決・SDG s プロジェクトの企画・アイデア検討（決定）	
12	社会課題解決・SDG s プロジェクト プレゼン作成②	
13	社会課題解決・SDG s プロジェクト発表①	
14	社会課題解決・SDG s プロジェクト発表②	
15	授業全体のまとめキャリア形成の極意自己評価	
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業 科目名	非認知能力育成 I [再履修者用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は非認知能力育成 I の再履修者クラスである。非認知能力の5つのリテラシーを学習する。

<授業の到達目標>

本授業は、非認知能力のリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。単元A「調べぬく力」では情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」では情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力）単元C「話し合う力」では課題発見力（さまざまな角度と広い視野から現象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を

<授業の方法>

初回と第2回は対面での実施、その後はオンデマンド授業とする。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

オンデマンド授業のため、アクティブラーニングは活用しない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加40％ 授業課題60％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専?家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用
16		

科目コード	14208				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [PS用]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。②学生は現代の諸課題に関する議論ができる。③学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループワークを基にしたプレゼンテーションを実施する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。④上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・振り返りレポート①：チームづくりと環太平洋大学を知る（1回から5回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート②：環太平洋大学PRプレゼン（6回から8回）までのレポート（20点）・振り返りレポート③：現代の諸課題の発見・提案（9回から14回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート④：非認知能力育成 I（1回から15回）全体の振り返り（20点）・出席およびグループでの活動状況など（20点）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・非認知能力について
2	IPUの魅力を考える①	IPUの魅力についてグループで討議する
3	IPUの魅力を考える②	前回の授業内で話し合った内容をまとめ、他のグループに発表する
4	競技スポーツ科学以外の学科について学ぶ	競技スポーツ科学以外の学科の学びの特徴を調べるとともに、他学科学生にインタビューする。
5	キャンパスツアー	グループごとにキャンパスを周りながら課せられたミッション・課題をクリアする。
6	IPUの魅力紹介①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成（1名1枚必ず作成）・プレゼンテーションの役割分担（1名1枚必ずプレゼン）・リハーサル
7	IPUの魅力プレゼン①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会（前半11グループ）
8	IPUの魅力プレゼン②	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会（後半11グループ）・プレゼン大会の振り返りと講評
9	出身地・地域の紹介	出身地・地域の紹介を通じて、現代の諸問題のトピックスを探そう
10	地域の課題発見	グループワークを通じて、現代の諸問題のトピックスを探ろう
11	地域の課題探究①	・現代の諸問題を深く議論しよう（個人・大学・地域レベル）
12	地域の課題探究②	・現代の諸問題を深く議論しよう（日本・国際社会レベル）
13	地域の課題解決の提案①	「現代の諸課題を解決するための提案をしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会（前半11グループ）
14	地域の課題解決の提案②	「現代の諸課題を解決するための提案をしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会（後半11グループ）

15	授業のまとめ・最終レポート	ョン発表会（後半11グループ）・プレゼン大会の振り返りと講評 1～14回の授業を振り返り、自己の成長について考える。
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [PH用]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

健康科学科は非認知能力の3つの力である、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を柔道整復師の業務に関連付けて習得する。

<授業の到達目標>

本授業は、非認知能力のリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。医療面接の学習を通して特に「他者とつながる力」を育成を行う。医療面接は患者の主訴だけでなく様々なことを聴取する必要がある。患者の家族構成などの社会的背景や心理状態と様々な情報を聞き取るため患者とのコミュニケーションが重要となる。よって、医療面接の学習を通して「他者とつながる力」の育成を行う。メンタルヘルス対策の学習を通じて「自分と向き合う力」「自分を高める力」の育成を行う。メンタルヘルス対策は「セルフケア」「ラインによるケア」「事業

<授業の方法>

原則として対面で授業をおこなう。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるか確認し教科書を確認する。（毎回、1時間程度）復習：教科書と授業内容を復習する。メンタルヘルス対策はメンタルヘルス・マネジメント資格のⅢ種（セルフケアコース）の内容になるため資格取得に向けた学習を行う。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加60％ 授業課題40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、内容、評価基準の確認
2	医療面接①	医療者が持つべき倫理観・態度
3	医療面接②	コミュニケーションの基本的なスキル
4	医療面接④	状況に即したコミュニケーション法の選択
5	医療面接⑤	模擬医療面接①
6	医療面接⑥	模擬医療面接②
7	メンタルヘルス対策①	メンタルヘルスケアの意義
8	メンタルヘルス対策②	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識
9	メンタルヘルス対策③	セルフケアの重要性
10	メンタルヘルス対策④	ストレスへの気づき方
11	メンタルヘルス対策⑤	ストレスへの対処、軽減の方法
12	メンタルヘルス対策⑥	社内外資源の活用
13	メンタルヘルス対策⑦	柔道整復師の職場環境でのメンタルヘルスケア①
14	メンタルヘルス対策⑧	柔道整復師の職場環境でのメンタルヘルスケア②
15	まとめ	医療面接とメンタルヘルス対策について
16		

科目コード	14208				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [FC用]				担当者名	宮原 舞／小崎 遼介／後藤 由佳／高崎 展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

学科の特色あるイベントの企画・運営・実施を通して、非認知能力を高める。①東岡山IPUこども園との連携活動、②地域連携活動、③学内行事の3つを軸として、環太平洋大学、および関連する社会で自分たちが果たせる役割を理解・実践できるようになる。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの魅力をも自分自身の言葉で説明できる。③学生は現代の諸課題に関する議論ができる。④学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

1. 講義 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）講義・演習・実技等の形態をとる。学内・学外での地域連携活動を行い、グループや個人で活動を振り返る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワーク）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③各回の活動に備えて、個人またはチームで事前準備に取り組む。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・振り返りレポート①：初回アセスメント（10点）・振り返りレポート②：地域連携①（10点）・振り返りレポート③：地域連携②（10点）・振り返りレポート④：地域連携③（10点）・振り返りレポート⑤：最終アセスメント（10点）・最終レポート（50%）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・五訓の概要（五訓ルーブリックを活用した自己評価）・目標設定
2	幼稚園・保育園・こども園との連携①	地域の幼稚園・保育園・こども園について学ぶ①
3	幼稚園・保育園・こども園との連携②	地域の幼稚園・保育園・こども園について学ぶ②
4	幼稚園・保育園・こども園との連携③	地域の幼稚園・保育園・こども園について学ぶ③
5	幼稚園・保育園・こども園との連携④	地域の幼稚園・保育園・こども園について学ぶ④
6	幼稚園・保育園・こども園との連携⑤	地域の幼稚園・保育園・こども園について学ぶ⑤・振り返り
7	地域連携活動①	子どもが関わる地域の取り組みについて学ぶ①
8	地域連携活動②	子どもが関わる地域の取り組みについて学ぶ②
9	地域連携活動③	子どもが関わる地域の取り組みについて学ぶ③
10	地域連携活動④	子どもが関わる地域の取り組みについて学ぶ④・振り返り
11	大学から地域への発信①	IPU生としての地域貢献について考える①
12	大学から地域への発信②	IPU生としての地域貢献について考える②
13	大学から地域への発信③	IPU生としての地域貢献について考える③
14	大学から地域への発信④	IPU生としての地域貢献について考える④
15	大学から地域への発信⑤	IPU生としての地域貢献について考える⑤・振り返り
16		

科目コード	14208				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [FE2522組用]				担当者名	畠中 要輔／竹下 厚志／中安 翼／羽田 あずさ／小澤 尚子／渡邊 亮／伊藤 仁美			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにグループや個人で伝える力を中心に実践的に学ぶ事とする。

<授業の到達目標>

本学の五訓を意識し、主体的に取り組むことが出来る。自分の考えを自分自身の言葉で伝えることが出来る。他人を敬い、発表を傾聴することが出来る。

<授業の方法>

本授業は何度も人前で発表する機会を設け、失敗を恐れず、自己表現を続ける。クラス全体での発表もあるが、グループでの発表を繰り返すことで、自信をつけ、前進する力を身につける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの発表、クラス全体での発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：スピーチ、プレゼンテーションの準備 3時間、復習：振り返り 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（グループワーク、授業への取り組み態度等）30%、小課題（原稿、プレゼン資料等）50%、最終レポート20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	非認知能力について	授業オリエンテーション
2	非認知能力について2	自己紹介、他己紹介
3	プレゼンテーション	プレゼンスライド作成
4	プレゼンテーション	発表、振り返り
5	ビブリオバトル	原稿作成、練習
6	ビブリオバトル	発表
7	スピーチコンテスト	概要について
8	スピーチコンテスト	練習
9	スピーチコンテスト	予選
10	スピーチコンテスト	決勝
11	スピーチコンテスト	振り返り、スピーチコンテスト2について
12	スピーチコンテスト2	練習
13	スピーチコンテスト2	予選
14	スピーチコンテスト2	決勝
15	スピーチコンテスト2	振り返り、まとめ
16		

科目コード	14208				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [FE2521組用]				担当者名	畠中 要輔／竹下 厚志／中安 翼／羽田 あずさ／小澤 尚子／渡邊 亮／伊藤 仁美			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにグループや個人で伝える力を中心に実践的に学ぶ事とする。

<授業の到達目標>

本学の五訓を意識し、主体的に取り組むことが出来る。自分の考えを自分自身の言葉で伝えることが出来る。他人を敬い、発表を傾聴することが出来る。

<授業の方法>

本授業は何度も人前で発表する機会を設け、失敗を恐れず、自己表現を続ける。クラス全体での発表もあるが、グループでの発表を繰り返すことで、自信をつけ、前進する力を身につける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの発表、クラス全体での発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：スピーチ、プレゼンテーションの準備 3時間、復習：振り返り 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（グループワーク、授業への取り組み態度等）30%、小課題（原稿、プレゼン資料等）50%、最終レポート20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	非認知能力について	授業オリエンテーション
2	非認知能力について2	自己紹介、他己紹介
3	プレゼンテーション	プレゼンスライド作成
4	プレゼンテーション	発表、振り返り
5	ビブリオバトル	原稿作成、練習
6	ビブリオバトル	発表
7	スピーチコンテスト	概要について
8	スピーチコンテスト	練習
9	スピーチコンテスト	予選
10	スピーチコンテスト	決勝
11	スピーチコンテスト	振り返り、スピーチコンテスト2について
12	スピーチコンテスト2	練習
13	スピーチコンテスト2	予選
14	スピーチコンテスト2	決勝
15	スピーチコンテスト2	振り返り、まとめ
16		

科目コード	14208				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [PP用]				担当者名	仙波 慎平／浦 佑大／清田 美紀／大井 理緒／佐藤 伸之／堀川 峻／坂手 雅斗／野上 里菜／降屋 丞			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開しIPUの特徴を理解するとともに、地域社会を変革する実際的な提案（プレゼンテーション）を行うことをめざす。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの特徴と魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を高校生にPRしよう」とプロジェクト学習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有りグループでの活動を中心とし、意見の提案・交換・まとめ・プレゼンテーションまで行う。そのための個々の役割を果たす。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力（五訓）の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。
・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法＋理由記述）
・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法＋理由記述）
・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法＋理由記述）
・振り返り①：チーム作りと環太平洋大学を知るの振り返りレポート（20点）
・振り返り②：環太平洋大学PRプレゼンまでのレポート（20点）
・振り返り③：チーム作りとプロジェクトの振り返りレポート（20点）
・振り返り④：プレゼンの

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	概要と本授業の目的	・本授業の目的と内容・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念（五訓）・各組に分かれたオリエンテーション（自己紹介等）
2	チームビルディング	・1クラス10チーム（8名程度）のチーム作り・チーム内での自己紹介、チーム名・チーム目標の設定・チームビルディングゲーム
3	チームビルディング②	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	規範・規律・道徳に関して	日本人らしさとは（武士道を題材に）
5	フィールドワーク計画①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	フィールドワーク計画②	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成・プレゼンテーションの役割分担・リハーサル
7	フィールドワーク実行①	フィールドワーク
8	フィールドワーク実行②	フィールドワーク
9	フィールドワーク③	フィールドワーク
10	フィールドワーク分析・振り返り①	プレゼンに向けた振り返りと資料づくり
11	フィールドワーク分析・振り返り②	プレゼンに向けた振り返りと資料づくり
12	プレゼン①	フィールドワークの結果プレゼン報告
13	プレゼン②	フィールドワークの結果プレゼン報告②
14	プレゼン③	フィールドワークの結果プレゼン報告
15	まとめ	本講義のまとめ最終課題の説明
16		

科目コード	14210				区 分	教養科目			
授業 科目名	ボランティア活動				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐に渡っている。これからの社会を考えると、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では実際のボランティア活動を通して、社会が直面する問題を理解していく。

<授業の到達目標>

ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得する。

<授業の方法>

自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動をおこなう。事前指導、事後指導（レポート作成等）、レポートによる報告をおこなう。直島スタディツアー（現代経営学科のみ・定員10名）農業体験（全学科）選挙立会人（全学科）などのプログラムも用意している。詳細はClassroomにて別途指示する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ボランティア活動はアクティブラーニングと位置付けられている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学修：事前指導などともなう諸活動に参加する事。事後学修：事後指導（レポート作成）、報告会などの諸活動に参加する事。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ボランティア活動オリエンテーション（20%）、ボランティア活動に関する事前調査（10%）、ボランティア活動事後レポート（70%）

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア活動事後指導（2）	発表指導
14	私が変わる、社会は変わる～21 世紀の市民社会とボランティア活動	ボランティア活動とは何かを発表する
15	ボランティアに学生はどう関わるべきか	学生のボランティア参加の現状と課題について発表する
16		

科目コード	55007				区 分	教養科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本学における取得可能な資格と進路の関わり
2	学びと将来の進路 1	目標とする資格や免許、希望進路について調査
3	学びと将来の進路 2	医療従事とは（柔道整復師業務と人の身体の仕組み）
4	学びと将来の進路 3	柔道整復師の業界を知る①
5	学びと将来の進路 4	健康・医療・スポーツと柔道整復師 1（柔道整復師業務と外傷について）
6	学びと将来の進路 5	健康・医療・スポーツと柔道整復師 2（柔道整復師業務と外傷について）
7	大学生活の振り返り 1	半期の振り返りと後期にむけての目標設定
8	学びと将来の進路 6	目標とする資格・免許、進路希望、学科での学びについて各種現場での活動例（接骨院、医療機関、救護活動、トレーナー活動）とは
9	学びと将来の進路 7	相手に思いを伝えるスピーチとは？
10	学びと将来の進路 8	柔道整復師の業界を知る②
11	学びと将来の進路 9	健康・医療・スポーツと柔道整復師 3（柔道整復師業務と応急処置について）
12	学びと将来の進路 10	健康・医療・スポーツと柔道整復師 4（柔道整復師業務と外傷・障害予防について）（テーピングとは）
13	学びと将来の進路 11	健康・医療・スポーツと柔道整復師 5（柔道整復師業務と外傷・障害予防について）（ストレッチとは）
14	学びと将来の進路 12	健康・医療・スポーツと柔道整復師 6（まとめ）
15	1年間の振り返りを行うとともに、次年度の目標設定	1年間の振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PH用				担当者名	河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 準備等事前に告知された課題1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2022年3月1日） スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版 東洋館出版社
日本漢字能力検定協会（2016年4月4日） 文章検公式テキスト3級【公式】 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等） 副学長講話	大学を知る、五訓・初期評価
2	第1回大学生のための非認知能力	大学生のための非認知能力
3	第2回非認知能力の伸ばし方	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	文章力の必要性
5	文章力検定3級試験	文章力検定3級試験
6	メンター講話1	メンター講話1
7	第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	メンター講話2	メンター講話2
9	メンター講話3	メンター講話3
10	スポーツ医学検定の概要スポーツ医学検定1	スポーツ医学検定の概要
11	スポーツ医学検定2	スポーツ医学検定2
12	スポーツ医学検定3	スポーツ医学検定3
13	スポーツ医学検定4	スポーツ医学検定4
14	スポーツ医学検定5	スポーツ医学検定5
15	文章力検定模擬試験	文章力検定模擬試験

16	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
17	スポーツ医学検定6	スポーツ医学検定6
18	第4回社会人になった自分を描く	社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定7	スポーツ医学検定7
20	スポーツ医学検定8	スポーツ医学検定8
21	スポーツ医学検定9	スポーツ医学検定9
22	スポーツ医学検定10	スポーツ医学検定10
23	人権講和	人権講和
24	スポーツ医学検定試験	スポーツ医学検定試験
25	文章力検定対策1	文章力検定対策1
26	文章力検定対策2	文章力検定対策2
27	文章力検定対策3	文章力検定対策3
28	文章力検定最終試験	文章力検定最終試験
29	第5回社会人になった自分を描く	社会人になった自分を描く
30	1年生・2年生学年末交流	1年生・2年生学年末交流

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PH用				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 準備等事前に告知された課題1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2022年3月1日） スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版 東洋館出版社
日本漢字能力検定協会（2016年4月4日） 文章検公式テキスト3級【公式】 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等） 副学長講話	大学を知る、五訓・初期評価
2	第1回大学生のための非認知能力	大学生のための非認知能力
3	第2回非認知能力の伸ばし方	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	文章力の必要性
5	文章力検定3級試験	文章力検定3級試験
6	メンター講話1	メンター講話1
7	第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	メンター講話2	メンター講話2
9	メンター講話3	メンター講話3
10	スポーツ医学検定の概要スポーツ医学検定1	スポーツ医学検定の概要
11	スポーツ医学検定2	スポーツ医学検定2
12	スポーツ医学検定3	スポーツ医学検定3
13	スポーツ医学検定4	スポーツ医学検定4
14	スポーツ医学検定5	スポーツ医学検定5
15	文章力検定模擬試験	文章力検定模擬試験

16	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
17	スポーツ医学検定6	スポーツ医学検定6
18	第4回社会人になった自分を描く	社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定7	スポーツ医学検定7
20	スポーツ医学検定8	スポーツ医学検定8
21	スポーツ医学検定9	スポーツ医学検定9
22	スポーツ医学検定10	スポーツ医学検定10
23	人権講和	人権講和
24	スポーツ医学検定試験	スポーツ医学検定試験
25	文章力検定対策1	文章力検定対策1
26	文章力検定対策2	文章力検定対策2
27	文章力検定対策3	文章力検定対策3
28	文章力検定最終試験	文章力検定最終試験
29	第5回社会人になった自分を描く	社会人になった自分を描く
30	1年生・2年生学年末交流	1年生・2年生学年末交流

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PH用				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 準備等事前に告知された課題1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2022年3月1日） スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版 東洋館出版社
日本漢字能力検定協会（2016年4月4日） 文章検公式テキスト3級【公式】 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等） 副学長講話	大学を知る、五訓・初期評価
2	第1回大学生のための非認知能力	大学生のための非認知能力
3	第2回非認知能力の伸ばし方	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	文章力の必要性
5	文章力検定3級試験	文章力検定3級試験
6	メンター講話1	メンター講話1
7	第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	メンター講話2	メンター講話2
9	メンター講話3	メンター講話3
10	スポーツ医学検定の概要スポーツ医学検定1	スポーツ医学検定の概要
11	スポーツ医学検定2	スポーツ医学検定2
12	スポーツ医学検定3	スポーツ医学検定3
13	スポーツ医学検定4	スポーツ医学検定4
14	スポーツ医学検定5	スポーツ医学検定5
15	文章力検定模擬試験	文章力検定模擬試験

16	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
17	スポーツ医学検定6	スポーツ医学検定6
18	第4回社会人になった自分を描く	社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定7	スポーツ医学検定7
20	スポーツ医学検定8	スポーツ医学検定8
21	スポーツ医学検定9	スポーツ医学検定9
22	スポーツ医学検定10	スポーツ医学検定10
23	人権講和	人権講和
24	スポーツ医学検定試験	スポーツ医学検定試験
25	文章力検定対策1	文章力検定対策1
26	文章力検定対策2	文章力検定対策2
27	文章力検定対策3	文章力検定対策3
28	文章力検定最終試験	文章力検定最終試験
29	第5回社会人になった自分を描く	社会人になった自分を描く
30	1年生・2年生学年末交流	1年生・2年生学年末交流

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用				担当者名	大池 淳一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用				担当者名	見村 一郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC日本人用				担当者名	豊里 健			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]BC留学生用				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
少人数（2～3人）や中人数（4～5人）のグループになって、ディスカッションを行うことがある。また、グループで話し合ったことを、端的にまとめて発表することがある。積極的な態度で参加することが望まれる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 講義の準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	IPU環太平洋大学で学ぶための目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU特命教授 中山芳一先生講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	IPU特命教授 中山芳一先生講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	文章力検定に向けて（オンデマンド授業）	なぜ、いま大学生に文章力が求められているのかを考え、どのような勉強の仕方を行っていくか計画を立てる
5	文章力検定3級試験	全員が文章力検定3級を受験し、自分の今の位置を知る
6	チームビルディングアクティビティ①	4人グループになって、バスタ20本、テープ、ひも等を使い、マシュマロを一番高い位置にのせるマシュマロチャレンジを行う。コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
7	IPU特命教授 中山芳一先生講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	金融講話（SMBC）	金融業界で働く方を講師に迎え、講話を聴く
9	金融リテラシー検定	金融関係に関する基礎的な知識を身に付け、経済経営学部学生として専門科目の学びへとつなげていく
10	現代経営学科のプロジェクト紹介	現代経営学科には、専門知識を活かした実践型の学びを実現するために様々なプロジェクトが立ち上がっている。先生や先輩方の取組を聞いて、自ら主体的に関わるために、全体像を知る。
11	学科教員講話①	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
12	レポート作成のための知的財産権セミナー	専門家の話を聞き、レポート作成について学ぶ。

	ー	
13	学科教員講話②	現代経営学科の教員から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
14	日本人学生・留学生の交流会	文化面での交流を行う
15	文章力検定模擬試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、模擬試験を受験する
16	後期ガイダンス、目標設定	1年生後期をスムーズに開始できるよう目標を設定し、高次の学びへとつなげていく
17	チームビルディングアクティビティ②	チームビルディングアクティビティを通して、コミュニケーション力、社会性、協調性、論理的思考の育成を目指す。
18	IPU特命教授 中山芳一先生講話④	第4回 社会人になった自分を描く
19	卒業生あるいは若手起業家による講話	卒業生あるいは若手起業家から話を聞き、今後のキャリア選択に活かす
20	日本人学生・留学生の交流会	スポーツ面での交流を行う
21	地域課題解決ワーク①	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
22	地域課題解決ワーク②	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
23	地域課題解決ワーク③	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク④	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
25	地域課題解決ワーク⑤	各グループが調査した地域が抱える問題点とその解決策について、プレゼンテーションを行う。
26	役員講話	学園関係者の講話を聴き、IPU環太平洋大学の学生として誇りをもって、学びに向かうために自己を振り返る。
27	人権講話	人権に関する講話を聴き、社会が抱える問題を意識し、解決のためにどうしたらよいか考える。
28	文章力検定最終試験	全員が文章力検定3級合格を目指し、文章力試験3級を受験する。すでに3級を合格している場合には、準2級に挑戦する。
29	IPU特命教授 中山芳一先生講話⑤	第5回 社会人になった自分を描く
30	学年末集会	1年間を振り返り、2年生へつなげる

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環トレ	文章力検定試験対策
13	環トレ	文章力検定試験対策
14	環トレ	文章力検定試験対策
15	環トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環トレ	文章力検定試験対策
13	環トレ	文章力検定試験対策
14	環トレ	文章力検定試験対策
15	環トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	清田 美紀			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環境トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環境トレ	文章力検定試験対策
13	環境トレ	文章力検定試験対策
14	環境トレ	文章力検定試験対策
15	環境トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	大井 理緒／仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環境	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環境	文章力検定試験対策
13	環境	文章力検定試験対策
14	環境	文章力検定試験対策
15	環境	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環境トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環境トレ	文章力検定試験対策
13	環境トレ	文章力検定試験対策
14	環境トレ	文章力検定試験対策
15	環境トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	堀川 峻			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環トレ	文章力検定試験対策
13	環トレ	文章力検定試験対策
14	環トレ	文章力検定試験対策
15	環トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環トレ	文章力検定試験対策
13	環トレ	文章力検定試験対策
14	環トレ	文章力検定試験対策
15	環トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	野上 里菜			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環境トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環境トレ	文章力検定試験対策
13	環境トレ	文章力検定試験対策
14	環境トレ	文章力検定試験対策
15	環境トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PP用				担当者名	降屋 丞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環境トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う。
12	環境トレ	文章力検定試験対策
13	環境トレ	文章力検定試験対策
14	環境トレ	文章力検定試験対策
15	環境トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベントの運営方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③

21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定対策
27	環トレ	文章力検定対策
28	環トレ	文章力検定対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	前田 誠一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエンティストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエンティストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエンティストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエンティストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	桂 秀樹			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	小村 淳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	山本 清人			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	鷹取 晃巨			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	集団行動を体験する
9	クラス活動②	個人面談
10	クラス活動③	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	前期末テスト	前期末テスト
16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	選択学習①	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
20	選択学習②	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
21	選択学習③	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
22	選択学習④	集団行動 or 基礎学力 or サイエнтиストor トレ検3級学習
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動④	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ10
28	基礎学力	ことば入門テーマ11
29	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
30	非認知能力⑤	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]FE用				担当者名	畠中 要輔／渡邊 亮／竹下 厚志／伊藤 仁美 ／中安 翼／羽田 あずさ／小澤 尚子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間をどう過ごすのか、また4年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

非認知能力授業でのグループワーク、発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テスト前の予習3時間、テスト後の復習2時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）30%、小課題（レポート等）20%、環トレ課題（基礎学力・文章力）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	環トレ1	
6	スクールフェスに向けて1	チームビルディング
7	環トレ	
8	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
9	環トレ	
10	スクールフェスに向けて2	小学校授業見学
11	環トレ	
12	環トレ	
13	環トレ	
14	環トレ	
15	環トレ	
16	環トレ	
17	スクールフェスに向けて3	模擬授業
18	スクールフェスに向けて4	模擬授業
19	スクールフェスに向けて5	準備
20	中山先生講話	社会人になった自分を描く
21	ゲスト講話	
22	環トレ	
23	スクールフェスに向けて6	小学校授業見学

24	スクールフェスに向けて 7	授業
25	ゲスト講話	人権講話
26	スクールフェスに向けて 8	
27	環トレ	
28	ゲスト講話	命の授業
29	文章力検定	
30	中山先生講話	社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]FC用				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話や取り組みを通して、①IPU生としての考え方・態度を身に付ける。②前進力を身に付ける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目指す。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカーによる講話）、2. グループワーク、3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワークによる教え合い）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 テキストの指定範囲 1時間 復習 動画教材を活用した自学自習 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等） 30%、小課題（レポート等） 20%、環トレ課題（基礎学力・文章力）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学の教育方針・創志学園の歴史について
2	非認知能力に関する講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	非認知能力に関する講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	動画教材から学ぶ	日曜劇場『御上先生』から見る“教育” 課外授業 ～教育論と表現論を知る～
5	環トレ（基礎学力）①	就活学力試験対策①
6	学科教員による講話	教育・保育について
7	環トレ（基礎学力）②	就活学力試験対策②
8	非認知能力に関する講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
9	環トレ（基礎学力）③	就活学力試験対策③
10	保育者による講話	保育の仕事について
11	環トレ（基礎学力）④	就活学力試験対策④
12	環トレ（基礎学力）⑤	就活学力試験対策⑤
13	環トレ（基礎学力）⑥	就活学力試験対策⑥
14	環トレ（基礎学力）⑦	就活学力試験対策⑦
15	環トレ（基礎学力）⑧	就活学力試験対策⑧
16	環トレ（基礎学力）⑨	就活学力試験対策⑨
17	環トレ（基礎学力）⑩	就活学力試験対策⑩
18	ゲストスピーカーによる講話	社会人のマナーについて
19	環トレ（文章力）①	文章力検定対策①
20	非認知能力に関する講話	第4回 社会人になった自分を描く
21	ゲストスピーカーによる講話	あきらめない「強い心」
22	環トレ（基礎学力）⑪	就活学力試験対策⑪
23	環トレ（文章力）②	文章力検定対策②

24	環トレ（文章力）③	文章力検定対策③
25	人権教育研修会	人権について考える
26	環トレ（文章力）④	文章力検定対策④
27	環トレ（基礎学力）⑫	就活学力試験対策⑫
28	ゲストスピーカーによる講話	命の大切さについて
29	環トレ（文章力）⑤	文章力検定 最終試験
30	非認知能力に関する講話	第5回 社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]FC用				担当者名	大久保 諒			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話や取り組みを通して、①IPU生としての考え方・態度を身に付ける。②前進力を身に付ける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目指す。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカーによる講話）、2. グループワーク、3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワークによる教え合い）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 テキストの指定範囲 1時間 復習 動画教材を活用した自学自習 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等） 30%、小課題（レポート等） 20%、環トレ課題（基礎学力・文章力）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学の教育方針・創志学園の歴史について
2	非認知能力に関する講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	非認知能力に関する講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	動画教材から学ぶ	日曜劇場『御上先生』から見る“教育” 課外授業 ～教育論と表現論を知る～
5	環トレ（基礎学力）①	就活学力試験対策①
6	学科教員による講話	教育・保育について
7	環トレ（基礎学力）②	就活学力試験対策②
8	非認知能力に関する講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
9	環トレ（基礎学力）③	就活学力試験対策③
10	保育者による講話	保育の仕事について
11	環トレ（基礎学力）④	就活学力試験対策④
12	環トレ（基礎学力）⑤	就活学力試験対策⑤
13	環トレ（基礎学力）⑥	就活学力試験対策⑥
14	環トレ（基礎学力）⑦	就活学力試験対策⑦
15	環トレ（基礎学力）⑧	就活学力試験対策⑧
16	環トレ（基礎学力）⑨	就活学力試験対策⑨
17	環トレ（基礎学力）⑩	就活学力試験対策⑩
18	ゲストスピーカーによる講話	社会人のマナーについて
19	環トレ（文章力）①	文章力検定対策①
20	非認知能力に関する講話	第4回 社会人になった自分を描く
21	ゲストスピーカーによる講話	あきらめない「強い心」
22	環トレ（基礎学力）⑪	就活学力試験対策⑪
23	環トレ（文章力）②	文章力検定対策②

24	環トレ（文章力）③	文章力検定対策③
25	人権教育研修会	人権について考える
26	環トレ（文章力）④	文章力検定対策④
27	環トレ（基礎学力）⑫	就活学力試験対策⑫
28	ゲストスピーカーによる講話	命の大切さについて
29	環トレ（文章力）⑤	文章力検定 最終試験
30	非認知能力に関する講話	第5回 社会人になった自分を描く

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー [通年]FC用				担当者名	高崎 展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話や取り組みを通して、①IPU生としての考え方・態度を身に付ける。②前進力を身に付ける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目指す。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカーによる講話）、2. グループワーク、3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワークによる教え合い）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 テキストの指定範囲 1時間 復習 動画教材を活用した自学自習 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等） 30%、小課題（レポート等） 20%、環トレ課題（基礎学力・文章力）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学の教育方針・創志学園の歴史について
2	非認知能力に関する講話①	第1回 大学生のための非認知能力
3	非認知能力に関する講話②	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	動画教材から学ぶ	日曜劇場『御上先生』から見る“教育” 課外授業 ～教育論と表現論を知る～
5	環トレ（基礎学力）①	就活学力試験対策①
6	学科教員による講話	教育・保育について
7	環トレ（基礎学力）②	就活学力試験対策②
8	非認知能力に関する講話③	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
9	環トレ（基礎学力）③	就活学力試験対策③
10	保育者による講話	保育の仕事について
11	環トレ（基礎学力）④	就活学力試験対策④
12	環トレ（基礎学力）⑤	就活学力試験対策⑤
13	環トレ（基礎学力）⑥	就活学力試験対策⑥
14	環トレ（基礎学力）⑦	就活学力試験対策⑦
15	環トレ（基礎学力）⑧	就活学力試験対策⑧
16	環トレ（基礎学力）⑨	就活学力試験対策⑨
17	環トレ（基礎学力）⑩	就活学力試験対策⑩
18	ゲストスピーカーによる講話	社会人のマナーについて
19	環トレ（文章力）①	文章力検定対策①
20	非認知能力に関する講話	第4回 社会人になった自分を描く
21	ゲストスピーカーによる講話	あきらめない「強い心」
22	環トレ（基礎学力）⑪	就活学力試験対策⑪
23	環トレ（文章力）②	文章力検定対策②

24	環トレ（文章力）③	文章力検定対策③
25	人権教育研修会	人権について考える
26	環トレ（文章力）④	文章力検定対策④
27	環トレ（基礎学力）⑫	就活学力試験対策⑫
28	ゲストスピーカーによる講話	命の大切さについて
29	環トレ（文章力）⑤	文章力検定 最終試験
30	非認知能力に関する講話	第5回 社会人になった自分を描く

科目コード	13200				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PH用				担当者名	坂本 賢広／平林 大輔／橋口 浩治			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。②前進力（積極性）を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。ことを到達目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版 出版社 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッション

10	柔道整復学の復習⑥	を通して発表する ・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29	中山芳一先生講和②	・社会人になった自分を描くため講師を呼び非認知能力について学びグループディスカッションを通して発表する。
30	前後期を総合した評価	・2年生1年間を通じて自己分析を行う・キャリア形成に向けた自己分析④

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PS用				担当者名	田中 耕作			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④ 専門的な学びへの移行に向けた基礎学力の深化と応用力の定着。以上の点を踏まえ、大学生としての資質をさらに磨き、能動的に学び続ける姿勢を確立するとともに、社会で求められる能力を実践的に身につけることを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題) 60%, 課題レポート（課題, 発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する。
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ2と3
6	日誌の書き方	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ。
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ4と5
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ5と6
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる。
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する

16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	基礎学力	ことば入門
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：テーマ7
22	基礎学力	ことば入門：テーマ8
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	基礎学力	ことば入門：テーマ10
28	基礎学力	ことば入門：テーマ11
29	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
30	振り返り	後期学期末集会

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PS用				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④ 専門的な学びへの移行に向けた基礎学力の深化と応用力の定着。以上の点を踏まえ、大学生としての資質をさらに磨き、能動的に学び続ける姿勢を確立するとともに、社会で求められる能力を実践的に身につけることを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題) 60%, 課題レポート（課題, 発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する。
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ2と3
6	日誌の書き方	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ。
7	コミュニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ4と5
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ5と6
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる。
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する

16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	基礎学力	ことば入門
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：テーマ7
22	基礎学力	ことば入門：テーマ8
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	基礎学力	ことば入門：テーマ10
28	基礎学力	ことば入門：テーマ11
29	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
30	振り返り	後期学期末集会

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PS用				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④ 専門的な学びへの移行に向けた基礎学力の深化と応用力の定着。以上の点を踏まえ、大学生としての資質をさらに磨き、能動的に学び続ける姿勢を確立するとともに、社会で求められる能力を実践的に身につけることを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題) 60%, 課題レポート（課題, 発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する。
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ2と3
6	日誌の書き方	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ。
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ4と5
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ5と6
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる。
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する

16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	基礎学力	ことば入門
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：テーマ7
22	基礎学力	ことば入門：テーマ8
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	基礎学力	ことば入門：テーマ10
28	基礎学力	ことば入門：テーマ11
29	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
30	振り返り	後期学期末集会

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PS用				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④ 専門的な学びへの移行に向けた基礎学力の深化と応用力の定着。以上の点を踏まえ、大学生としての資質をさらに磨き、能動的に学び続ける姿勢を確立するとともに、社会で求められる能力を実践的に身につけることを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題) 60%, 課題レポート（課題, 発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する。
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ2と3
6	日誌の書き方	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ。
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ4と5
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ5と6
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる。
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する

16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	基礎学力	ことば入門
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：テーマ7
22	基礎学力	ことば入門：テーマ8
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	基礎学力	ことば入門：テーマ10
28	基礎学力	ことば入門：テーマ11
29	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
30	振り返り	後期学期末集会

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PS用				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④ 専門的な学びへの移行に向けた基礎学力の深化と応用力の定着。以上の点を踏まえ、大学生としての資質をさらに磨き、能動的に学び続ける姿勢を確立するとともに、社会で求められる能力を実践的に身につけることを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題) 60%, 課題レポート（課題, 発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する。
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ2と3
6	日誌の書き方	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ。
7	コミュニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ4と5
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：テーマ5と6
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる。
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する

16	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
17	基礎学力	ことば入門
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：テーマ7
22	基礎学力	ことば入門：テーマ8
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	基礎学力	ことば入門：テーマ10
28	基礎学力	ことば入門：テーマ11
29	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
30	振り返り	後期学期末集会

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

＜参考書＞

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行う②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	坂元 智子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	早田 剛			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	十河 直太			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

＜参考書＞

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討③	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑤	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑥	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行う②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]PP用				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、学外イベントを通して、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 40%環境レ言語力目標達成 30%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト
株式会社KEIアドバンス 運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境トレ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿についてクラス内役割決定②
9	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討⑤	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑥	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑦	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備
14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環境トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する

17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]FE用				担当者名	高橋 章二／濱嶋 幸司			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 50%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解、非認知能力、五訓について
2	役員講話	・建学の精神等について講話を聴いて深める
3	グループ対抗オリエンテーション大会	オリエンテーションを活用したチームビルディング
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	環トレ②	基礎学力の向上
7	環トレ③	基礎学力の向上
8	環トレ④	基礎学力の向上
9	環トレ⑤	基礎学力の向上
10	環トレ⑥	基礎学力の向上
11	環トレ⑦	基礎学力の向上
12	環トレ⑧	基礎学力の向上
13	教育課題研究 多様性・SDGs 私たちの提案	基礎ゼミと関連させ多様性・SDGs に関するグループ提案を行う
14	環トレ⑨	基礎学力の向上
15	環トレ⑩	環トレ確認テスト
16	環トレ⑪	基礎学力の向上
17	キャリア①	三志会（公務員、教員、企業）の講話を聴きその役割等について理解する
18	環トレ⑫	基礎学力の向上
19	キャリア②	3年生受験対策 大志会、教職支援室の講話 3年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ

20	学校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
21	外部講師講話	外部の講師から夢実現の方法について学ぶ
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	環トレ⑬	基礎学力の向上
24	キャリア③	4年生受験対策 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	環トレ⑭	基礎学力の向上
26	役員講話	役員講話から自らの生き方についてふりかえり考える
27	プレゼンコンテスト	基礎ゼミと関連を持たせ学科対抗グループ発表会
28	環トレ⑮	文章能力試験
29	人権講話	現在の人権課題について考え、議論を通して人権意識を高める
30	環トレ⑯	環トレ年間まとめテスト

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]FE用				担当者名	武 幸枝			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 50%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解、非認知能力、五訓について
2	役員講話	・建学の精神等について講話を聴いて深める
3	グループ対抗オリエンテーション大会	オリエンテーションを活用したチームビルディング
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	環トレ②	基礎学力の向上
7	環トレ③	基礎学力の向上
8	環トレ④	基礎学力の向上
9	環トレ⑤	基礎学力の向上
10	環トレ⑥	基礎学力の向上
11	環トレ⑦	基礎学力の向上
12	環トレ⑧	基礎学力の向上
13	教育課題研究 多様性・SDGs 私たちの提案	基礎ゼミと関連させ多様性・SDGs に関するグループ提案を行う
14	環トレ⑨	基礎学力の向上
15	環トレ⑩	環トレ確認テスト
16	環トレ⑪	基礎学力の向上
17	キャリア①	三志会（公務員、教員、企業）の講話を聴きその役割等について理解する
18	環トレ⑫	基礎学力の向上
19	キャリア②	3年生受験対策 大志会、教職支援室の講話 3年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ

20	学校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
21	外部講師講話	外部の講師から夢実現の方法について学ぶ
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	環トレ⑬	基礎学力の向上
24	キャリア③	4年生受験対策 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	環トレ⑭	基礎学力の向上
26	役員講話	役員講話から自らの生き方についてふりかえり考える
27	プレゼンコンテスト	基礎ゼミと関連を持たせ学科対抗グループ発表会
28	環トレ⑮	文章能力試験
29	人権講話	現在の人権課題について考え、議論を通して人権意識を高める
30	環トレ⑯	環トレ年間まとめテスト

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]FE用				担当者名	三堀 仁／四宮 貴久			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 50%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解、非認知能力、五訓について
2	役員講話	・建学の精神等について講話を聴いて深める
3	グループ対抗オリエンテーション大会	オリエンテーションを活用したチームビルディング
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	環トレ②	基礎学力の向上
7	環トレ③	基礎学力の向上
8	環トレ④	基礎学力の向上
9	環トレ⑤	基礎学力の向上
10	環トレ⑥	基礎学力の向上
11	環トレ⑦	基礎学力の向上
12	環トレ⑧	基礎学力の向上
13	教育課題研究 多様性・SDGs 私たちの提案	基礎ゼミと関連させ多様性・SDGs に関するグループ提案を行う
14	環トレ⑨	基礎学力の向上
15	環トレ⑩	環トレ確認テスト
16	環トレ⑪	基礎学力の向上
17	キャリア①	三志会（公務員、教員、企業）の講話を聴きその役割等について理解する
18	環トレ⑫	基礎学力の向上
19	キャリア②	3年生受験対策 大志会、教職支援室の講話 3年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ

20	学校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
21	外部講師講話	外部の講師から夢実現の方法について学ぶ
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	環トレ⑬	基礎学力の向上
24	キャリア③	4年生受験対策 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	環トレ⑭	基礎学力の向上
26	役員講話	役員講話から自らの生き方についてふりかえり考える
27	プレゼンコンテスト	基礎ゼミと関連を持たせ学科対抗グループ発表会
28	環トレ⑮	文章能力試験
29	人権講話	現在の人権課題について考え、議論を通して人権意識を高める
30	環トレ⑯	環トレ年間まとめテスト

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]FE用				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 50%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解、非認知能力、五訓について
2	役員講話	・建学の精神等について講話を聴いて深める
3	グループ対抗オリエンテーション大会	オリエンテーションを活用したチームビルディング
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	環トレ②	基礎学力の向上
7	環トレ③	基礎学力の向上
8	環トレ④	基礎学力の向上
9	環トレ⑤	基礎学力の向上
10	環トレ⑥	基礎学力の向上
11	環トレ⑦	基礎学力の向上
12	環トレ⑧	基礎学力の向上
13	教育課題研究 多様性・SDGs 私たちの提案	基礎ゼミと関連させ多様性・SDGs に関するグループ提案を行う
14	環トレ⑨	基礎学力の向上
15	環トレ⑩	環トレ確認テスト
16	環トレ⑪	基礎学力の向上
17	キャリア①	三志会（公務員、教員、企業）の講話を聴きその役割等について理解する
18	環トレ⑫	基礎学力の向上
19	キャリア②	3年生受験対策 大志会、教職支援室の講話 3年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ

20	学校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
21	外部講師講話	外部の講師から夢実現の方法について学ぶ
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	環トレ⑬	基礎学力の向上
24	キャリア③	4年生受験対策 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	環トレ⑭	基礎学力の向上
26	役員講話	役員講話から自らの生き方についてふりかえり考える
27	プレゼンコンテスト	基礎ゼミと関連を持たせ学科対抗グループ発表会
28	環トレ⑮	文章能力試験
29	人権講話	現在の人権課題について考え、議論を通して人権意識を高める
30	環トレ⑯	環トレ年間まとめテスト

科目コード	13200				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]FE用				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 50%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解、非認知能力、五訓について
2	役員講話	・建学の精神等について講話を聴いて深める
3	グループ対抗オリエンテーション大会	オリエンテーションを活用したチームビルディング
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	環トレ②	基礎学力の向上
7	環トレ③	基礎学力の向上
8	環トレ④	基礎学力の向上
9	環トレ⑤	基礎学力の向上
10	環トレ⑥	基礎学力の向上
11	環トレ⑦	基礎学力の向上
12	環トレ⑧	基礎学力の向上
13	教育課題研究 多様性・SDGs 私たちの提案	基礎ゼミと関連させ多様性・SDGs に関するグループ提案を行う
14	環トレ⑨	基礎学力の向上
15	環トレ⑩	環トレ確認テスト
16	環トレ⑪	基礎学力の向上
17	キャリア①	三志会（公務員、教員、企業）の講話を聴きその役割等について理解する
18	環トレ⑫	基礎学力の向上
19	キャリア②	3年生受験対策 大志会、教職支援室の講話 3年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ

20	学校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
21	外部講師講話	外部の講師から夢実現の方法について学ぶ
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	環トレ⑬	基礎学力の向上
24	キャリア③	4年生受験対策 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	環トレ⑭	基礎学力の向上
26	役員講話	役員講話から自らの生き方についてふりかえり考える
27	プレゼンコンテスト	基礎ゼミと関連を持たせ学科対抗グループ発表会
28	環トレ⑮	文章能力試験
29	人権講話	現在の人権課題について考え、議論を通して人権意識を高める
30	環トレ⑯	環トレ年間まとめテスト

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]FC用				担当者名	小崎 遼介／増岡 希望			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼン、ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 50%基礎学力課題 50%

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。
3	スケジュール管理	・ゲストを招いて「マイナビ：スケジュール管理」を実施する。
4	社会人基礎力	マイナビでの社会人基礎力を受講する。
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	東岡山IPUこども園連携	東岡山IPUこども園での観察を行う。
7	環トレ②	基礎学力の向上
8	環トレ③	基礎学力の向上
9	東岡山IPUこども園連携	制作物の提供・子どもの観察
10	環トレ④	基礎学力の向上
11	環トレ⑤	基礎学力向上
12	環トレ⑥	基礎学力向上
13	プレゼン準備	・前期の学びの振り返り
14	環トレ⑦	・試験に向けて基礎学力の向上
15	環トレ試験	・基礎学力の定着度確認
16	環トレ確認テスト	後期の目標数値の確認
17	進路決定	公務員・教員・企業3志会について
18	環トレ確認テスト	後期の目標数値の確認
19	文章力検定対策①	基礎学力向上
20	非認知能力	中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く

21	外部講師講演	外部講師による講演
22	文章力検定対策	基礎学力向上
23	環トレ確認テスト	基礎学力向上
24	文章力検定対策②	文章力検定対策
25	環トレ確認テスト	基礎学力向上
26	役員講話	役員講話により、自身の目標設定、夢、挑戦、達成について考える
27	文章力検定対策③	文章力検定対策
28	文章力検定試験	文章力検定試験の受講
29	人権講話	次世代教育学部での人権のあり方について考える
30	非認知能力	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]FC用				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼン、ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 50%基礎学力課題 50%

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。
3	スケジュール管理	・ゲストを招いて「マイナビ：スケジュール管理」を実施する。
4	社会人基礎力	マイナビでの社会人基礎力を受講する。
5	環トレ①	基礎学力の向上
6	東岡山IPUこども園連携	東岡山IPUこども園での観察を行う。
7	環トレ②	基礎学力の向上
8	環トレ③	基礎学力の向上
9	東岡山IPUこども園連携	制作物の提供・子どもの観察
10	環トレ④	基礎学力の向上
11	環トレ⑤	基礎学力向上
12	環トレ⑥	基礎学力向上
13	プレゼン準備	・前期の学びの振り返り
14	環トレ⑦	・試験に向けて基礎学力の向上
15	環トレ試験	・基礎学力の定着度確認
16	環トレ確認テスト	後期の目標数値の確認
17	進路決定	公務員・教員・企業3志会について
18	環トレ確認テスト	後期の目標数値の確認
19	文章力検定対策①	基礎学力向上
20	非認知能力	中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く

21	外部講師講演	外部講師による講演
22	文章力検定対策	基礎学力向上
23	環トレ確認テスト	基礎学力向上
24	文章力検定対策②	文章力検定対策
25	環トレ確認テスト	基礎学力向上
26	役員講話	役員講話により、自身の目標設定、夢、挑戦、達成について考える
27	文章力検定対策③	文章力検定対策
28	文章力検定試験	文章力検定試験の受講
29	人権講話	次世代教育学部での人権のあり方について考える
30	非認知能力	中山芳一先生：第5回社会人になった自分を描く

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC日本人 用				担当者名	宇都宮 浩司／北村 和久			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	学科教員・メンター紹介、学科長講話
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定3級試験
6	日経ストックリーグ①	チームビルド、テーマの考え方
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカー講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	テーマの検討
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
14	日経ストックリーグ③	テーマにもとづいた対象企業選定

15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定模擬試験
16	キャリアについて考える	キャリアを形成するための基礎知識、キャリアセンターの活用方法
17	日経ストックリーグ④	ポートフォリオの決定、レポート内容の方針検討
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
22	論文作成のための知的財産権セミナー	ゲストスピーカー講話
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権について	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	文章力検定最終試験	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC日本人 用				担当者名	田口 雅弘／横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	学科教員・メンター紹介、学科長講話
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定3級試験
6	日経ストックリーグ①	チームビルド、テーマの考え方
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカー講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	テーマの検討
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
14	日経ストックリーグ③	テーマにもとづいた対象企業選定

15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定模擬試験
16	キャリアについて考える	キャリアを形成するための基礎知識、キャリアセンターの活用方法
17	日経ストックリーグ④	ポートフォリオの決定、レポート内容の方針検討
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
22	論文作成のための知的財産権セミナー	ゲストスピーカー講話
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権について	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	文章力検定最終試験	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC日本人 用				担当者名	清水 健太			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	学科教員・メンター紹介、学科長講話
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定3級試験
6	日経ストックリーグ①	チームビルド、テーマの考え方
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカー講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	テーマの検討
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
14	日経ストックリーグ③	テーマにもとづいた対象企業選定

15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定模擬試験
16	キャリアについて考える	キャリアを形成するための基礎知識、キャリアセンターの活用方法
17	日経ストックリーグ④	ポートフォリオの決定、レポート内容の方針検討
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
22	論文作成のための知的財産権セミナー	ゲストスピーカー講話
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権について	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	文章力検定最終試験	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	13200				区 分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC日本人 用				担当者名	赤木 邦江／平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

授業内で指示する。

<参考書>

必要に応じ授業内で指示する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：2年生での「CD：キャリアディベロップメント」の取組みについてキャリア形成に向けた自己理解	学科教員・メンター紹介授業の進め方、評価・成績の基準学科長講話「キャリア形成とは」
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	オンデマンド授業課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	「文章力検定3級」受験
6	日経ストックリーグ①	金融・経済コンテストについて
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカーによる金融に関する講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	金融・経済コンテストについて
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修

12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修
14	日経ストックリーグ③	金融・経済コンテストについて
15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	「文章力検定」模擬試験
16	学科教員講話	「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
17	日経ストックリーグ④	金融・経済コンテストについて
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践「サービス接遇検定3級」学修模擬試験問題：解答・解説
22	ゲストセミナー：論文作成セミナー (Benesse)	論文作成のための「知的財産権」セミナー
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権講話	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	コミュニケーションの表現基礎：文章力	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC日本人 用				担当者名	高 鷲 翔			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	学科教員・メンター紹介、学科長講話
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定3級試験
6	日経ストックリーグ①	チームビルド、テーマの考え方
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカー講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	テーマの検討
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
14	日経ストックリーグ③	テーマにもとづいた対象企業選定

15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定模擬試験
16	キャリアについて考える	キャリアを形成するための基礎知識、キャリアセンターの活用方法
17	日経ストックリーグ④	ポートフォリオの決定、レポート内容の方針検討
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
22	論文作成のための知的財産権セミナー	ゲストスピーカー講話
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権について	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	文章力検定最終試験	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC留学生 用				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	学科教員・メンター紹介、学科長講話
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定3級試験
6	日経ストックリーグ①	チームビルド、テーマの考え方
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカー講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	テーマの検討
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
14	日経ストックリーグ③	テーマにもとづいた対象企業選定

15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定模擬試験
16	キャリアについて考える	キャリアを形成するための基礎知識、キャリアセンターの活用方法
17	日経ストックリーグ④	ポートフォリオの決定、レポート内容の方針検討
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
22	論文作成のための知的財産権セミナー	ゲストスピーカー講話
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権について	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	文章力検定最終試験	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	13200				区 分	教養			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]BC留学生 用				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）4. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	学科教員・メンター紹介、学科長講話
2	メンター講話①	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
3	メンター講話②	メンターの「キャリア形成」の過程、キャリアの捉え方
4	課題検討・レポート提出	課題「キャリア形成について」
5	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定3級試験
6	日経ストックリーグ①	チームビルド、テーマの考え方
7	金融講話（SMBC）	ゲストスピーカー講話
8	金融知識の確認	「金融リテラシー検定」受験
9	日経ストックリーグ②	テーマの検討
10	実社会におけるコミュニケーション講座①	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
11	実社会におけるコミュニケーション講座②	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
12	実社会におけるコミュニケーション講座③	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
13	実社会におけるコミュニケーション講座④	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
14	日経ストックリーグ③	テーマにもとづいた対象企業選定

15	コミュニケーションの表現基礎：文章力	文章力検定模擬試験
16	キャリアについて考える	キャリアを形成するための基礎知識、キャリアセンターの活用方法
17	日経ストックリーグ④	ポートフォリオの決定、レポート内容の方針検討
18	実社会におけるコミュニケーション講座⑤	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
19	実社会におけるコミュニケーション講座⑥	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
20	実社会におけるコミュニケーション講座⑦	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
21	実社会におけるコミュニケーション講座⑧	キャリア形成に役立つコミュニケーション実践
22	論文作成のための知的財産権セミナー	ゲストスピーカー講話
23	アカデミック・スキルズ①	大学での学びの基本スキルの学修
24	アカデミック・スキルズ②	大学での学びの基本スキルの学修
25	アカデミック・スキルズ③	大学での学びの基本スキルの学修
26	人権について	人権委員会による講話
27	アカデミック・スキルズ④	大学での学びの応用スキルの学修
28	文章力検定最終試験	「文章力検定」最終試験
29	アカデミック・スキルズ⑤	大学での学びの応用スキルの学修
30	後期末集会	後期及び学年の振り返り

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取り組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用				担当者名	大池 淳一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用				担当者名	見村 一朗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取り組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC日本人用				担当者名	豊里 健			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取り組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]BC留学生用				担当者名	片上 摩紀／田代 航輝			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PH用				担当者名	河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション/プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	建学の精神・大学理念	建学の精神・大学理念
2	個人面談1	個人面談1
3	個人面談2	個人面談2
4	運動器（骨・筋・関節）の概要1	運動器（骨・筋・関節）の概要1
5	運動器（骨・筋・関節）の概要2	運動器（骨・筋・関節）の概要2
6	運動器（骨・筋・関節）の概要3	運動器（骨・筋・関節）の概要3
7	運動器（骨・筋・関節）の概要4	運動器（骨・筋・関節）の概要4
8	運動器（骨・筋・関節）の概要5	運動器（骨・筋・関節）の概要5
9	運動器（骨・筋・関節）の概要6	運動器（骨・筋・関節）の概要6
10	プレゼンテーションの概要	プレゼンテーションの概要
11	プレゼンテーション1（1人5分）	プレゼンテーション1（1人5分）
12	プレゼンテーション2	プレゼンテーション2
13	プレゼンテーション3	プレゼンテーション3
14	プレゼンテーション4	プレゼンテーション4
15	前期末集会（五訓・中間評価）	前期末集会（五訓・中間評価）
16	個人面談	個人面談
17	個人面談	個人面談
18	プレゼンテーション5	プレゼンテーション5
19	プレゼンテーション6	プレゼンテーション6
20	プレゼンテーション7	プレゼンテーション7
21	プレゼンテーション8	プレゼンテーション8
22	プレゼンテーション9	プレゼンテーション9
23	プレゼンテーション10	プレゼンテーション10

24	スポーツ医学検定試験	スポーツ医学検定試験
25	学科長講話	学科長講話
26	学部長講話	学部長講話
27	健康科学科教員講話①	健康科学科教員講話①
28	健康科学科教員講話②	健康科学科教員講話②
29	健康科学科教員講話③	健康科学科教員講話③
30	学年末集会（五訓・学年末評価）	学年末集会（五訓・学年末評価）

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PH用				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション/プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	建学の精神・大学理念	建学の精神・大学理念
2	個人面談1	個人面談1
3	個人面談2	個人面談2
4	運動器（骨・筋・関節）の概要1	運動器（骨・筋・関節）の概要1
5	運動器（骨・筋・関節）の概要2	運動器（骨・筋・関節）の概要2
6	運動器（骨・筋・関節）の概要3	運動器（骨・筋・関節）の概要3
7	運動器（骨・筋・関節）の概要4	運動器（骨・筋・関節）の概要4
8	運動器（骨・筋・関節）の概要5	運動器（骨・筋・関節）の概要5
9	運動器（骨・筋・関節）の概要6	運動器（骨・筋・関節）の概要6
10	プレゼンテーションの概要	プレゼンテーションの概要
11	プレゼンテーション1（1人5分）	プレゼンテーション1（1人5分）
12	プレゼンテーション2	プレゼンテーション2
13	プレゼンテーション3	プレゼンテーション3
14	プレゼンテーション4	プレゼンテーション4
15	前期末集会（五訓・中間評価）	前期末集会（五訓・中間評価）
16	個人面談	個人面談
17	個人面談	個人面談
18	プレゼンテーション5	プレゼンテーション5
19	プレゼンテーション6	プレゼンテーション6
20	プレゼンテーション7	プレゼンテーション7
21	プレゼンテーション8	プレゼンテーション8
22	プレゼンテーション9	プレゼンテーション9
23	プレゼンテーション10	プレゼンテーション10

24	スポーツ医学検定試験	スポーツ医学検定試験
25	学科長講話	学科長講話
26	学部長講話	学部長講話
27	健康科学科教員講話①	健康科学科教員講話①
28	健康科学科教員講話②	健康科学科教員講話②
29	健康科学科教員講話③	健康科学科教員講話③
30	学年末集会（五訓・学年末評価）	学年末集会（五訓・学年末評価）

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナール I [通年]PP用				担当者名	清田 美紀			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	大井 理緒／仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	堀川 峻			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナール I [通年]PP用				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	野上 里菜			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PP用				担当者名	降屋 丞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（基礎学力課題を含む） 50%、大課題（発表等） 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析
3	クラス活動	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	クラス間交流	ニュースポーツ体験
7	体育・スポーツを知る	スポーツレクリエーションとは？
8	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーションの計画①
9	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画②
10	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践①
11	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践
12	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション実践②
13	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション③
14	スポーツレクリエーションの振り返り	評価・分析・再考を行う。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	クラス活動	前期の振り返りと後期の目標設定
17	クラス活動	目標設定と活動計画
18	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
19	スポーツレクリエーション	スポーツレクリエーション計画
20	スポーツレクリエーション実践①	スポーツレクリエーションの実践
21	スポーツレクリエーションの実践②	スポーツレクリエーションの実践
22	スポーツレクリエーション実践③	スポーツレクリエーションの実践
23	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（クラス内）
24	プレゼン	スポーツレクリエーションの実践報告（学科発表）

25	進路に向けて	進路にむけて調べ学習
26	プレゼン	進路にむけて自身の目標をプレゼンする。
27	クラス間交流	クラス活動
28	クラス間交流	クラス活動
29	クラス間交流	クラス活動
30	まとめ	1年間のまとめ

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用				担当者名	畠中 要輔／渡邊 亮			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることが出来る③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことが出来る

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることが出来る③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことが出来る

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FE用				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FC用				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学習と連動するかたちで、「自分の意見を伝えること」「話を聞くこと」「内容をまとめる（書く）こと」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立し、自己管理・時間管理能力を身につける。②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる。③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着、主体的に学習に取り組む態度を身に付ける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学習について、グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。Googleクラスルームによる課題提出・管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）復習：授業内で行ったことの見直し（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（ディスカッションや演習への取り組み等） 30%、小課題（レポート等）50%、大課題（発表・プレゼンテーション等）20%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の概要、自己紹介、履修について
2	大学生活①	大学の施設・生活・学びについて知る①
3	大学生活②	大学の施設・生活・学びについて知る②
4	大学生活③	大学の施設・生活・学びについて知る③
5	保育の基礎①	保育アクティビティ
6	保育の基礎②	保育現場の経験者による講話
7	保育観察の基礎①	導入
8	保育観察の基礎②	保育観察の振り返り（グループ交流）
9	保育観察の基礎③	保育観察の振り返り（発表準備）
10	保育観察の基礎④	保育観察の振り返り（発表）
11	ビブリオバトル①	導入（文章構成について学ぶ）
12	保育実習報告会	保育実習について考える
13	ビブリオバトル②	原稿ブラッシュアップ
14	ビブリオバトル③	本選・表彰・振り返り・講評
15	前期末集会	前期振り返り・後期に向けて目標設定
16	オリエンテーション	後期の見通しを立てる
17	ゲスト講話①	卒業生講話
18	社会人基礎力①	社会人に必要な力を身につける①
19	ゲスト講話②	先輩講話
20	社会人基礎力②	社会人に必要な力を身につける②
21	スピーチコンテスト①	導入（良いスピーチについて考える）
22	スピーチコンテスト②	題材探し・スピーチ原稿の作り方について

23	スピーチコンテスト③	原稿作成
24	スピーチコンテスト④	話し方・伝え方について
25	スピーチコンテスト⑤	原稿ブラッシュアップ
26	スピーチコンテスト⑥	クラス予選
27	スピーチコンテスト⑦	本選・表彰・振り返り・講評
28	振り返り①	1年間の学びを振り返る
29	振り返り②	メンター講話
30	学年末集会	2年次に向けて目標設定

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FC用				担当者名	大久保 諒			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学習と連動するかたちで、「自分の意見を伝えること」「話を聞くこと」「内容をまとめる（書く）こと」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立し、自己管理・時間管理能力を身につける。②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる。③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着、主体的に学習に取り組む態度を身に付ける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学習について、グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。Googleクラスルームによる課題提出・管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）復習：授業内で行ったことの見直し（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（ディスカッションや演習への取り組み等） 30%、小課題（レポート等）50%、大課題（発表・プレゼンテーション等）20%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の概要、自己紹介、履修について
2	大学生活①	大学の施設・生活・学びについて知る①
3	大学生活②	大学の施設・生活・学びについて知る②
4	大学生活③	大学の施設・生活・学びについて知る③
5	保育の基礎①	保育アクティビティ
6	保育の基礎②	保育現場の経験者による講話
7	保育観察の基礎①	導入
8	保育観察の基礎②	保育観察の振り返り（グループ交流）
9	保育観察の基礎③	保育観察の振り返り（発表準備）
10	保育観察の基礎④	保育観察の振り返り（発表）
11	ビブリオバトル①	導入（文章構成について学ぶ）
12	保育実習報告会	保育実習について考える
13	ビブリオバトル②	原稿ブラッシュアップ
14	ビブリオバトル③	本選・表彰・振り返り・講評
15	前期末集会	前期振り返り・後期に向けて目標設定
16	オリエンテーション	後期の見通しを立てる
17	ゲスト講話①	卒業生講話
18	社会人基礎力①	社会人に必要な力を身につける①
19	ゲスト講話②	先輩講話
20	社会人基礎力②	社会人に必要な力を身につける②
21	スピーチコンテスト①	導入（良いスピーチについて考える）
22	スピーチコンテスト②	題材探し・スピーチ原稿の作り方について

23	スピーチコンテスト③	原稿作成
24	スピーチコンテスト④	話し方・伝え方について
25	スピーチコンテスト⑤	原稿ブラッシュアップ
26	スピーチコンテスト⑥	クラス予選
27	スピーチコンテスト⑦	本選・表彰・振り返り・講評
28	振り返り①	1年間の学びを振り返る
29	振り返り②	メンター講話
30	学年末集会	2年次に向けて目標設定

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]FC用				担当者名	高崎 展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学習と連動するかたちで、「自分の意見を伝えること」「話を聞くこと」「内容をまとめる（書く）こと」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立し、自己管理・時間管理能力を身につける。②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる。③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着、主体的に学習に取り組む態度を身に付ける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学習について、グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。Googleクラスルームによる課題提出・管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）復習：授業内で行ったことの見直し（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（ディスカッションや演習への取り組み等） 30%、小課題（レポート等）50%、大課題（発表・プレゼンテーション等）20%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の概要、自己紹介、履修について
2	大学生活①	大学の施設・生活・学びについて知る①
3	大学生活②	大学の施設・生活・学びについて知る②
4	大学生活③	大学の施設・生活・学びについて知る③
5	保育の基礎①	保育アクティビティ
6	保育の基礎②	保育現場の経験者による講話
7	保育観察の基礎①	導入
8	保育観察の基礎②	保育観察の振り返り（グループ交流）
9	保育観察の基礎③	保育観察の振り返り（発表準備）
10	保育観察の基礎④	保育観察の振り返り（発表）
11	ビブリオバトル①	導入（文章構成について学ぶ）
12	保育実習報告会	保育実習について考える
13	ビブリオバトル②	原稿ブラッシュアップ
14	ビブリオバトル③	本選・表彰・振り返り・講評
15	前期末集会	前期振り返り・後期に向けて目標設定
16	オリエンテーション	後期の見通しを立てる
17	ゲスト講話①	卒業生講話
18	社会人基礎力①	社会人に必要な力を身につける①
19	ゲスト講話②	先輩講話
20	社会人基礎力②	社会人に必要な力を身につける②
21	スピーチコンテスト①	導入（良いスピーチについて考える）
22	スピーチコンテスト②	題材探し・スピーチ原稿の作り方について

23	スピーチコンテスト③	原稿作成
24	スピーチコンテスト④	話し方・伝え方について
25	スピーチコンテスト⑤	原稿ブラッシュアップ
26	スピーチコンテスト⑥	クラス予選
27	スピーチコンテスト⑦	本選・表彰・振り返り・講評
28	振り返り①	1年間の学びを振り返る
29	振り返り②	メンター講話
30	学年末集会	2年次に向けて目標設定

科目コード	14100				区 分	教養			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14100				区 分	教養			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	前田 誠一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14100				区 分	教養			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題、発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14100				区 分	教養			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	桂 秀樹			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14100				区 分	教養			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	小村 淳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題、発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14100				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	山本 清人			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14100				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	鷹取 晃巨			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-googleクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有

基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会

20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PH用				担当者名	坂本 賢広／平林 大輔／橋口 浩治			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる 1 年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について
18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）

21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29	ゼミナール担当教員講和③	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
30	後期振り返りと1年間の振り返り	・後期を振り返り自己分析を行う・1年間を振り返り自己分析を行う

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用				担当者名	高橋 章二／濱嶋 幸司			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

年間を通して5人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針についての確認
2	グループ対抗オリエンタリング①	オリエンタリングの計画
3	オリエンタリング②	グループ内で協力してのオリエンタリングの実施
4	前期目標設定(オンデマンド)	前期目標シートの作成
5	クラス・グループづくり及び個別面談①	クラスの1年間の目標の設定とチームビルディング 個人面談
6	クラス・グループづくり及び個別面談②	チームビルディング 個人面談
7	人権を学ぶ ハンセン病 長島愛生園の過去、現在、未来①	ハンセン病、長島愛生園の歴史について各グループで調べ基礎的な知識を得る
8	人権を学ぶ ハンセン病 長島愛生園の過去、現在、未来②	ハンセン病、長島愛生園における教育活動についての外部講師による講演
9	人権を学ぶ ハンセン病 長島愛生園の過去、現在、未来③	第1回目で調べた基礎的な内容及び第2回目の講演を基に人権とは何かをグループ内で協議
10	教育課題研究 私たちが考える多様性・SDGs 私たちの提案①	グループ内でテーマを決め関連する資料収集
11	教育課題研究 私たちが考える多様性・SDGs 私たちの提案②	収集した資料等を基にテーマに沿った協議
12	教育課題研究 私たちが考える多様性・SDGs 私たちの提案③	テーマに沿った協議及び提案内容のまとめ PowerPoint資料の作成
13	教育課題研究 私たちが考える多様性SDGs 私たちの提案④	私たちが考える多様性SDGs 各グループからの提案 (1G 10分)
14	前期個別面談	前期の目標達成度の確認及びコース選択について

15	前期末集会	前期活動の総括と夏季休業中の注意喚起
16	後期目標設定	前期の課題を受けての後期目標の設定
17	コースガイダンス	初等教育コース、中等教育コース、教育社会学コース 3コースの特徴、学びについての説明
18	授業参観から何を学ぶのかー授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
21	学校現場体験①のふりかえり	学校現場体験①のふりかえりを各グループで行い、疑問点等について協議を行うまた、第2回目学校現場体験での参観のポイントの決定
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験のまとめ	2回の学校現場体験からの学びをグループ内で共有するとともに、江西小学校等へのお礼状の作成をする
24	プレゼンコンテスト テーマ 2年生での学び①	各グループで1年間の学びを出し合い 何をテーマにするかの検討
25	プレゼンコンテスト テーマ 2年生での学び②	テーマに沿った協議及びプレゼンコンテスト用のPowerPoint資料作成
26	プレゼンコンテスト テーマ 2年生での学び③	プレゼンコンテスト用のPowerPoint資料および発表原稿の作成
27	プレゼンコンテスト テーマ 2年生での学び④	クラス内グループ発表（学科代表グループの選出）
28	後期個別懇談	後期目標の達成状況および3年生受験・進路の確認
29	クラスのまとめ	クラス目標のふりかえり
30	学年末集会	1年間の総括及び3年次に向けての確認（3志会、ゼミ選択、教育実習、3年生受験等）

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用				担当者名	武 幸枝			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることが出来る③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことが出来る

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]FE用				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることが出来る③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことが出来る

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	チーム決め
6	スクールフェス	全体キックオフ
7	スクールフェス	やりたい授業
8	スクールフェス	やりたい授業、図書館ラリー
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	授業案発表
14	スクールフェス	学習指導案提出
15	前期末集会	
16	スクールフェス	各種確認
17	スクールフェス	模擬授業
18	スクールフェス	模擬授業
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	振り返り
21	スクールフェス	質問力、傾聴力について
22	スクールフェス	振り返りポスター発表
23	スクールフェス	模擬授業
24	小学校授業見学2	
25	スクールフェス2	準備
26	スクールフェス2	実施

27	スクールフェス 2	振り返り
28	自己分析	メンター講話
29	自己分析	2年生に向けて
30	学年末集会	

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]FC用				担当者名	小崎 遼介／増岡 希望			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」について自分なりに考えを持ち、行動できる②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身につける④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッション、パワーポイントでのプレゼン

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等を含む）（70%）、最終レポート（10%）、グループワーク等の活動における関心・意欲・態度（20%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1年間の学習に見通しを持つ	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	こども発達学科での学びは何かを考える	目標達成の手段と1年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キャリアデザイン・コース）
3	1年間の目標達成に関するプレゼンを行う。	目標達成の手段と1年間の計画：プレゼン
4	教育現場の課題	日曜劇場『御上先生』から見る“教育” 課外授業 ～教育論と表現論を知る～
5	東岡山IPUこども園連携①	こども園からの依頼動画の視聴：大学
6	東岡山IPUこども園連携②	こども園連携（こども園での観察）①
7	東岡山IPUこども園連携③	こども園連携（依頼の準備）
8	東岡山IPUこども園連携④	こども園連携（依頼の準備）
9	東岡山IPUこども園連携⑤	こども園連携（依頼物・作品の提供）
10	東岡山IPUこども園連携⑥	東岡山IPUこども園連携の振り返りをパワーポイントにまとめる。
11	進路を見通す	進路の幅と可能性（メンター・卒業生）、NZ保育実習
12	上級生との交流	4年生との交流（進路の決め方）
13	前期のまとめ	前期のまとめのプレゼンテーションの準備
14	目標達成力の中間プレゼン	前期の取り組みと自身の目標達成度のプレゼンを行う。
15	前期まとめ	前期末集会にて、前期の振り返り、夏休みでの諸注意、実習に向けてのアナウンスを行う。
16	後期の目標設定	目標達成の手段と1年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キ

17	働く	キャリアデザイン・コース)
18	保育の魅力	マイナビの働くことを考えるワークを通して、働くことについて考える。
19	進路の決定	上級生・卒業生・東岡山IPUこども園職員による講話
20	保育実習1Bの振り返り	メンター講話
21	プレゼン	保育実習1Bのまとめと振り返り
22	保育実習との接続	保育実習1Bでの学びの発表
23	進路とキャリア	保育実習、幼稚園実習を見通したスケジュール管理。
24	3年生のコース選択	キャリアデザイン受講学生との交流
25	ゼミ選択	コース紹介 3年生との交流
26	個別面談①	3・4年生のゼミ生との交流
27	個別面談②	キャリアデザイン・コースの決定
28	プレゼン準備	キャリアデザイン・コースの決定
29	目標達成力の最終プレゼン	1年間の目標設定の振り返り
30	学年末集会	1年間の学びの振り返り
		1年間の活動を振り返る。また春休みの過ごし方を考え、進路実現のための準備をする。

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]FC用				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」について自分なりに考えを持ち、行動できる②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身につける④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッション、パワーポイントでのプレゼン

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等を含む）（70%）、最終レポート（10%）、グループワーク等の活動における関心・意欲・態度（20%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1年間の学習に見通しを持つ	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	こども発達学科での学びは何かを考える	目標達成の手段と1年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キャリアデザイン・コース）
3	1年間の目標達成に関するプレゼンを行う。	目標達成の手段と1年間の計画：プレゼン
4	教育現場の課題	日曜劇場『御上先生』から見る“教育” 課外授業 ～教育論と表現論を知る～
5	東岡山IPUこども園連携①	こども園からの依頼動画の視聴：大学
6	東岡山IPUこども園連携②	こども園連携（こども園での観察）①
7	東岡山IPUこども園連携③	こども園連携（依頼の準備）
8	東岡山IPUこども園連携④	こども園連携（依頼の準備）
9	東岡山IPUこども園連携⑤	こども園連携（依頼物・作品の提供）
10	東岡山IPUこども園連携⑥	東岡山IPUこども園連携の振り返りをパワーポイントにまとめる。
11	進路を見通す	進路の幅と可能性（メンター・卒業生）、NZ保育実習
12	上級生との交流	4年生との交流（進路の決め方）
13	前期のまとめ	前期のまとめのプレゼンテーションの準備
14	目標達成力の中間プレゼン	前期の取り組みと自身の目標達成度のプレゼンを行う。
15	前期まとめ	前期末集会にて、前期の振り返り、夏休みでの諸注意、実習に向けてのアナウンスを行う。
16	後期の目標設定	目標達成の手段と1年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キ

17	働く	キャリアデザイン・コース)
18	保育の魅力	マイナビの働くことを考えるワークを通して、働くことについて考える。
19	進路の決定	上級生・卒業生・東岡山IPUこども園職員による講話
20	保育実習1Bの振り返り	メンター講話
21	プレゼン	保育実習1Bのまとめと振り返り
22	保育実習との接続	保育実習1Bでの学びの発表
23	進路とキャリア	保育実習、幼稚園実習を見通したスケジュール管理。
24	3年生のコース選択	キャリアデザイン受講学生との交流
25	ゼミ選択	コース紹介 3年生との交流
26	個別面談①	3・4年生のゼミ生との交流
27	個別面談②	キャリアデザイン・コースの決定
28	プレゼン準備	キャリアデザイン・コースの決定
29	目標達成力の最終プレゼン	1年間の目標設定の振り返り
30	学年末集会	1年間の学びの振り返り
		1年間の活動を振り返る。また春休みの過ごし方を考え、進路実現のための準備をする。

科目コード	14101				区 分	教養			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用				担当者名	宇都宮 浩司／北村 和久			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用				担当者名	田口 雅弘／横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用				担当者名	赤木 邦江／平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用				担当者名	高 鷲 翔			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC日本人用				担当者名	清水 健太			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC留学生用				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]BC留学生用				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回の該当内容について、グループディスカッションおよびワーク、プレゼンテーション等を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	履修登録、目標設定
2	大学生活について考える①、基礎学力演習①	個人面談、文章力検定対策
3	大学生活について考える②、基礎学力演習②	個人面談、文章力検定対策
4	文書作成(オンデマンド週)	レポートやビジネス文書の書き方
5	基礎学力演習③	文章力検定対策
6	基礎学力演習④	文章力検定対策
7	基礎学力演習⑤	文章力検定対策
8	金融経済教育	金融リテラシー検定対策
9	クラス活動	ブックコンテスト
10	基礎学力演習⑥	文章力検定対策
11	基礎学力演習⑦	文章力検定対策
12	基礎学力演習⑧	文章力検定対策
13	基礎学力演習⑨	文章力検定対策
14	基礎学力演習⑩	文章力検定対策
15	前期振り返り	自己評価・前期末集会
16	後期オリエンテーション	後期の目標設定、コース選択、学科長講話
17	個人面談①、基礎学力演習⑪	文章力検定対策
18	個人面談②、基礎学力演習⑫	文章力検定対策
19	クラス活動	グループワーク
20	基礎学力演習⑬	文章力検定対策
21	基礎学力演習⑭	文章力検定対策

22	キャリア、コースと進路	3年次ゼミガイダンス
23	キャリア、コースと進路	ゼミ体験①
24	キャリア、コースと進路	ゼミ体験②
25	金融経済教育	日経ストックリーグ⑤
26	基礎学力演習⑮	文章力検定対策
27	基礎学力演習⑯	文章力検定対策
28	基礎学力演習⑰	文章力検定対策
29	クラス活動	企業活動を知る、業種を調べる
30	後期振り返り	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [再履修]PH用				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）
5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる 1 年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について
18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）

21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29	ゼミナール担当教員講和③	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
30	後期振り返りと1年間の振り返り	・後期を振り返り自己分析を行う・1年間を振り返り自己分析を行う

科目コード	55007				区 分	教養			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義, 演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

研究は手続きが重要である。本ゼミでは、(1)望ましい論文のあり方、(2)卒論・ゼミ論や他の論文でこれまで行えてきたこと、(3)自らの問題関心の3つを軸として、4年次での研究に踏み出す見通しを立てることを目的とする。

<授業の到達目標>

・良い論文の条件を学ぶ。論文が取りうる構成や研究アプローチのいくつかを学ぶ・いくつかの論文について評価する経験を積む・他者の発表について建設的批判を加える知的態度を養う

<授業の方法>

いくつかの論文を取り上げディスカッションを行う。取り上げる論文の領域や分量、ゼミの進捗等は受講者のレディネスによって柔軟に変更を加える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。問題関心に沿った先行研究の収集および報告など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習よりも復習に時間を割くこと。内容は各回の講義で指定する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終課題（ゼミ論文のリサーチステートメント）30%，各回のゼミのリフレクション60%，受講態度10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	グラウンドルール作りとゼミの見通し	話し合いのルールを決める。ゼミの目標を共有する。
2	文献を探す	論文や書籍の検索方法、卒論やゼミ論、学術論文に触れる
3	良い論文の条件(1)	論文が満たすべき条件を学ぶ
4	良い論文の条件(2)	論文を評価してみる
5	論文を読む方法(1)	論文の構造を学ぶ(1)
6	論文を読む方法(2)	論文の構造を学ぶ(2)
7	論文を読む方法(3)	論文の構造を学ぶ(3)
8	本を読む方法(1)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
9	本を読む方法(2)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
10	アカデミックライティング(1)	論文の書き方の基礎を学ぶ(1)
11	アカデミックライティング(2)	論文の書き方の基礎を学ぶ(2)
12	問題の所在を特定する(1)	問題意識を話し合う、派生させる、絞り込む。
13	問題の所在を特定する(2)	先行研究を探し、分類する。
14	リサーチクエスト	研究上の問いを設定する
15	前期のまとめ	ゼミの振り返り、および後期のスケジュールと目標を共有する。
16	研究方法について(1)	いくつかの研究アプローチと導くことのできる結論の方向性を学ぶ
17	研究方法について(2)	研究倫理について学ぶ
18	研究結果について(1)	それぞれの研究アプローチにおいて記述されうる内容を学ぶ(1)
19	研究結果について(2)	研究の問いと研究結果の対応関係を考える
20	考察について(1)	結論と考察を区別する
21	考察について(2)	考察に加える記述の種類を学ぶ
22	結論(まとめ)について(1)	結論として記述されうるものの種類について学ぶ
23	結論(まとめ)について(2)	結論からさかのぼって考える
24	研究のサイズを考える(1)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う
25	研究のサイズを考える(2)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う

26	リサーチステートメントを作る(1)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
27	リサーチステートメントを作る(2)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
28	リサーチステートメントを作る(3)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
29	後期のまとめ	後期の学習内容を振り返る
30	1年のまとめ	1年間の学びを振り返り，次年度の計画を考える

科目コード	55007				区 分	教養科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演 習、発表	卒業要件	必修科目

＜授業の概要＞

本講座は学生の方が将来、社会に出ても通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など4年生を見据えた指導も充実します。

＜授業の到達目標＞

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解すること②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つこと③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践すること

＜授業の方法＞

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

模擬授業等を通し・自分で考える→自主的な学習態度 ・対話活動で池を練り上げる→協調性、自己表現力 ・自分の意見をまとめる→深い学び この学習サイクルを確立させるようにします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）指導案作成（模擬授業のための指導案を作成し提出）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）模擬授業の実施（グループまたは個人で指導案を基に模擬授業を行う）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50%

＜教科書＞

内田仁志(2024年8月)※「教育の方法と技術」と同じ教科書です。 国語教師のための「反論の技術」入門 明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的や進め方を確認する。評価基準や発表・課題のルールを説明する。今後の学びの目標を設定する。
2	「話す・聞く」スキルの基本	説得力のある話し方や声の出し方を学ぶ。聞き手を意識した話の組み立てを考える。実践を通して話し方の基礎を身につける。
3	教育現場で求められるプレゼンテーションとは	授業におけるプレゼンの役割を理解する。わかりやすく伝えるための工夫を考える。実際の授業動画などを見て分析する。
4	論理的な話し方①：主張と根拠を明確にする	自分の意見を論理的に伝える方法を学ぶ。主張と根拠の関係を整理する練習をする。簡単なスピーチで実践してみる。
5	論理的な話し方②：相手を納得させる展開の工夫	相手の立場を考えた話の組み立てを学ぶ。具体例やデータを使った説得方法を考える。実践的な発表演習を行う。
6	資料の選び方①：視覚的資料の効果的な活用	スライドや板書の役割と活用法を学ぶ。わかりやすい視覚資料のポイントを整理する。自分で資料を作成してみる。
7	資料の選び方②：データや事例の活用	教育現場で使えるデータの選び方を学ぶ。事例を効果的に使う方法を考える。自分のプレゼンに適した資料を作成する。
8	実践演習①：短時間プレゼン（3分間スピーチ）	3分間で要点をまとめる練習をする。聞き手に伝わる話し方を意識する。フィードバックを受けて改善する。
9	実践演習②：論理的な話し方を活かした5	5分間で論理的に話す演習をする。資料を効果的に使うことを意識する。発表後に改

	分間プレゼン	善点を振り返る。
10	教育現場との連携①：実践報告の読み方	教育論文や実践報告の構成を学ぶ。重要なポイントを整理しながら読む。自分の考えをまとめ、意見交換を行う
11	教育現場との連携②：教育現場の課題を考える	教育現場の課題をテーマにグループ討議。フィールドワークの目的や進め方を考える。事前に調査する内容を整理する。
12	「書く」スキルの基本	教育における論述の重要性を理解する。正確で伝わりやすい文章を書く練習をする。自分の考えを論理的にまとめる方法を学ぶ。
13	論理的な文章構成①：序論・本論・結論の組み立て方	文章の基本的な構成を学ぶ。論理的な流れを意識して書く練習をする。短い文章で構成を意識した課題に取り組む。
14	論理的な文章構成②：わかりやすい文章を書くための工夫	文のつながりや表現の工夫を学ぶ。読み手に伝わりやすい文章を意識する。実際に文章を書いてフィードバックを受ける。
15	中間プレゼンテーション：前期の学びのまとめ	前期の学びを整理し、プレゼンで発表する。他者の発表を聞き、良い点・改善点を学ぶ。後期の課題と目標を設定する。
16	教育現場との連携③：授業研究の視点を考える	授業研究の目的や視点を学ぶ。実際の授業映像を見て分析する。自分の指導に活かせる点を整理する。
17	教育現場との連携④：授業記録を基にした分析演習	授業記録の活用方法を学ぶ。教師の指導や児童の反応を分析する。より良い指導方法を考察する。
18	実践演習③：模擬授業の準備	指導案の作成方法を学ぶ。発問の工夫や授業の流れを考える。実際の授業に近い形で準備を進める。
19	実践演習④：模擬授業の実施①（グループ発表）	グループで模擬授業を行う。役割分担をして授業を進める。互いにフィードバックを行い改善する。
20	実践演習⑤：模擬授業の実施②（個人発表）	個人で模擬授業を行う。教材・発問・授業の進め方を工夫する。発表後に振り返りと改善点を整理する。
21	教育現場との連携⑤：教員の実践研究と学会発表の流れ	教員の研究の進め方を学ぶ。学会発表の構成や準備を理解する。研究発表を想定した演習を行う。
22	学会発表の視点と方法	学会発表の要点を整理する。発表の構成や伝え方を学ぶ。研究内容を簡潔にまとめる練習をする。
23	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
24	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
25	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
26	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
27	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
28	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
29	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
30	まとめ・振り返り	1年間の学びを整理し、振り返る。今後の課題と目標を設定する。4年次に向けた計画を立てる。

科目コード	55007				区 分	教養			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）
各テーマについて意見をまとめ、発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2

21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007				区 分	教養科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取り組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	55008				区 分	教養科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	内田 仁志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演 習、発表	卒業要件	必修科目

＜授業の概要＞

本講座は学生の方が将来、社会に出ても通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など卒業を見据えた指導も充実します。

＜授業の到達目標＞

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解すること②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つこと③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践すること

＜授業の方法＞

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

模擬授業等を通し・自分で考える→自主的な学習態度　・対話活動で池を練り上げる→協調性、自己表現力　　・自分の意見をまとめる→深い学び　この学習サイクルを確立させるようにします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）指導案作成（模擬授業のための指導案を作成し提出）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）模擬授業の実施（グループまたは個人で指導案を基に模擬授業を行う）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50%

＜教科書＞

内田仁志(2024年8月)　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的や進め方を確認する。評価基準や発表・課題のルールを説明する。今後の学びの目標を設定する。
2	「話す・聞く」スキルの基本	説得力のある話し方や声の出し方を学ぶ。聞き手を意識した話の組み立てを考える。実践を通して話し方の基礎を身につける。
3	教育現場で求められるプレゼンテーションとは	授業におけるプレゼンの役割を理解する。わかりやすく伝えるための工夫を考える。実際の授業動画などを見て分析する。
4	論理的な話し方①：主張と根拠を明確にする	自分の意見を論理的に伝える方法を学ぶ。主張と根拠の関係を整理する練習をする。簡単なスピーチで実践してみる。
5	論理的な話し方②：相手を納得させる展開の工夫	相手の立場を考えた話の組み立てを学ぶ。具体例やデータを使った説得方法を考える。実践的な発表演習を行う。
6	資料の選び方①：視覚的資料の効果的な活用	スライドや板書の役割と活用法を学ぶ。わかりやすい視覚資料のポイントを整理する。自分で資料を作成してみる。
7	資料の選び方②：データや事例の活用	教育現場で使えるデータの選び方を学ぶ。事例を効果的に使う方法を考える。自分のプレゼンに適した資料を作成する。
8	実践演習①：短時間プレゼン（3分間スピーチ）	3分間で要点をまとめる練習をする。聞き手に伝わる話し方を意識する。フィードバックを受けて改善する。
9	実践演習②：論理的な話し方を活かした5	5分間で論理的に話す演習をする。資料を効果的に使うことを意識する。発表後に改

	分間プレゼン	善点を振り返る。
10	教育現場との連携①：実践報告の読み方	教育論文や実践報告の構成を学ぶ。重要なポイントを整理しながら読む。自分の考えをまとめ、意見交換を行う
11	教育現場との連携②：教育現場の課題を考える	教育現場の課題をテーマにグループ討議。フィールドワークの目的や進め方を考える。事前に調査する内容を整理する。
12	「書く」スキルの基本	教育における論述の重要性を理解する。正確で伝わりやすい文章を書く練習をする。自分の考えを論理的にまとめる方法を学ぶ。
13	論理的な文章構成①：序論・本論・結論の組み立て方	文章の基本的な構成を学ぶ。論理的な流れを意識して書く練習をする。短い文章で構成を意識した課題に取り組む。
14	論理的な文章構成②：わかりやすい文章を書くための工夫	文のつながりや表現の工夫を学ぶ。読み手に伝わりやすい文章を意識する。実際に文章を書いてフィードバックを受ける。
15	中間プレゼンテーション：前期の学びのまとめ	前期の学びを整理し、プレゼンで発表する。他者の発表を聞き、良い点・改善点を学ぶ。後期の課題と目標を設定する。
16	教育現場との連携③：授業研究の視点を考える	授業研究の目的や視点を学ぶ。実際の授業映像を見て分析する。自分の指導に活かせる点を整理する。
17	教育現場との連携④：授業記録を基にした分析演習	授業記録の活用方法を学ぶ。教師の指導や児童の反応を分析する。より良い指導方法を考察する。
18	実践演習③：模擬授業の準備	指導案の作成方法を学ぶ。発問の工夫や授業の流れを考える。実際の授業に近い形で準備を進める。
19	実践演習④：模擬授業の実施①（グループ発表）	グループで模擬授業を行う。役割分担をして授業を進める。互いにフィードバックを行い改善する。
20	実践演習⑤：模擬授業の実施②（個人発表）	個人で模擬授業を行う。教材・発問・授業の進め方を工夫する。発表後に振り返りと改善点を整理する。
21	教育現場との連携⑤：教員の実践研究と学会発表の流れ	教員の研究の進め方を学ぶ。学会発表の構成や準備を理解する。研究発表を想定した演習を行う。
22	学会発表の視点と方法	学会発表の要点を整理する。発表の構成や伝え方を学ぶ。研究内容を簡潔にまとめる練習をする。
23	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
24	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
25	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
26	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
27	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
28	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
29	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
30	まとめ・振り返り	1年間の学びを整理し、振り返る。卒業後の目標の確認

科目コード	BCD01				区 分	教養科目			
授業 科目名	ゼミナール I (BC秋入学生用)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（特に基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り
グループワークやディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、課題への取り組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 礼法指導 履修登録確認 自己紹介	IPUの学生として、規律ある行動がとれるようにする。熟慮の上履修登録を行い、現代経営学科の学びについて主体的な態度で臨む。
2	履修登録確認 その他アンケート調査	入学してから2週間の大学生活について、つまづきや困ったことなどがあればクラスメートと共有する。アンケート調査には確実に回答することを習慣化する。
3	目標設定	目標設定は、目標達成数値とともに具体的に書くようにする。
4	クラスの時間（オンデマンド授業）	クラス活動
5	環トレ学習① 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
6	図書館オリエンテーション	図書館の使い方についてオリエンテーションを受け、大学での学びに活かす
7	環トレ学習② 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
8	（前期）個人面談1	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
9	環トレ学習③ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
10	（前期）個人面談2	メンターが学生と個人面談を行い、現在の大学生活が順調に進んでいるか確認する。問題点がある場合は、それを吸い上げ、解決の方向へ導く。
11	環トレ学習④ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業

12	クラスの時間	の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
13	環トレ学習⑤ 文章力検定対策	クラスの親睦を深めるような活動を通して、学生の友人関係をより豊かにする
14	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
15	前期末集会	文化を通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
16	(後期) 個人面談 1	入学からの半年間を振り返り、今後の大学生活を有意義に過ごすために何を改善すべきか批判的に省察する。夏休みの計画を具体的に立てる。
17	環トレ学習⑥ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
18	(後期) 個人面談 2	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
19	環トレ学習⑦ 文章力検定対策	後期のスタートについて、メンターと学生が情報を共有する
20	日本人学生・留学生の交流会	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
21	環トレ学習⑧ 文章力検定対策	スポーツを通じて、日本人学生と留学生が交流を深める
22	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
23	環トレ学習⑨ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
24	地域課題解決ワーク (各クラス準備)	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
25	環トレ学習⑩ 文章力検定対策	地域が抱える問題について、クラスごとにテーマを決め、解決策について提案をまとめる。時には、実地調査や関係者との連携を取るための学外学習を行うこともある。
26	地域課題解決ワークの振り返り	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
27	環トレ学習⑪ 文章力検定対策	フレッシュマンセミナーでの発表を振り返り、机上の空論で終わらない、現実の即した問題解決のための提案ができたか振り返る。
28	環トレ学習⑫ 文章力検定対策	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
29	クラスの時間	文章力を高めるために、毎回決められた範囲の漢字について予習をしてくる。授業の最初は漢字テストを行う。その後、理解を深めるための動画を視聴したり問題集を解いたりして、文書力検定合格を目指して学習を進める。
30	後期振り返り	クラス活動 1年間の振り返りを行う。自分の目標としたことが達成出来たことと出来なかったことを整理し、改善点を検討する。2年生に向けた課題設定を行う。

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシー I 〔①〕				担当者名	安井 良彰			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	プレゼンテーション技法（1）	パワーポイントの基本機能を学ぶ
13	プレゼンテーション技法（2）	より高度な設定としてアニメーションや各種エフェクトなどを学び、パワーポイント資料を完成させる。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I 〔③〕				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	プレゼンテーション技法（1）	パワーポイントの基本機能を学ぶ
13	プレゼンテーション技法（2）	より高度な設定としてアニメーションや各種エフェクトなどを学び、パワーポイント資料を完成させる。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I 〔②〕				担当者名	安井 良彰			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	プレゼンテーション技法（1）	パワーポイントの基本機能を学ぶ
13	プレゼンテーション技法（2）	より高度な設定としてアニメーションや各種エフェクトなどを学び、パワーポイント資料を完成させる。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110201				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシー I 〔④〕				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときには有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	プレゼンテーション技法（1）	パワーポイントの基本機能を学ぶ
13	プレゼンテーション技法（2）	より高度な設定としてアニメーションや各種エフェクトなどを学び、パワーポイント資料を完成させる。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110202				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ 〔Ⅰ〕				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

表計算ツールの実習を通して情報リテラシーのスキルを修得する事を旨とする。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

<授業の到達目標>

1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

阿部 香織 （2022年4月15日） 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論 エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（1）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（2）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピボットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	MOS検定とは	マイクロソフトオフィススペシャリスト検定でどのような問題が出題されるか解説し、検定受験・合格に誘う。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110202				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ 〔③〕				担当者名	安井 良彰			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

表計算ツールの実習を通して情報リテラシーのスキルを修得する事を旨とする。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

<授業の到達目標>

1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

阿部 香織 （2022年4月15日） 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論 エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（1）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（2）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピボットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	MOS検定とは	マイクロソフトオフィススペシャリスト検定でどのような問題が出題されるか解説し、検定受験・合格に誘う。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110202				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ 〔④〕				担当者名	安井 良彰			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

表計算ツールの実習を通して情報リテラシーのスキルを修得する事を旨とする。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

<授業の到達目標>

1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

<教科書>

阿部 香織 （2022年4月15日） 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論 エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（1）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（2）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピボットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	MOS検定とは	マイクロソフトオフィススペシャリスト検定でどのような問題が出題されるか解説し、検定受験・合格に誘う。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110202				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ〔②〕				担当者名	渡辺 亮			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

表計算ツールの実習を通して情報リテラシーのスキルを修得する事を旨とする。コンピュータを用いたデータ処理は全てのビジネスシーンで必要不可欠になっており、表計算ソフトの利用も基本スキルの一つである。本授業では社会人として適切な表計算ソフトの利用スキルを習得することを目指す

＜授業の到達目標＞

1. 表計算アプリの使い方の学習を通して、ITCを用いたデータ管理の方法を習得する。2. エクセル関数やマクロの学習を通して、より高度なITCスキルを身につける。3. マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)エクセル検定合格レベルの知識を取得する。

＜授業の方法＞

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。（1時間程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業の確認（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト40%

＜教科書＞

阿部 香織 （2022年4月15日） 情報利活用 文書作成 Word 2021対応 日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論 エクセルとは	エクセルで出来ることをまず解説して、この授業で取得すべきスキルを理解する。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	基本操作	エクセルの基本操作や簡単な表計算を行い、エクセルの操作方法を理解する。
4	編集操作	列幅の調整やセルの結合などレイアウト設定の基本を身に付ける。
5	数式と関数（1）	絶対参照や関数の利用等、より高度な表計算スキルを身に付ける。
6	数式と関数（2）	表示形式や文字列操作、文字列に関連する関数など事務処理業務に直結するスキルを身に付ける
7	グラフの作成	グラフ作成に関する基本スキルを身に付ける。
8	データベース	データベース的な処理方法を通してデータベースの基本を学ぶ。
9	テーブル機能	テーブル機能の利用方法を学ぶ
10	条件分析	SUMIF関数や条件付き書式等、条件に合わせた集計や分析に必要なツールの利用方法を身に付ける。
11	ワークシート間の集計	シートの設定やシート間でのデータの連携などを学ぶ
12	自動集計	自動集計機能やピボットテーブルなどの利用方法を学ぶ
13	MOS検定とは	マイクロソフトオフィススペシャリスト検定でどのような問題が出題されるか解説し、検定受験・合格に誘う。
14	復習と確認	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
15	まとめ	学習内容の達成度を確認する。
16		

科目コード	T110209				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 I [b]				担当者名	小川 千尋			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン及びインディアカ、ボッチャ等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ（10分） 2. 本時の学習の確認（10分） 3. 基礎技術の練習①（10分～30分） 4. グループ活動（10分～20分） 5. ミニゲーム、試合（20分～30分） 6. 振り返り・片付け（10分）※Google formを活用してリフレクションペーパーの提出を実施

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニクについて調べたり、練習を行ったりする（90分）復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める（90分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教養科目の選択科目のうちから6単位以上を選択必修とするうちの一科目。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%，グループ（チーム）内における態度・協調性30%，事前課題・事後課題 20%，技術の上達度20％によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ，トレーニングパンツ，運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

<参考書>

授業時に指示

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的	からだを動かす意義 授業の進め方
2	スポーツ①/体力テスト	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
3	スポーツ①/体力テスト	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	ニュースポーツ（ボッチャ）の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得
7	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	ニュースポーツ（インディアカ）の基礎技術の習得
9	スポーツ④（集団種目）	ニュースポーツ（インディアカ）の基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤（個人種目）	バレーボールの基礎技術の習得
11	スポーツ⑤（個人種目）	バレーボールの基礎技術の習得
12	スポーツ⑤（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得
14	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得
15	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
16		

科目コード	T110210				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技Ⅱ (b)				担当者名	小川 千尋			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋外スポーツであるテニス、フットサル、ゴルフ及びタグラグビー、モルック等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる⑤リーダーシップおよび協調性、ならびに創造性を身につける

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ (10分) 2. 本時の学習の確認 (10分) 3. 基礎技術の練習① (10分～30分) 4. グループ活動 (10分～20分) 5. ミニゲーム、試合 (20分～30分) 6. 振り返り・片付け (10分) ※Google formを活用してリフレクションペーパーの提出を実施

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有各種目の後半では「問題解決型学習」として、技術の習得をする為に練習の機会を設けたり、試合の戦略を学生同士で話し合いをすることで、運動に親しむ基礎を身に付ける。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施種目についてルールやテクニックについて調べたり、練習を行ったりする (90分) 復習：本日学んだことや課題を明らかにし練習を行い技術の習得に努める (90分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教養科目の選択科目のうちから6単位以上を選択必修とするうちの一科目。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%, グループ(チーム)内における態度・協調性30%, 事前課題・事後課題 20%, 技術の上達度20%によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴(体育館用)を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

<参考書>

授業時に指示

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的	からだを動かす意義 授業の進め方
2	スポーツ①(個人種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の基礎ルールの理解
3	スポーツ①(個人種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の簡易ゲーム
4	スポーツ②(集団種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の簡易ゲーム
5	スポーツ②(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得
6	スポーツ③(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得
7	スポーツ③(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得
9	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得
10	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得
13	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得
14	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム

15	スポーツ⑤（集団種目）	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
16		

科目コード	T110301				区 分	教養			
授業科目名	心理学				担当者名	田原 俊司			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、心理学の初学者を対象に心理学の基礎的事項についての理解を深め、日常生活や就労後に起こりがちな問題の解決に向けて心理学の知見を活用・応用してウェルビーイングな生活ができるようになることを目指す。具体的には、心理学の主要な分野で得られた知見を広範にかつ深化させる学習を通して、心理学的「こころ」の理解を深め、実践・応用できるようにする。心理学の主な分野としては、記憶、感情（情動）、思考、発達心理、臨床心理、人格心理学、社会心理等を網羅する。

<授業の到達目標>

・事前学習にしっかりと取り組み、講義内容で「分かること」と「分からないこと」を区別できるようになる。
・解説やグループディスカッション、発表を通して「なぜそうなのか？」を理解し、他者に説明できる。
・日常生活において本講義で得られた知見を活用・応用し、実践できるようになる。

<授業の方法>

1. 出席確認と事前提示資料の内容理解確認小テスト（10分） 2. 解説・質疑（40分） 3. 設定した課題に対するグループディスカッションと発表（20分） 4. 解説・質疑・意見交換（10分） 5. リフレクションシートの作成・提出（10分）※授業関連の活動（資料の提示、内容理解確認テストの提出、リフレクションシートの提出等）については、Google Classroomで行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションやネット検索を通して「予習し議論に備える姿勢」「知識を主体的に学ぼうとする姿勢」「考えの異なる人と議論しようとする姿勢」を身につけるとともに、発表により簡潔に分かりやすく他者に意見・説明を伝えることができるようになる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：事前にGoogle Classroomにより提示された資料を読み、内容を要約。要約した内容はGoogle Classroomにより提出する（90分程度）。
・復習：提示された資料、および講義終了時に提出したリフレクションシートを再確認し、必要に応じて提出したリフレクションシートを修正する（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、国際経済経営学部のディプロマポリシーである「国際力、ビジネス力、ホスピタリティ力を修得し、実践力を兼ね備えた人物に学士（経営学）を授与する。」の中のビジネス力およびホスピタリティ力と関連付けられています。また、環太平洋大学のディプロマポリシーであるDP1「他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」、DP2「専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」、DP3「課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」とも関係しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、内容理解確認小テスト 15%、グループディスカッションへの貢献度 20%、リフレクションシートの提出 15%、最終課題 30%

<教科書>

<参考書>

田原俊司（2010年12月1日） 心の健康相談室 健学社
田原俊司（2017年3月1日） 心の健康教育 健学社
田原俊司（2020年12月30日） 心の健康教育（中高生用） 健学社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	記憶のメカニズム	記憶と睡眠の関係、睡眠障害
2	感情（情動）(1)	情動と認知、行動との関係
3	感情（情動）(2)	情動のコントロール
4	思考	思考と言語の関係、外言、内化
5	発達心理(1)	受精～乳児期
6	発達心理(2)	幼児期～児童期
7	発達心理(3)	青年期、成人期、老年期
8	臨床心理(1)	DSM-5、および心身相関
9	臨床心理(2)	うつ症状と対応
10	臨床心理(3)	適応障害と対応
11	パーソナリティ心理(1)	パーソナリティとA群パーソナリティ障害への対応
12	パーソナリティ心理(2)	B群パーソナリティ障害への対応
13	パーソナリティ心理(3)	C群パーソナリティ障害への対応
14	社会心理	リーダーシップと認知的斉合性

15	まとめ	1 ～14回の学習内容を最終課題として提出
16		

科目コード	T110302				区 分	教養			
授業 科目名	コミュニケーションの心理学				担当者名	田原 俊司			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、日常生活や社会生活における人間関係、集団行動、社会現象や社会的問題等について、個体内、対人、小集団、公衆、組織、マスといった各コミュニケーションレベルの観点から、思考の発生や対人関係、組織・社会と個人の関係のあり方について学ぶ。具体的には、コミュニケーションの基礎概念を学んだ上で、人間関係を円滑にする方法、異文化コミュニケーション、コミュニケーションが困難となる諸症状と改善法などについて、自分の問題として取り組みことができるようになることを目指す。

<授業の到達目標>

・事前学習にしっかりと取り組み、講義内容で「分かること」と「分からないこと」を区別できるようになる。・解説やグループディスカッション、発表を通して「なぜそうなのか？」を理解し、他者に説明できる。・日常生活や社会生活において本講義で得られた知見を活用・応用し、実践できるようになる。

<授業の方法>

1. 出席確認と事前提示資料の内容理解確認小テスト(10分) 2. 解説・質疑(40分) 3. 設定した課題に対するグループディスカッションと発表(20分) 4. 解説・質疑・意見交換(10分) 5. リフレクションシートの作成・提出(10分) ※授業関連の活動(資料の提示、内容理解確認テストの提出、リフレクションシートの提出等)については、Google Classroomで行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションやネット検索を通して「予習し議論に備える姿勢」「知識を主体的に学ぼうとする姿勢」「考えの異なる人と議論しようとする姿勢」を身につけるとともに、発表により簡潔に分かりやすく他者に意見・説明を伝えることができるようにする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：事前にGoogle Classroomにより提示された資料を読み、内容を要約。要約した内容はGoogle Classroomにより提出する(90分程度)。・復習：提示された資料、および講義終了時に提出したリフレクションシートを再確認し、必要に応じて提出したリフレクションシートを修正する(90分程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、国際経済経営学部のディプロマポリシーである「国際力、ビジネス力、ホスピタリティ力を修得し、実践力を兼ね備えた人物に学士(経営学)を授与する。」の中の国際力、ビジネス力、ホスピタリティ力と関連付けられています。また、環太平洋大学のディプロマポリシーであるDP1「他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」、DP2「専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」、DP3「課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」とも関係しています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、内容理解確認小テスト 15%、グループディスカッションへの貢献度 20%、リフレクションシートの提出 15%、最終課題 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーションの基礎概念	コミュニケーションモデル、コミュニケーションの類型・レベル
2	対人コミュニケーションと組織、マスコミュニケーション	対人、組織、マスの各コミュニケーションにおける準・非コミュニケーションの役割
3	コミュニケーションを円滑にする方法(1)	コミュニケーション能力を高める自己分析、コミュニケーション能力を高めるメリット
4	コミュニケーションを円滑にする方法(2)	言語・非言語コミュニケーション、伝える力・聞く力、コミュニケーションの前提と4つのステップ
5	コミュニケーションを円滑にする心理学の知見(1)	類似性の法則、ミラーリング効果、ラベリング効果、ウィンザー効果、吊り橋効果
6	コミュニケーションを円滑にする心理学の知見(2)	開放性の法則、返報性の法則、ピグマリオン効果、ザイオンス熟知性の法則、メラビアンの法則
7	コミュニケーションにおいて知っておきたいテクニック(1)	傾聴、ペーシング、バックトラッキング
8	コミュニケーションにおいて知っておきたいテクニック(2)	5W1Hの意識化、例え話や比喩の活用、他者視点
9	人間関係を円滑にするための工夫(1)	人間関係におけるストレス対応、プライベートな話題への距離感、話のスピードやリズム

10	人間関係を円滑にするための工夫(2)	対人関係における距離感（期待やリセットなど）、相手の利点を見つける努力 異文化コミュニケーションの意味、失敗事例、必要なこと・大切なこと、成功させるコツ アタッチメント、アタッチメントスタイル 発達障害、社会不安障害、PTSD 統合失調症、パーソナリティ障害、うつ、双極性障害 1～14回の学習内容を最終課題として提出
11	異文化コミュニケーション	
12	コミュニケーション、対人関係の発達心理学	
13	コミュニケーションが困難な諸症状(1)	
14	コミュニケーションが困難な諸症状(2)	
15	まとめ	
16		

科目コード	T110303				区 分	教養			
授業 科目名	人間と法				担当者名	伊藤 敦司			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

私達の生活は常に法との関わりをもっている。将来、いかなる方面、また、どのコースに進むにせよ、法と無縁ということは考えられない。もちろん、関わりを有するであろう法を全て知ることはできないし、また、その必要もない。むしろ重要なことは、法的な考え方を身につけることである。本講義においては、各種の問題の分析を通じて、そこでの法的な問題点、解決のための考え方を身につけることを目的とする。できるだけ、具体的な事例等を用いながら、分かりやすく講義を進めたいと考えている。

＜授業の到達目標＞

法学の授業の目的は、単に法知識を取得することではない。われわれの前には、結論の明らかではない多数の問題が存在し、それに対処していかなければならない。その際、適格に問題の所在を認識し、いろいろな要素を勘案しながら、最も妥当な解決を導く必要があり、そのような能力を身につけていくことが目的である。専門的には「リーガルマインド」と呼ばれている。このような能力はどのような分野でも必要となる。興味をもてるいろいろな出来事や問題の分析を通じて、冷静に、かつ論理的に考察し、適切な解決のための能力を養うことを目的としていく。

＜授業の方法＞

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは特に指定しない。毎回、授業の最後に、授業のまとめや意見を書いてもらう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

具体的な出来事等をもとに、学生諸君と討論する時間を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

第1回 （予習）（60分）身近な出来事や報道を通じて、法と関わりを考えてまとめること。 （復習）（180分）予習で考えた事柄につき、授業や参考書等を手掛かりに、法的な問題を分析し、自分の考えをまとめておくこと。第2回 （予習）（60分）自分の身近にある法をできる限り調べたうえで、疑問点や意見をまとめておくこと。 （復習）（180分）法の意義・種類・存在形式等について、授業や参考書等を手掛かりに整理し、自分の考えをまとめておくこと。第3回 （予習）（60分）胎児から出生における法的な問題をできる

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

DP 3 課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。DP 4 地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。DP 5 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト（課題提出）4 0 %、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）6 0 %により総合的に評価する。詳細については、第1回目の授業の際に説明する。

＜教科書＞

＜参考書＞

池田 真朗他（2025年03月発売） 『法の世界へ 第10版』 有斐閣
松井 茂記他（2025年04月発売） 『はじめての法律学 ― HとJの物語 第7版』 有斐閣
東京大学法学部「現代と法」委員会（2024年09月発売） 『いま、法学を知りたい君へ ― 世界をひろげる13講』 有斐閣

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	はじめに①	法を学ぶことの意味 人間と法の関わり 人間の多様性を反映して※時事的な問題を取り上げるため、以下の予定は若干変更する場合もある。
2	はじめに②	法とは何か 法的思考とは何か
3	人間として①	胎児から人へ 権利能力、胎児の法的地位 人の始期 民法では 刑法では
4	人間として②	成人を迎えて 権利能力・意思能力・行為能力 未成年者の行為 契約、営業、犯罪
5	人間として③	結婚と離婚 婚姻適齢、再婚禁止期間 男女間の不平等の克服 夫婦同姓 選択的夫婦別姓制度の是非 離婚をめぐり
6	人間として④	高齢から死亡へ① 認知症による能力欠如 人の死とは 臓器移植法 相続をめぐり
7	社会の構成員として①	国家との関係 憲法の最高法規性 違憲立法審査権 憲法の基本原理 基本的
8	社会の構成員として②	人権の保障 三権分立と司法権の独立
9	社会の構成員として③	犯罪と刑罰① 犯罪とは？ なぜ処罰されるべきか？ 捜査から有罪確定まで
10	社会の構成員として④	犯罪と刑罰② 刑罰の種類 拘禁刑への一本化 死刑制度の是非
11	企業の構成員として①	企業とは① 企業との関わり 会社とは 株式会社の特色①
12	企業の構成員として②	企業とは② 株式会社の特色②”

12	企業の構成員として③	企業取引と法
13	消費者として①	契約とは 契約の拘束力 違反した場合は 代理人による契約
14	消費者として②	消費者の保護 真意と表示の祖語 消費者契約法
15	全体のまとめ	法的思考を今後に生かす
16		

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	池島 政広／小川 千尋			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	董 航／馬場 哲也			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	鈴木 達郎／糟谷 崇			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	上田 隆穂／渡辺 亮			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点を含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	藪内 正樹／古賀 敢人			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	田原 俊司／浜崎 統			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	栗本 育三郎／安井 良彰			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる

科目コード	T110402				区 分	教養科目/キャリア領域			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	Everett Ofori／武末 朝生			
配当年次	2年	配当学期	2通	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、大学における学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを描くための力を養うことを目標とする。具体的には、大学での学びの基礎力向上、明確な将来像の獲得、行動力を身につけるという3つの要素を柱として学習を進めていく。本科目を受講することで、学生は大学での学びの基礎を固め、将来のキャリアデザインを具体的に描けるようになり、目標達成に向けて主体的に行動する力を身につけることができる。

<授業の到達目標>

1. 大学における学びの基礎を理解し、能動的な学習姿勢を身につける。2. キャリアデザインの基礎を理解し、将来像を具体的に描けるようになる。3. 将来像の実現に向けた具体的な行動計画を立て、実行できる。

<授業の方法>

大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うためのスタディスキルについて解説すると同時に、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどといった方法も導入する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

加えて、Google ClassroomなどのLMSや、CANVAなどのビジュアルコミュニケーションプラットフォームを授業資料の配布、課題の提出、学生間のコミュニケーションなどに活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の授業テーマに関する文献や資料を読み、授業内容を理解する。（各回2時間、計30時間）復習：授業内容を振り返り、理解を深める。また、授業で出された課題や質問について考察する。（各回1時間、計15時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマポリシーである「DP1. 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」「DP5. 異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる」に関連している。多文化共生社会の実現には、異文化理解やコミュニケーション能力が不可欠であり、本授業はそのための基礎的な知識とスキルを養うことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、クラス共創度20%、中間試験30%（計2回、1回につき15%）、期末試験30%（計2回、1回につき15%）
※試験結果やレポート、プレゼンテーションについては、採点后、具体的なフィードバックを行う。フィードバックは、理解が不十分な点や改善点などを含め、今後の学習に役立つような内容とする。

<教科書>

トム・ラス（著）、古屋博子（翻訳）（2017/4/13） さあ、才能（じぶん）に目覚めよう 新版 ストレngth・ファインダー2.0 日本経済新聞出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	本科目の開講意義やその内容設定について理解する
2	効果的な学習法	講義内容の整理術、効率的な予習・復習方法、試験対策などを知る
3	情報リテラシー	情報収集、分析、発信のための方法を知る
4	論理的思考力	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの基本を知る
5	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションスキルの構成や資料作成、話し方を知る
6	文章表現力	レポート作成の基本や文章表現のポイントを知る
7	グループワーク	グループワークの意義やチーム役割、議論の進め方を知る
8	中間試験	1－7回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
9	時間管理術	時間管理の重要性や管理ツールなどを知る
10	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの原因や解消法を知る
11	図書館活用術	図書館の有効活用方法やデータベースの検索方法を知る
12	ICT活用	大学のICT環境や学習支援システムを知る
13	自己成長力	15の自己成長力を知る
14	留学・語学	留学の種類や準備を知る
15	期末試験	9－14回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
16	キャリアビジョン	キャリアデザインの重要性和キャリアビジョンを考える
17	自己分析①	自分自身の興味関心、価値観、強み、弱みを明確にする
18	自己分析②	過去の経験を振り返り、自分の特性を理解する
19	職業研究	様々な職業、業界、働き方について調べる

20	キャリアデザイン	自己分析と職業研究の結果を踏まえ、将来のキャリアプランを考える
21	OB/OG交流会	実際に社会で活躍する卒業生を招き、キャリア経験やアドバイスを聞く
22	模擬面接	面接対策（自己PR、志望動機、質疑応答）を考える
23	中間試験	16-22回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる
24	目標設定	長期目標、中期目標、短期目標を設定し、目標達成に必要なスキル、経験、知識を明確にする
25	計画力	ガントチャート、プロジェクト管理ツールを活用する
26	タイムマネジメント	時間管理の重要性や管理ツールを知る
27	コミュニケーション力	相手に分かりやすく伝える力とそのための考える力について考える
28	行動力を高める方法	モチベーション維持の方法を考える
29	AI時代に必要な六大能力	AI時代を生きるに必要な6つの能力を知る
30	期末試験	24-29回で勉強した内容を振り返って、自らの言葉でまとめる